

東野中畝遺跡

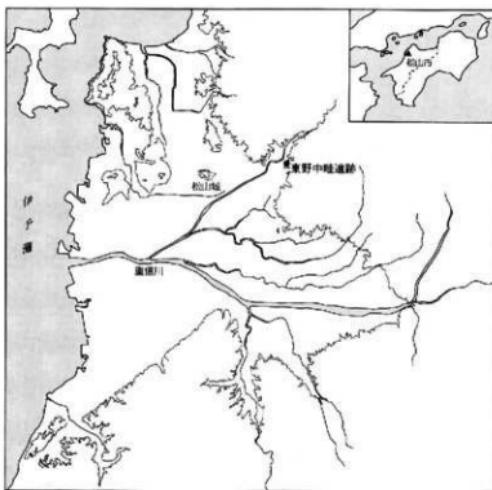
2 0 0 1

松山市教育委員会

財団法人 松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

ひがし の なか あぜ
東野中畦遺跡



2 0 0 1

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



卷頭図版1 桑原地区一帯（北より）



卷頭図版2 C区2号填塗状況（西より）



卷頭図版3 C区2号填塗室内敷石検出状況（南より）



卷頭圖版4 C区 2号填石室内出土遺物

序

本報告書は、平成11年度に松山市教育委員会文化教育課と財團法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが桑原地区の東野町において緊急発掘調査した遺跡についての調査報告書です。

松山平野の中央を西流する石手川の南岸に位置する桑原地区の遺跡は、近年の急増する宅地開発に伴う事前調査によって、古墳時代における当地域の特性が次第に明らかになってきました。

桑原地区には、溝辺古墳群、東野古墳群、東野お茶屋台古墳群、畠寺竹ヶ谷古墳群、畠寺古墳群などがあり、東野町より畠寺町の丘陵にかけて数多くの古墳が存在しています。

今回報告します東野中畦遺跡は、古墳時代から近・現代遺構と、弥生時代から近・現代の遺物を確認し、記録にとめることができ、後世に伝える新たな資料を作成することができました。

こうした成果をあげることができましたのも、市民の皆さまの埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力のお陰と感謝いたしております。今後ともなお一層のご指導、ご助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

また、本書が埋蔵文化財調査研究の一助となり、ひいては文化財保護、教育文化の向上に寄与できることと願っております。

平成13年3月31日

財團法人 松山市生涯学習振興財團

理事長 中村時広

例　　言

1. 本書は、松山市教育委員会、財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが平成11年4月～同年9月に実施した松山市東野三丁目乙201-10に所在する東野中畦遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構は呼称名を略号化して記述し、土坑墓：SKとした。
3. 遺物の実測・製図、遺構の製図は水本完児と梅木謙一の指示のもと、水口あをい、山下満佐子、平岡直美、大西陽子、森田利恵、越智令子、山之内聖子、吉岡智美が行った。
4. 遺構図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。
5. 本書に使用した方位は真北である。
6. 遺構の撮影は水本完児、大西朋子が行い、遺物の撮影は大西朋子が担当した。
7. 耳環の科学的分析は、財団法人元興寺文化財研究所に依頼した。くわえて、耳環に関する諸々の指導と助言を得た。
8. 本書にかかわる遺物・記録類は、松山市立埋蔵文化財センターで収蔵・保管している。
9. 本書の執筆は、水本完児が事実報告をし、第12章および第14章は梅木謙一が、第13章は宮内慎一が考察を担当した。
10. 本書の編集は、水本完児が行い、梅木謙一と水口あをいの協力を得た。
11. 製版　　カラー写真・写真図版-135線
印刷　　オフセット印刷
用紙　　カラー写真・本文　マットコート
写真　　図版マットコート
製本　　アジロ綴じ

本文目次

第1章 はじめに	[水本] … 1
1. 調査に至る経緯 2. 調査・刊行組織	
第2章 遺跡の概要	[タ] … 4
1. 遺跡の立地 2. 歴史的環境	
第3章 試掘調査	[タ] … 8
1. 経過 2. 調査 3. 調査の結果	
第4章 調査の概要	[タ] … 24
1. 調査の経過 2. 土層	
第5章 A区の調査	[タ] … 29
1. 概要 2. 遺構	
第6章 B区の調査	[タ] … 32
1. 概要 2. 遺構	
第7章 C区の調査	[タ] … 34
1. 概要 2. 遺構 3. C区表採遺物	
第8章 D区の調査	[タ] … 42
1. 概要 2. 遺構	
第9章 E区の調査	[タ] … 44
1. 概要 2. 遺構	
第10章 F区の調査	[タ] … 47
1. 概要 2. 遺構 3. 表採品 4. 出土遺物観察表	
第11章 東野中畦遺跡出土耳環の自然科学的調査	〔助元興寺文化財研究所〕 … 50
第12章 松山市埋蔵文化財センター保管の耳環	〔梅木〕 … 52
第13章 桑原地区の古墳出土資料	〔宮内〕 … 57
第14章 調査の成果と課題	〔水本・梅木〕 … 75

挿 図 目 次

第1図	松山平野の遺跡分布図（縮尺1/200,000）	4
第2図	調査地周辺の遺跡分布図（縮尺1/25,000）	7
第3図	試掘トレンチ位置図（縮尺1/500）	9
第4図	T 1～T 7土層図(1)（縮尺1/40）	13
第5図	T 8～T 14土層図(2)（縮尺1/40）	15
第6図	T 15～T 21土層図(3)（縮尺1/40）	17
第7図	T 22～T 28土層図(4)（縮尺1/40）	19
第8図	T 29～T 35土層図(5)（縮尺1/40）	21
第9図	T 36～T 41土層図(6)（縮尺1/40）	23
第10図	調査位置図（縮尺1/2,500）	25
第11図	調査区測量図（縮尺1/400）	27
第12図	A区位置図（縮尺1/800）	29
第13図	A区測量図（縮尺1/50）	30
第14図	A区SK1測量図・出土遺物実測図（縮尺1/30・1/3）	31
第15図	B区位置図（縮尺1/800）	32
第16図	B区測量図・出土地点不明遺物実測図（縮尺1/100・1/3）	33
第17図	C区位置図（縮尺1/800）	34
第18図	C区測量図（縮尺1/150）	35
第19図	C区2号墳測量図(1)（縮尺1/50）	36
第20図	C区2号墳測量図(2)（縮尺1/50）	37
第21図	C区2号墳測量図(3)・遺物出土状況（縮尺1/30）	38
第22図	C区2号墳出土遺物実測図（縮尺1/3・1/1）	39
第23図	C区2号墳周溝測量図・遺物出土状況（縮尺1/40）	40
第24図	C区出土遺物実測図（縮尺1/3）	41
第25図	D区位置図（縮尺1/800）	42
第26図	D区測量図（縮尺1/100）	43
第27図	E区位置図（縮尺1/800）	44
第28図	E区測量図（縮尺1/60）	45
第29図	E区1号墳測量図（縮尺1/40）	46
第30図	F区位置図（縮尺1/800）	47
第31図	F区測量図（縮尺1/100）	48
第32図	出土地点不明遺物実測図（縮尺1/3）	48
第33図	顕微鏡写真・ケイ光X線分析	51
第34図	桑原地区の主要古墳分布図（縮尺1/25,000）	57
第35図	東野お茶屋台古墳出土遺物実測図(1)（縮尺1/3）	59
第36図	東野お茶屋台古墳出土遺物実測図(2)（縮尺1/3）	60

第37図 東野お茶屋台古墳出土遺物実測図(3) (縮尺1/3)	61
第38図 煙寺竹ヶ谷古墳出土遺物実測図(1) (縮尺1/3)	63
第39図 煙寺竹ヶ谷古墳出土遺物実測図(2) (縮尺1/3)	64
第40図 煙寺6号墳出土遺物実測図 (縮尺1/3)	65
第41図 溝辺1号墳出土遺物実測図(1) (縮尺1/3)	67
第42図 溝辺1号墳出土遺物実測図(2) (縮尺1/3)	68

表 目 次

表1 調査区一覧	26
表2 耳環の法量	50
表3 松山市埋蔵文化財センター保管の耳環	53
表4 東野お茶屋台古墳出土遺物観察表土製品	70
表5 煙寺竹ヶ谷古墳出土遺物観察表土製品	71
表6 煙寺6号墳出土遺物観察表土製品	72
表7 溝辺1号墳出土遺物観察表土製品	73

写 真 目 次

写真1 A区掘削状況（北西より）	29
写真2 C区掘削状況（北より）	34
写真3 D区掘削状況（北西より）	42
写真4 E区掘削状況（北西より）	44

写真図版目次

卷頭図版1 桑原地区一帯（北より）	
卷頭図版2 C区2号墳完掘状況（西より）	
卷頭図版3 C区2号墳石室内敷石検出状況（南より）	
卷頭図版4 C区2号墳石室内出土遺物	
図版1. 1 調査地全景（東より）	
図版2. 1 調査前全景(1)（南東より）	2 調査前全景(2)（北西より）
図版3. 1 試掘調査(1)（南東より）	2 試掘調査(2)（北東より）
図版4. 1 T1完掘状況（西より）	2 T2完掘状況（西より）
3 T3完掘状況（南西より）	4 T3石列検出状況（南より）

- | | | | |
|-------|------------------------------|---|----------------------|
| 5 | T 4 完掘状況 (1) (南より) | 6 | T 4 完掘状況 (2) (北より) |
| 7 | T 5 完掘状況 (北より) | 8 | T 6 石列検出状況 (南より) |
| 図版5. | 1 T 7 完掘状況 (南西より) | 2 | T 7 石列検出状況 (南より) |
| | 3 T 8 完掘状況 (南西より) | 4 | T 9 完掘状況 (南西より) |
| | 5 T 9 完掘状況 (北西より) | 6 | T 10 完掘状況 (北より) |
| | 7 T 12 完掘状況 (西より) | 8 | T 13 完掘状況 (北より) |
| 図版6. | 1 T 14 完掘状況 (北西より) | 2 | T 15 完掘状況 (北より) |
| | 3 T 16 完掘状況 (西より) | 4 | T 17 完掘状況 (西より) |
| | 5 T 18 完掘状況 (1) (西より) | 6 | T 18 完掘状況 (2) (北西より) |
| | 7 T 19 遺物出土状況 (西より) | 8 | T 20 完掘状況 (西より) |
| 図版7. | 1 T 21 完掘状況 (東より) | 2 | T 21 石列検出状況 (西より) |
| | 3 T 23 完掘状況 (北より) | 4 | T 24 完掘状況 (北より) |
| | 5 T 25 完掘状況 (東より) | 6 | T 38 完掘状況 (南より) |
| | 7 T 39 完掘状況 (南西より) | 8 | T 40 完掘状況 (西より) |
| 図版8. | 1 本格調査 (北より) | 2 | 完掘状況 (東より) |
| 図版9. | 1 掘削状況 (東より) | 2 | B 区: 土層 (北より) |
| 図版10. | 1 A 区 完掘状況 (北より) | 2 | A 区 S K 1 完掘状況 (南より) |
| 図版11. | 1 B 区 完掘状況 (北より) | 2 | B 区 3 号墳周溝完掘状況 (西より) |
| 図版12. | 1 C 区 2 号墳完掘状況 (北より) | 2 | C 区 南壁土層 (北より) |
| 図版13. | 1 C 区 2 号墳石室内玉石・敷石検出状況 (南より) | | |
| | 2 C 区 2 号墳石室内遺物出土状況 (東より) | | |
| 図版14. | 1 C 区 2 号墳石室内敷石検出状況 (南より) | | |
| | 2 C 区 2 号墳石室内完掘状況 (南より) | | |
| 図版15. | 1 C 区 2 号墳周溝内遺物出土状況 (北東より) | | |
| | 2 C 区 2 号墳周溝完掘状況 (東より) | | |
| 図版16. | 1 E 区 1 号墳石室内崩落石検出状況 (南より) | | |
| | 2 E 区 1 号墳完掘状況 (南より) | | |
| 図版17. | 1 D 区 遺構検出状況 (南より) | 2 | F 区 完掘状況 (北より) |
| 図版18. | 1 A 区 S K 1 出土遺物 | 2 | B 区 出土遺物 |
| | 3 出土地点不明遺物 | | |
| 図版19. | 1 C 区 2 号墳出土遺物 | | |
| 図版20. | 1 1 号土器棺内出土遺物 (骨) | | |

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

1998（平成10）年7月、松山市公営企業管理者松下弘志氏より、松山市東野三丁目乙201-10における上水道配水池建設にあたり、当該地の埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課（以下、文化教育課）に提出された。申請地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地外にあたるが、『No.78 東野古墳群』に接して西隣に所在している。

申請地の北0.4kmには溝辺古墳群があり、2基の円墳が確認されている。遺物は須恵器・土師器・玉類・鉄製品が出土し、時期は6世紀前半に比定される。東0.5kmの東野古墳群には、踏査により8基の古墳が確認されているが、墳形や時期は不明である。南西0.4kmの東野お茶屋台古墳群は、円墳が8基、方墳が1基で構成されている。遺物は円筒埴輪・形象埴輪・須恵器・鉄器類が出土し、古墳群の時期は5世紀中葉～6世紀初頭と考えられている。南西0.8kmの畠寺竹ヶ谷古墳群は、9基の円墳で構成され、遺物は鉄製大刀と須恵器が出土し、時期は5世紀後半に比定される。南西1.3kmの畠寺古墳群では、6基の古墳を確認しているが、このうち1基は円墳で、遺物は須恵器と円筒埴輪とが出土し、時期は6世紀中葉～後半に比定されている。このように、東野町～畠寺町の丘陵には多くの古墳が存在し、松山平野でも有数の古墳密集地帯である。

のことから、当該地における埋蔵文化財の有無と、さらには遺跡の範囲や性格を確認する必要があるため、1998（平成10）年11月2日～1999（平成11）年2月20日に文化教育課は試掘調査を実施した。試掘調査は、調査地内にT1～T41の計41本のトレチを設定し、古墳の確認と堆積土層の確認を行なった（第3図）。

試掘調査の結果、T3・4・6・7からは石組、T8～10・21からは溝を検出した。また、T19からは完形の壺形土器1点と、T21からは土器片が出土した。

これらの結果を受け、文化教育課と申請者の両者は遺跡の取り扱いについての協議を重ね、上水道配水池建設に伴って消失する遺跡に対し、記録保存のための発掘調査を実施することになった。発掘調査は、古墳の築造方法の解明と、当地周辺に存在する古墳群との関係把握を調査の主目的とし、文化教育課の指導のもと、財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが主体となり、T3・4・6～10・19・21を中心調査を実施した。

なお、本格調査は、T19を中心とした範囲をA区、T21を中心とした範囲をB区、T8～10・41を中心とした範囲をC区、T6を中心とした範囲をD区、T7を中心とした範囲をE区、T3を中心とした範囲をF区と称した。

2. 調査・刊行組織

調査地 松山市東野三丁目乙201-10
 遺跡名 東野中畦遺跡
 調査期間 試掘調査 1998（平成10）年11月2日～1999（平成11）年2月20日
 野外調査 1999（平成11）年4月1日～同年9月30日
 室内調査 1999（平成11）年10月1日～2001（平成13）年3月31日
 調査面積 7347.8m²（対象面積）

【調査組織】（平成10年度）

松山市教育委員会	教育長	池田 尚郷
事務局	局長	大野 嘉幸
	次長	岩本 一夫
	次長	丹下 正勝
文化教育課	課長	松平 泰定
財団法人松山市生涯学習振興財團	理事長	田中 誠一
	事務局長	池田 秀雄
	事務局次長	河口 雄三
埋蔵文化財センター	所長	河口 雄三
	次長	田所 延行
	調査係長	田城 武志
	調査主任	栗田 正芳（文化教育課職員）
	調査員	河野 史知

（平成11年度）

松山市教育委員会	教育長	池田 尚郷
事務局	局長	大野 嘉幸（4月1日～）
事務局	局長	園上 和歌（5月12日～）
	次長	森脇 将
	次長	赤星 忠男
文化教育課	課長	松平 泰定
財団法人松山市生涯学習振興財團	理事長	田中 誠一（4月1日～）
理事長職務代理者副理事長	理事長	岩田 知也（5月1日～）
	理事長	中村 時広（6月1日～）
	事務局長	二宮 正昌
	事務局次長	河口 雄三

調査・刊行組織

埋蔵文化財センター	所長	河口 雄三
	次長	田所 延行
	調査係長	田城 武志
	調査主任	栗田 正芳 (文化教育課職員)
	調査員	梅木 謙一
		水本 完児

【刊行組織】(平成12年度) (平成12年3月31日現在)

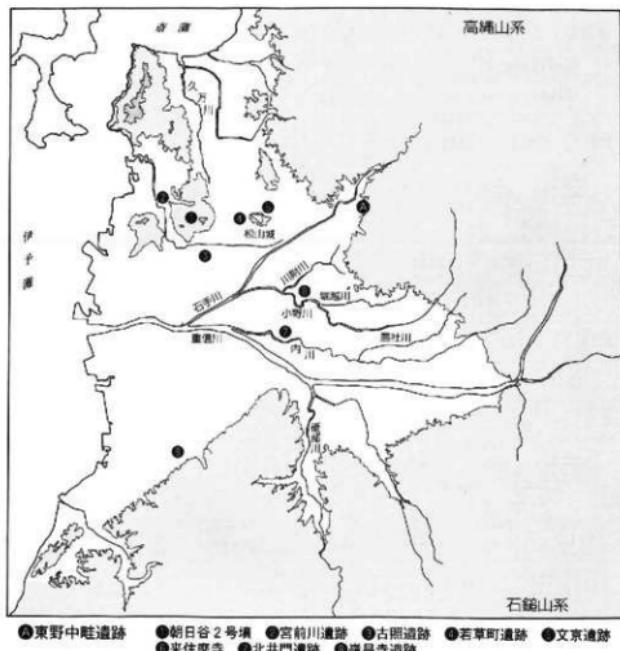
松山市教育委員会	教育長	中矢 陽三
事務局	局長	園上 和敬
	局長付参事	森脇 将
	次長	赤星 忠男
文化教育課	課長	馬場 洋
財團法人松山市生涯学習振興財團	理事長	中村 時広
	事務局長	二宮 正昌
	事務局次長	江戸 孝
	事務局次長	森 和朋 (8月1日~)
埋蔵文化財センター	所長	中川 隆
	専門監	野本 力
	調査係長	田城 武志
	調査主任	栗田 正芳 (文化教育課職員)
	調査員	梅木 謙一
		水本 完児
		大西 朋子

第2章 遺跡の概要

1. 遺跡の立地

松山平野は、愛媛県のはば中央部に位置し、伊予灘と高瀬川に面し、南東部には石鎚山系、北部には高繩山系が聳える。松山平野中央部から東部には、一級河川の重信川とその支流である石手川が流れている。二つの河川は、高繩山地と石鎚山に水源を発し、開析谷を形成しながら平野を流れ、平野西部で石手川が重信川に合流した後、西方の伊予灘に流れる。よって、平野西部で扇状地堆積物や氾濫源堆積物、三角洲堆積物等から形成されている。

本遺跡群が属する松山市桑原地区は、石手川がつくる扇状地の扇央にあり、樽味遺跡（愛媛大学農学部）をはじめとして弥生時代から中世に至る遺跡が数多く存在している。また、その背後には高繩半島につづく丘陵地があり、この丘陵中に本遺跡は所在する。



第1図 松山平野の遺跡分布図 (S = 1:200,000)

2. 歴史的環境

桑原地区は、扇状地上や中位段丘上に集落が、丘陵上に古墳群が形成されている。以下、主な遺跡についてその概要を時代別に記述する。

旧石器時代

松山平野においては、旧石器時代の明確な遺構は確認されていない。ただし、樽味遺跡〔宮本一夫1989〕、樽味四反地遺跡〔梅木謙一1992〕にはポケット状に堆積したAT火山灰（23,000年前）が検出され、東本遺跡（4次）〔高尾和長1996〕にはAT火山灰の一次堆積層が確認されている。

縄文時代

東本遺跡（4次）からは、アカホヤ火山灰（6,300年前）が確認され、堆積層直上からは槍先形石器、石鏃、スクレイバーなどの石器類が出土している。ところが、これまでに遺構の検出はなく、調査課題になっている。

弥生時代

縄文時代から弥生時代には、樽味遺跡において弥生時代前期前半の溝SD4と、それに続く時期の貯蔵穴土坑SK5が確認されている。遺物は、樽味四反地遺跡3次で木葉文をもつ壺の破片が出土しており、広い範囲で集落經營が行われた可能性をもつ〔宮本一夫1989〕。

後期後半になると遺跡数が急増する。この時期の遺跡には、桑原高井遺跡、東本遺跡をはじめとして、桑原田中遺跡、桑原稻葉遺跡、樽味四反地遺跡、樽味立添遺跡、樽味高木遺跡〔梅木謙一1992〕などがあり、当時の集落構造や住居形態などが解明されつつある。桑原高井遺跡では竪穴住居址5棟が検出され、住居址には円形と方形の2種類があり、壁体に沿って周溝が巡る構造をもつ。特に2号住居址は、平面形態が六角形を思わせるような円形を呈し、柱穴は中心部に1本と壁体に沿って6本の計7本からなり、ベット状施設を付設している〔森光晴1980〕。

東本遺跡2次調査地では、竪穴住居址2棟、掘立柱建物址、土坑等が検出されている〔森光晴1980〕。同遺跡4次調査地においては、一辺が6mをこえる方形の大型住居や、直径が9mをこえる周堤帯を伴う円形の大型住居址が検出されている。ここでは、円形の大型住居址から青銅鏡（破鏡）が1点出土している〔高尾和長1996〕。

このほか、遺構では枝松遺跡5次調査地から円形周溝状遺構を検出している〔河野史知1997〕、遺物では、樽味立添遺跡の包含層（古代までの）より『貨泉』が出土し〔梅木謙一1992〕、樽味高木遺跡3次調査地では、船を描いた線刻画土器が出土しており、古代の船舶構造を考えるうえで重要な資料になっている〔梅木謙一1994〕。

古墳時代

古墳時代では、樽味高木遺跡から十数棟の竪穴式住居址と掘立柱建物址が検出されており、樽味高木遺跡からは5号竪穴住居址と土坑SK5より5世紀代の壺形土器・壺形土器・高环形土器が良好な状態で出土している。桑原本郷遺跡では、5世紀後半の方形竪穴式住居址や掘立柱建物址が検出され、遺物では滑石製の臼玉100点余りが須恵器と共に出土している〔栗田茂敏1987〕。

さて、この地区には、2基の前方後円墳の存在が古くから知られている。経石山古墳は、全長48.5mの前方後円墳で、5世紀末に比定され〔森光晴1986〕、経石山古墳2次調査地では、後円部に伴う周溝を確認している〔河野史知1997〕。三島神社古墳は、経石山古墳の東約300mの地点に存在してい

たが、昭和46年の宅地造成により消滅した。報告によると、初期畿内型の横穴式石室を内部主体に持つ全長約45mの前方後円墳であり、出土遺物から6世紀初頭に比定される〔森光晴1986〕。

一方、桑原地区の東側丘陵部には、畠寺古墳群・東野お茶屋台古墳群・畠寺竹ヶ谷古墳群があり、東野お茶屋台古墳群と畠寺竹ヶ谷古墳群の周溝内からは須恵器や真刀が出土している。近年に調査した畠寺6号墳では、墳丘と円筒埴輪列を確認している〔河野史知1997〕。

古代

樽味四反地遺跡では10世紀代に比定される溝（S D 1・S D 3）が検出され〔宮本一夫1989〕、樽味高木遺跡4次調査地では8世紀代まで機能していた河川を検出している。後者では、河川に先行する土坑や遺物を確認しており、周辺に集落が営まれていたことを推定している〔河野史知1997〕。

中世

桑原田中遺跡3次調査地で検出された土坑は、土坑墓或いは祭祀遺構と考えるものであり、土坑内からは14世紀から15世紀代の土師器の杯や皿が出土している。また、掘立柱建物址からは、柱穴の基底部より錢貨が出土し、「地鎮め」の様子がうかがえた。中世における祭祀遺構の貴重な資料になる〔河野史知1997〕。

樽味遺跡S D 1・S D 2からは14世紀後半、S D 3・S K 5からは15世紀代の土師器が出土している。特に、樽味遺跡S D 1は、集落境界の溝として位置づけられ、中世集落の構造と範囲が知られる資料を得ている〔宮本一夫1989〕。

中世後期の松山平野は河野氏の統治下にあり、湯築城を本拠地としている。この湯築城の近くに位置する桑原地区は河野氏の勢力が強く及んでいたことと考えられている〔田崎博之1993〕。

〔文献〕

- 岸邦夫・長井致秋・大山正風 1973 「並ノ口遺跡調査報告書」 松山市教育委員会
- 栗田茂敏 1987 「桑原本郷遺跡」『松山市埋蔵文化調査年報』 松山市教育委員会
- 宮本一夫 1989 「馬鹿・樽味遺跡」 愛媛大学埋蔵文化財研究室
- 梅木謙 1992 「桑原地区的遺跡」 松山市教育教育委員会・財松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 田崎博之 1993 「樽味遺跡Ⅰ」 愛媛大学埋蔵文化財研究室
- 梅木謙 1994 「桑原地区的遺跡Ⅱ」 松山市教育教育委員会・財松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 高尾和長 1996 「東本遺跡4次調査・枝松遺跡4次調査」 松山市教育教育委員会・財松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 河野史知 1997 「桑原地区的遺跡Ⅲ」 松山市教育教育委員会・財松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター



- | | | | |
|-----------|----------|------------|------------|
| ● 東野中村遺跡 | ● 桑原高井遺跡 | ● 樟味高木遺跡 | ● 三島神社古墳 |
| ● 樟味遺跡 | ● 桑原田中遺跡 | ● 松林遺跡 5 次 | ● 東野お茶屋台古墳 |
| ● 樟味四反地遺跡 | ● 桑原本郷遺跡 | ● 番寺竹ヶ谷古墳群 | |
| ● 東本遺跡 | ● 樟味立添遺跡 | ● 紅石山古墳 | ● 温禁城跡 |

第2図 調査地周辺の遺跡分布図 ($S = 1 : 25,000$)

第3章 試掘調査

1. 経過(第3図)

1998(平成10)年11月2日～1999(平成11)年2月20日に財团法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター(担当調査員河野史知)が試掘調査を行った。試掘調査は、調査地内にT1～T41の計41本のトレンチを設定し、遺構や遺物、包含層の有無を確認した。

1998(平成10)年11月2日、調査区41ヶ所を設定し、T1～T41から順次調査を開始する。調査では、試掘溝の位置図を作成し、人力による掘り下げを行い、平面で遺構や遺物を検出し、土層の分層を行う。その後は土層を記録し、遺構・遺物検出時には半板測量をし、その位置を記録する。最後には清掃し、写真撮影を行い、ひとつのトレンチ調査をおえる。この工程で41ヶ所のトレンチを調査し、1999(平成11)年2月20日に調査を終了する。

2. 調査

(1) 土層(第4～9図)

T1～41で検出土層は、各トレンチ間の関係と遺構を見間違えないことに注意したために、土層は細かく分層し、25層となった。1層 造成土、2層 表土、3層 明黄灰色土、4層 暗灰色土、5層 茶褐色土、6層 暗灰黄色土、7層 黒色土、8層 黄灰色土、9層 暗灰褐色土、10層 明黄灰白土、11層 黄灰褐色土、12層 明黄色土、13層 明黄灰褐色土、14層 灰黄褐色土、15層 灰色砂礫、16層 暗褐色土、17層 暗灰褐色土、18層 灰黄色土、19層 灰褐色土、20層 暗灰褐色土、21層 暗灰褐色粘土質土、22層 灰色土、23層 黄褐色土、24層 黄灰色砂質土、25層 地山となる。

1層：造成土で、厚さ15～155cmを測る。調査区南斜面の北東部から中央部にあり、T3・4・7～9・11～13・22で検出する。近年に重機で造成したものである。

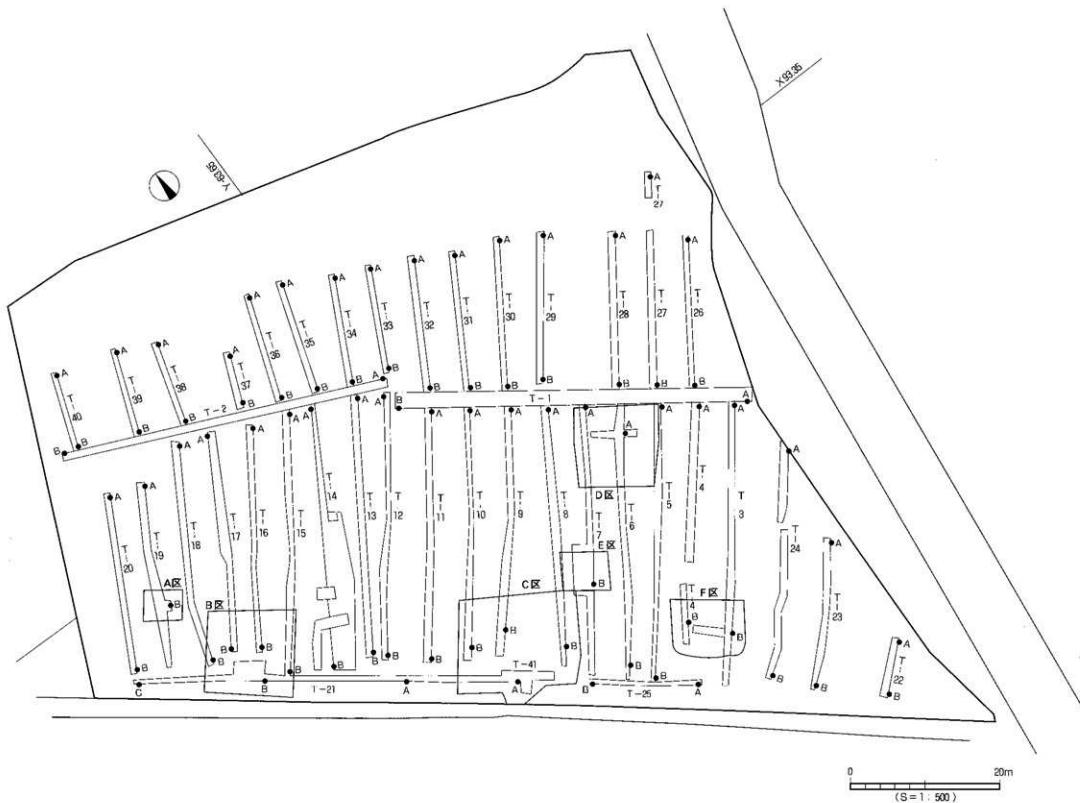
2層：近・現代の表土層で、厚さ5～77cmを測る。調査区ほぼ全域にあり、T1～21・23・24・26～40で検出した。

3層：明黄灰色土で、厚さ5～77cmを測る。調査区北斜面の中央部から東側を除く範囲にあり、T1～5・7～9・11～24・26・37～40で検出する。

4層：暗灰色土で、厚さ5～20cmを測る。調査区南斜面の南端中央部にあり、T25での検出に限られる。

5層：茶褐色土で、厚さ10～40cmを測る。調査区南斜面の南端中央部にあり、T25での検出に限られる。

6層：暗灰黄色土で、厚さ3～13cmを測る。調査区南斜面の中央部と南西部の一部にあり、T10・16で検出する。



第3図 試掘トレンチ位置図

調査

- 7層：黒色土で、厚さ2～5cmを測る。調査区南斜面の中央部にあり、T10での検出に限られる。
- 8層：黄灰色土で、厚さ43～73cmを測る。調査区の南斜面南西部と、北斜面北西部を除き、広く調査地内に分布し、T5・10・17・22・25・27～30・32・33・35～37・41で検出する。
- 9層：暗灰褐色土で、厚さ38～56cmを測る。調査区南斜面の中央部にあり、T11での検出に限られる。
- 10層：明黄灰白土で、厚さ17～30cmを測る。調査区南斜面の南西部にあり、T18での検出に限られる。
- 11層：黄灰褐色土で、厚さ3～45cmを測る。調査区北斜面の北東部を除く調査地内にあり、T5～8・10・16・18～20・22・25・35・40・41で検出する。
- 12層：明黄色土で、厚さ30～40cmを測る。調査区の南斜面南端中央部と、北斜面北側にあり、T32・41で検出する。
- 13層：明黄灰褐色土で、厚さ3～35cmを測る。調査区の南斜面南東部と、北斜面中央部にあり、T7・31で検出する。
- 14層：灰黄褐色土で、厚さ3～70cmを測る。調査区の南斜面南端中央部から西側にあり、T14・17・21・23・24で検出する。
- 15層：灰色砂礫で、厚さ20～40cmを測る。調査区南斜面の中央部にあり、T9での検出に限られる。
- 16層：暗褐色土で、厚さ3～23cmを測る。調査区南斜面の中央部にあり、T9での検出に限られる。
- 17層：暗灰褐色土で、厚さ3～22cmを測る。調査区南斜面の南端中央部から西側と、南斜面の南西部にあり、T14・21で検出する。
- 18層：灰黄色土で、厚さ3～136cmを測る。調査区南斜面の南端中央部から西側と南東部、北斜面の中央部にあり、T3・9・21・23・24・34で検出する。
- 19層：灰褐色土で、厚さ5～53cmを測る。調査区南斜面の南端中央部と、南東部にあり、T3・6・21・23・24・41で検出する。
- 20層：暗灰褐色土で、厚さ3～30cmを測る。調査区南斜面全域にあり、T10・15～17・21・23～25で検出する。
- 21層：暗灰褐色粘質土で、厚さ23～55cmを測る。調査区南斜面の中央部にあり、T12で検出する。
- 22層：灰色土で、厚さ9～12cmを測る。調査区の南斜面の南端中央部から西側にあり、T21・41で検出する。
- 23層：黄褐色土で、厚さ3～27cmを測る。調査区ほぼ全域にあり、T3・8・12～14・17・21・25・26・28・31・32・36～41で検出する。
- 24層：黄灰色砂質土で、厚さ15～20cmを測る。調査区の南斜面南端中央部から東側にあり、T25で検出する。
- 25層：地山である。調査区ほぼ全域で検出した。

(2) トレンチ調査

T 1 (第4図・図版4)

調査区中央の尾根上にあたり、中央部から東側に設定する。トレンチの規模は、幅1.7m、長さ47.0m、深さ17~27cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T 2 (第4図・図版4)

調査区中央の尾根上にあたり、中央部から西側で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.2m、長さ44.5m、深さ30~47cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T 3 (第4図・図版4)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8~5.3m、長さ39.5m、深さ20~234cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、18層灰黄色土、19層灰褐色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構は、19層下部から石組みが出土した。

T 4 (第4図・図版4)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、幅0.6~0.8m、長さ30.6m、深さ17~173cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、25層地山である。遺構は、石組みが出土した。

T 5 (第4図・図版4)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、幅0.5~1.2m、長さ38.1m、深さ34~85cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、8層黄灰色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

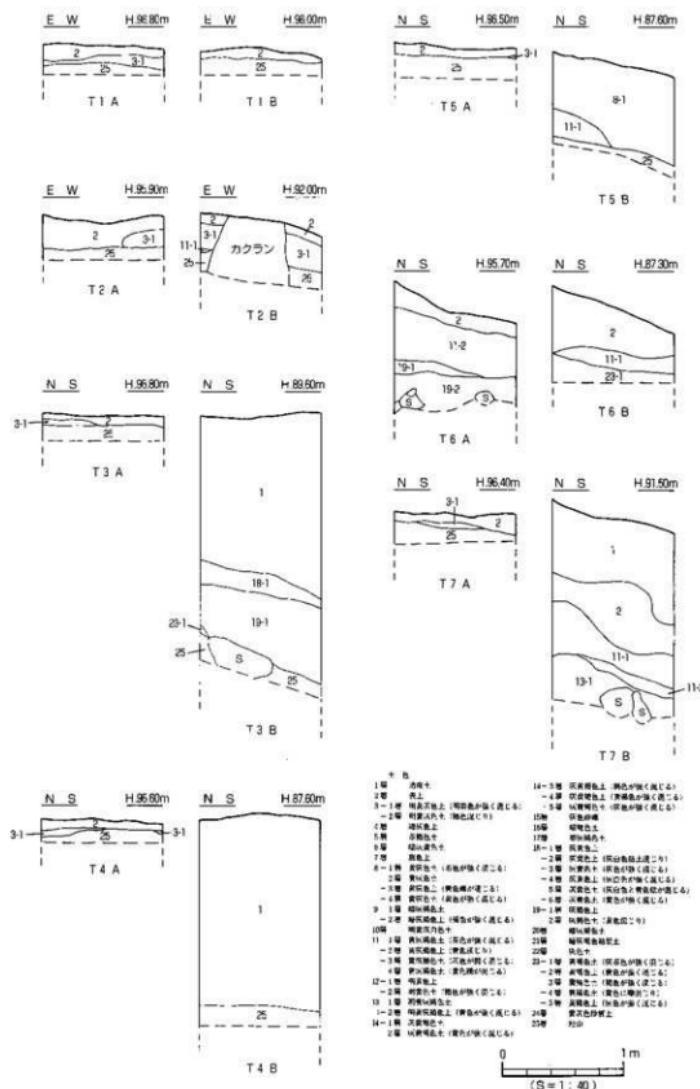
T 6 (第4図・図版4)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8~6.5m、長さ37.5m、深さ40~106cmを測る。検出土層は、2層表土、11層黄灰褐色土、19層灰褐色土、23層黄褐色土である。遺構は、19層中から石組み他が出土した。

T 7 (第4図・図版5)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、幅0.5~2.7m、長さ36.5m、深さ27~165cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、11層黄灰褐色土、13層明黄灰褐色土、25層地山である。遺構は、13層中から石組みが出土した。

測查



第4図 T1～T7 土層図(1)

試 摘 調 査

T 8 (第5図・図版5)

調査区南斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8m、長さ34.9m、深さ20~123cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、11層黄灰褐色土、22層灰色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構は、溝を検出した。

T 9 (第5図・図版5)

調査区南斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8~1.2m、長さ33.3m、深さ27~150cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、15層灰色砂砾、16層暗褐色土、18層灰黄色土、25層地山である。遺構は、溝を検出した。

T 10 (第5図・図版5)

調査区南斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.2m、長さ33.7m、深さ27~90cmを測る。検出土層は、2層表土、6層暗黄灰色土、7層黑色土、8層黄灰色土、9層明灰茶色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺構は、溝を検出した。

T 11 (第5図)

調査区南斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.5~1.0m、長さ33.5m、深さ24~105cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、9層暗灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T 12 (第5図・図版5)

調査区南斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.0m、長さ35.5m、深さ37~113cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、21層暗灰褐色粘質土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

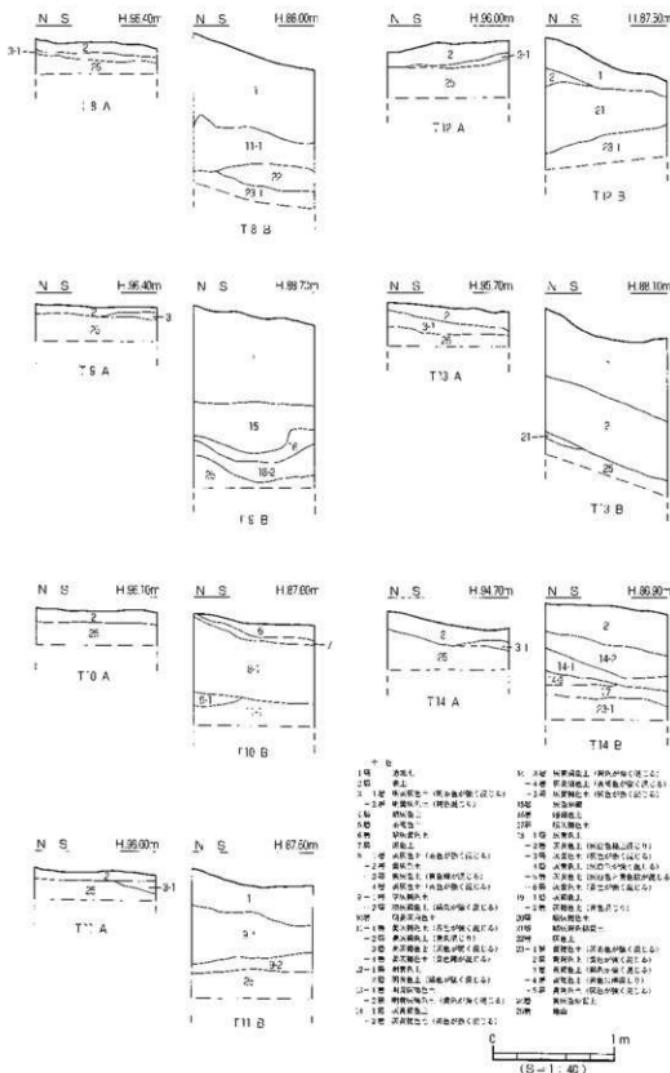
T 13 (第5図・図版5)

調査区南斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.0m、長さ34.3m、深さ26~124cmを測る。検出土層は、1層造成土、2層表土、3層明黄灰色土、21層暗灰褐色粘質土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T 14 (第5図・図版6)

調査区南斜面の南西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~5.5m、長さ34.5m、深さ30~92cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、14層灰黄褐色土、17層暗灰黄褐色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

調査



第5図 T8 ~ T14 土層図 (2)

T15 (第6図・図版6)

調査区南斜面の南西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.2m、長さ33.6m、深さ27~111cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、20層暗灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T16 (第6図・図版6)

調査区南斜面の南西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.6~1.0m、長さ29.8m、深さ23~112cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、6層暗灰黄色土、11層黄灰褐色土、20層暗灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T17 (第6図・図版6)

調査区南斜面の南西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.5~1.0m、長さ28.8m、深さ22~114cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、8層黄灰色土、14層灰黃褐色土、20層暗灰褐色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T18 (第6図・図版6)

調査区南斜面の南西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8m、長さ29.3m、深さ24~92cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、10層明黄灰白色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T19 (第6図・図版6)

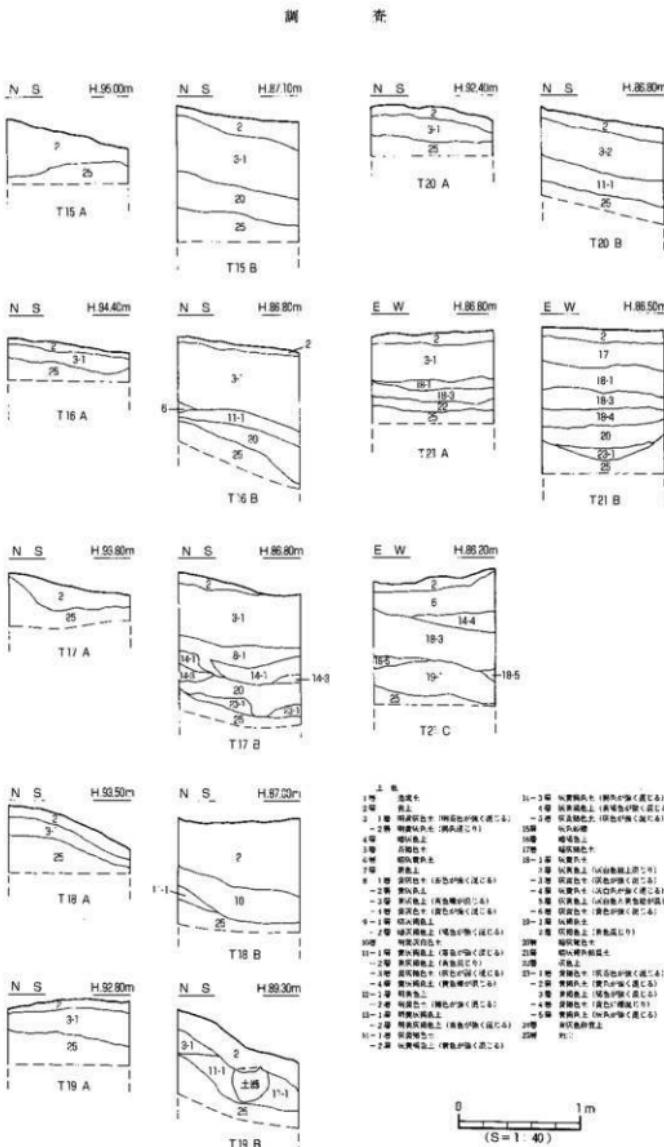
調査区南斜面の南西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~2.2m、長さ24.8m、深さ45~65cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺物は、11層上面から、甕形土器が検出した。

T20 (第6図・図版6)

調査区南斜面の南西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.0m、長さ24.3m、深さ30~79cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T21 (第6図・図版7)

調査区南斜面の南端中央部から西側で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.5m、長さ48.4m、深さ72~112cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、17層暗灰黃褐色土、18層灰黃色土、20層暗灰褐色土、22層灰色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構は溝を検出し、遺物は溝の中から土器片が出土した。



第6図 T15～T21土層図(3)

T22 (第7図)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0m、長さ7.8m、深さ79~117cmを測る。検出土層は、1層造成土、3層明黄灰色土、8層黄灰色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T23 (第7図・図版7)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8m、長さ20.3m、深さ57~150cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、14層黄灰褐色土、18層灰黄色土、19層灰褐色土、20層暗灰褐色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T24 (第7図・図版7)

調査区南斜面の南東部で設定する。トレンチの規模は、検幅0.8~1.0m、長さ32.0m、深さ70~192cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、17層暗灰黄褐色土、18層灰黄色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T25 (第7図・図版7)

調査区南斜面の南端中央部から東側で設定する。トレンチの規模は、幅0.4~0.7m、長さ15.0m、深さ82~122cmを測る。検出土層は、4層暗灰色土、5層茶褐色土、9層暗灰褐色土、11層黄灰褐色土、23層黄褐色土、24層黄灰色砂質土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T26 (第7図)

調査区北斜面の北東部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0m、長さ20.5m、深さ36~60cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺物は、25層上面から石が出土した。

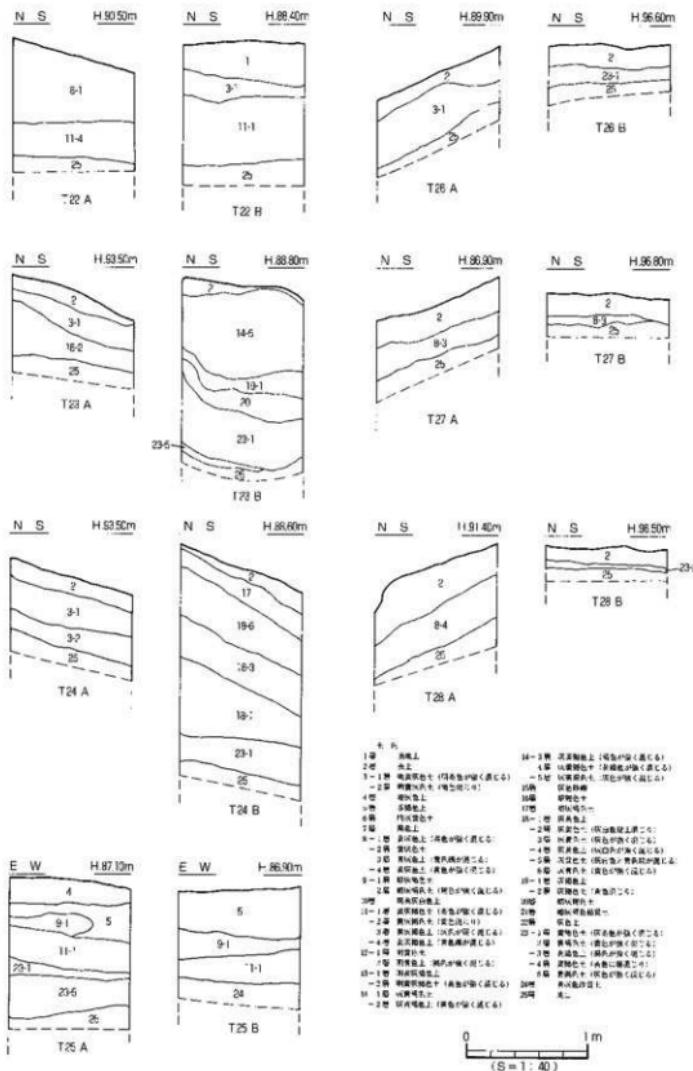
T27 (第7図)

調査区北斜面の北東部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8~1.5m、長さ24.0m、深さ32~64cmを測る。検出土層は、2層表土、8層黄灰色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T28 (第7図)

調査区北斜面の北東部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0m、長さ20.8m、深さ24~81cmを測る。検出土層は、2層表土、8層黄灰色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

調査



第7図 T22～T28土層図(4)

試 摆 調 査

T29 (第8図)

調査区北斜面の北東部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0~1.2m、長さ21.0m、深さ25~32cmを測る。検出土層は、2層表土、8層黄灰色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T30 (第8図)

調査区北斜面の北東部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0m、長さ20.5m、深さ36~60cmを測る。検出土層は、2層表土、5層茶褐色土、8層黄灰色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T31 (第8図)

調査区北斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.9~1.3m、長さ18.2m、深さ22~78cmを測る。検出土層は、2層表土、13層明黄灰褐色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T32 (第8図)

調査区北斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.0m、長さ17.8m、深さ55~78cmを測る。検出土層は、2層表土、8層黄灰色土、12層明黄色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T33 (第8図)

調査区北斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8~1.0m、長さ14.8m、深さ38~72cmを測る。検出土層は、2層表土、8層黄灰色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

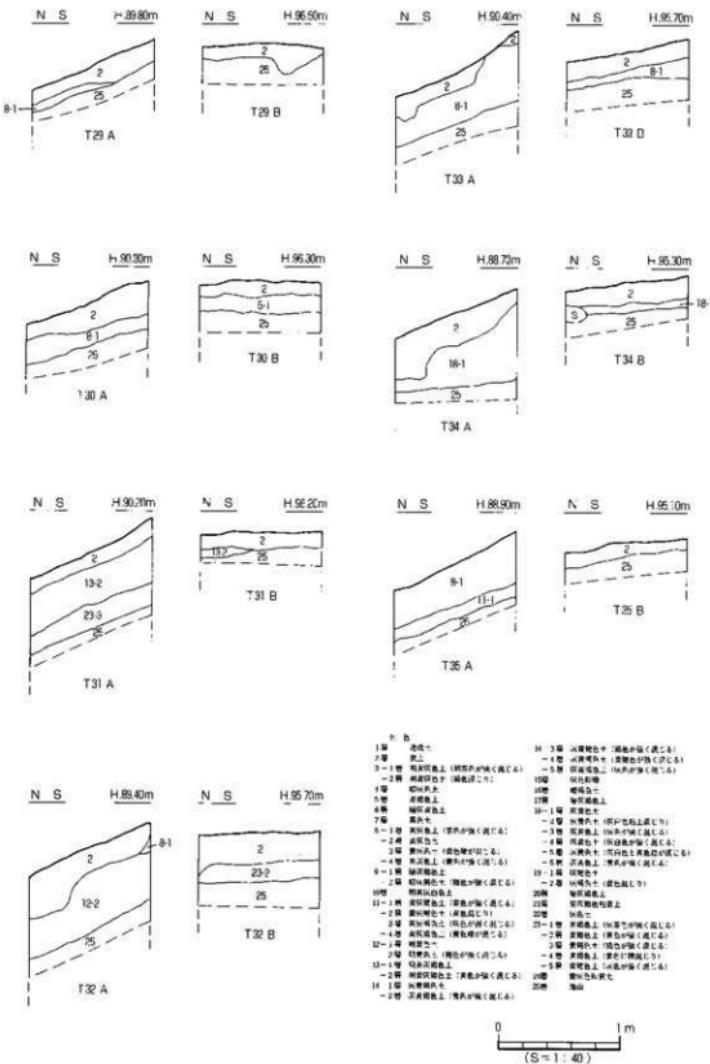
T34 (第8図)

調査区北斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0~1.2m、長さ14.7m、深さ35~90cmを測る。検出土層は、2層表土、18層灰黄色土、25層地山である。遺物は、18層上面から石が出土した。

T35 (第8図)

調査区北斜面の中央部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0m、長さ15.2m、深さ25~58cmを測る。検出土層は、2層表土、8層黄灰色土、11層黄灰褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

圖 立



第8図 T29~T35土層図(5)

試 振 調 査

T36 (第9図)

調査区北斜面の北西部で設定する。トレンチの規模は、幅1.0m、長さ13.3m、深さ52~85cmを測る。検出土層は、2層表土、8層黄灰色土、11層黄灰褐色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T37 (第9図)

調査区北斜面の北西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8m、長さ7.3m、深さ35~82cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、8層黄灰色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T38 (第9図・図版7)

調査区北斜面の北西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.8m、長さ11.8m、深さ67~100cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T39 (第9図・図版7)

調査区北斜面の北西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.6~0.8m、長さ11.5m、深さ32~85cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

T40 (第9図・図版7)

調査区北斜面の北西部で設定する。トレンチの規模は、幅0.7~1.0m、長さ11.0m、深さ45~77cmを測る。検出土層は、2層表土、3層明黄灰色土、11層黄灰褐色土、23層黄褐色土、25層地山である。遺構と遺物は、検出していない。

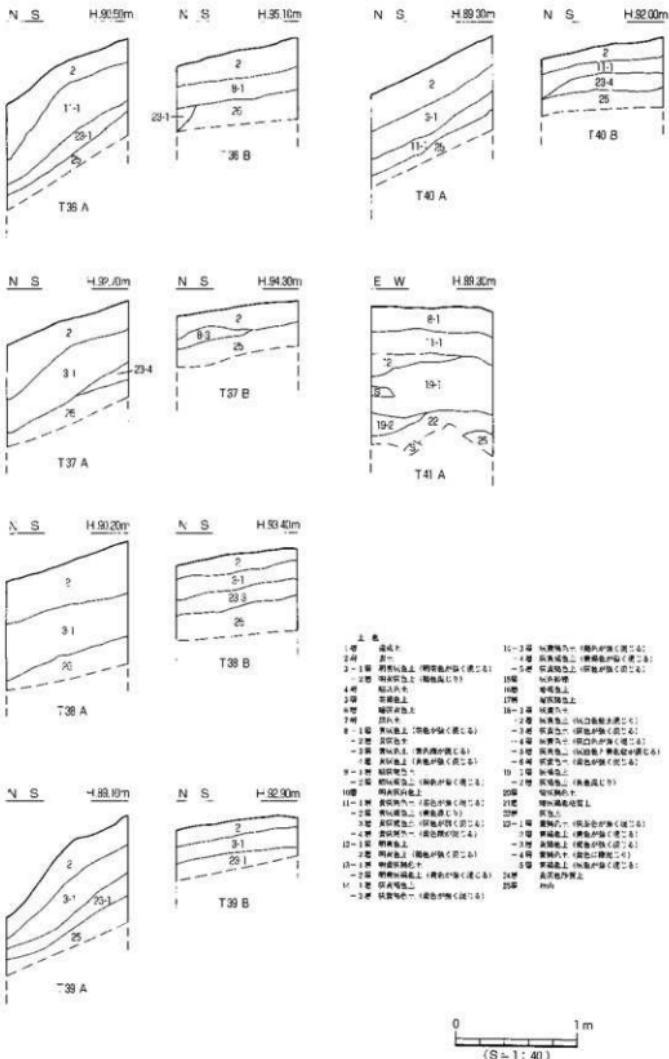
T41 (第9図)

調査区南斜面の南端中央部で設定する。トレンチの規模は、幅1.5~3.0m、長さ6.8m、深さ110cmを測る。検出土層は、8層黄灰色土、11層黄灰褐色土、12層明黄色土、19層灰褐色土、22層灰色土、25層地山である。遺構は22層中から石組みを検出し、遺物は19層中から石が出土した。

3. 調査の結果

試振調査の結果、T 3・4・6・7・41からは石組、T 8~10・21からは溝を検出した。また、T 19からは完形の壺形土器1点と、T 21の溝からは土器片が出土した。したがって、同トレンチ一帯を本格調査の対象地とした。

調
査



第9図 T36~T41土層図(6)

第4章 調査の概要

1. 調査の経過（第10・11図）

調査にあたっては、対象面積が広大なため、まず試掘調査を行い、申請地内の遺跡の有無について確認をした（第3章）。試掘調査では、遺跡は調査地南側斜面に遺存していることが判明した。

この結果をうけ、遺構や遺物を確認した地点（トレンチ）と、その周辺部について本格調査を行うこととし、1999（平成11）年4月1日から同年9月30日まで本格的な調査を実施した。調査は、4ヶ月の間は調査地内の草刈りと樹木の伐採をし、重機により調査地内にある残土の移動をする。

本格調査の位置と、工程等は以下である。

（1）A区の調査

A区は、調査対象地南側斜面の南西部にあたる。試掘トレンチT19を調査した結果、完形品の壺形土器が出土した。遺物が出土した地点を中心に、周辺23.9m²に対して、平成11年5月6日～同年5月24日の間、本格調査を実施した。調査の結果、古代の土器棺墓を1基検出した。

（2）B区の調査

B区は、調査対象地南側斜面の南西部にあたる。試掘トレンチT21を調査した結果、溝1条を検出し、溝の中からは土器が出土した。遺構と遺物が検出された地点を中心に、周辺127.8m²に対して、平成11年5月6日～同年6月9日の間、本格調査を実施した。調査の結果、古墳1基を確認し、周溝を検出するにいたった。

（3）C区の調査

C区は、調査対象地南側斜面の中央にある。試掘トレンチT 8～10・41を調査した結果、溝と石組みを検出した。遺構が検出された地点を中心に、周辺190.6m²に対して、平成11年8月10日～同年9月21日の間、本格調査を実施した。調査の結果、古墳1基を確認し、石室と周溝を検出した。

（4）D区の調査

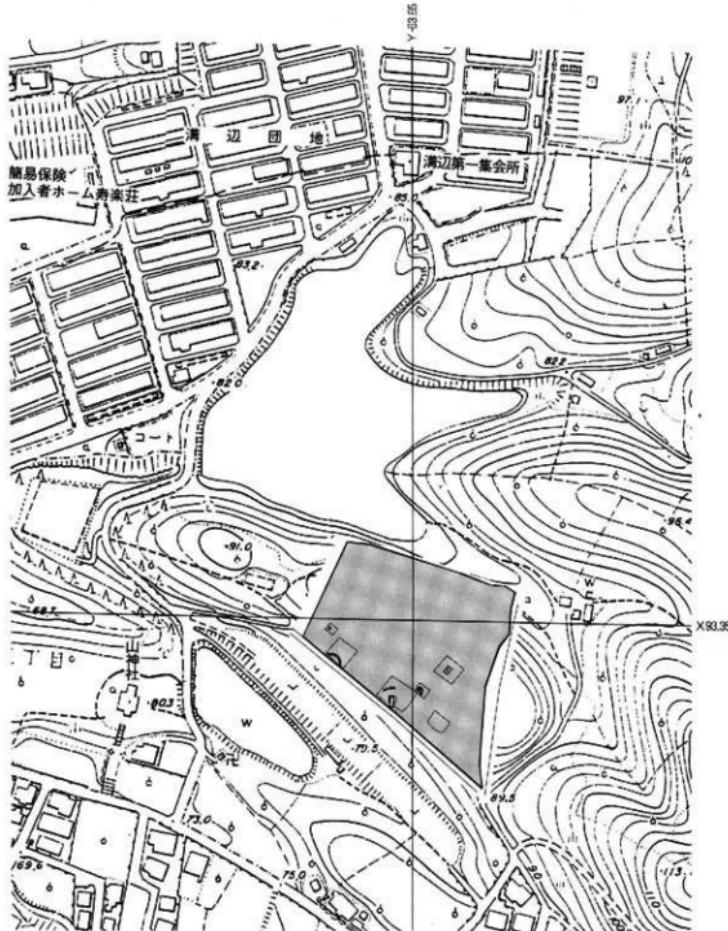
D区は、調査対象地南側斜面の南東部にあたる。試掘トレンチT 6を調査した結果、石組みを検出した。遺構が検出された地点を中心に、周辺121.4m²に対して、平成11年6月18日～同年7月2日の間、本格調査を実施した。調査の結果、近現代坑1基を検出した。

（5）E区の調査

E区は、調査対象地南側斜面の南東部にあたる。試掘トレンチT 7を調査した結果、石組みを検出した。遺構が検出された地点を中心に、周辺33.6m²に対して、平成11年6月18日～同年7月26日の間、本格調査を実施した。調査の結果、古墳1基を確認し、石室を検出した。

(6) F区の調査

F区は、調査対象地南側斜面の南東部にあたる。試掘トレンチT4を調査した結果、石組みと考えられるものを検出していた。遺構が検出された地点を中心に、周辺69.5m²に対して、平成11年8月10日～同年8月24日の間、本格調査を実施した。調査の結果、石組みと考えられたものは、古代の遺構ではないことを確認をした。

第10図 調査地位置図 ($S = 1 : 2,500$)

2. 土層

調査地は、松山平野の北東部、標高86.6～95.9mに立地する。

基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層表土、第Ⅲ層茶色土、第Ⅳ層赤褐色土、第Ⅴ層黄色土、第Ⅵ層岩盤である。

第Ⅰ層：造成土で、厚さ2～8cmを測り、調査区南斜面のほぼ全域で検出した。

第Ⅱ層：表土で、厚さ10～72cmを測り、調査区ほぼ全域で検出した。

第Ⅲ層：茶色土で、4つに分層される。

第Ⅲ-1層は、明るい茶色土である。厚さ2～40cmを測り、調査区ほぼ全域で検出した。

第Ⅲ-2層は、暗い茶色土である。厚さ2～25cmを測り、調査区南斜面の中央部から南西部にかけて検出した。

第Ⅲ-3層は、茶色土である。厚さ2～60cmを測り、調査区ほぼ全域で検出した。

第Ⅲ-4層は、茶色土で灰色が混じる。厚さ2～30cmを測り、調査区南斜面のほぼ全域と、北斜面の中央部で検出した。

第Ⅳ層：赤褐色土で、2つに分層される。

第Ⅳ-1層は、赤褐色土で、厚さ20～70cmを測り、調査区南斜面のほぼ全域で検出した。

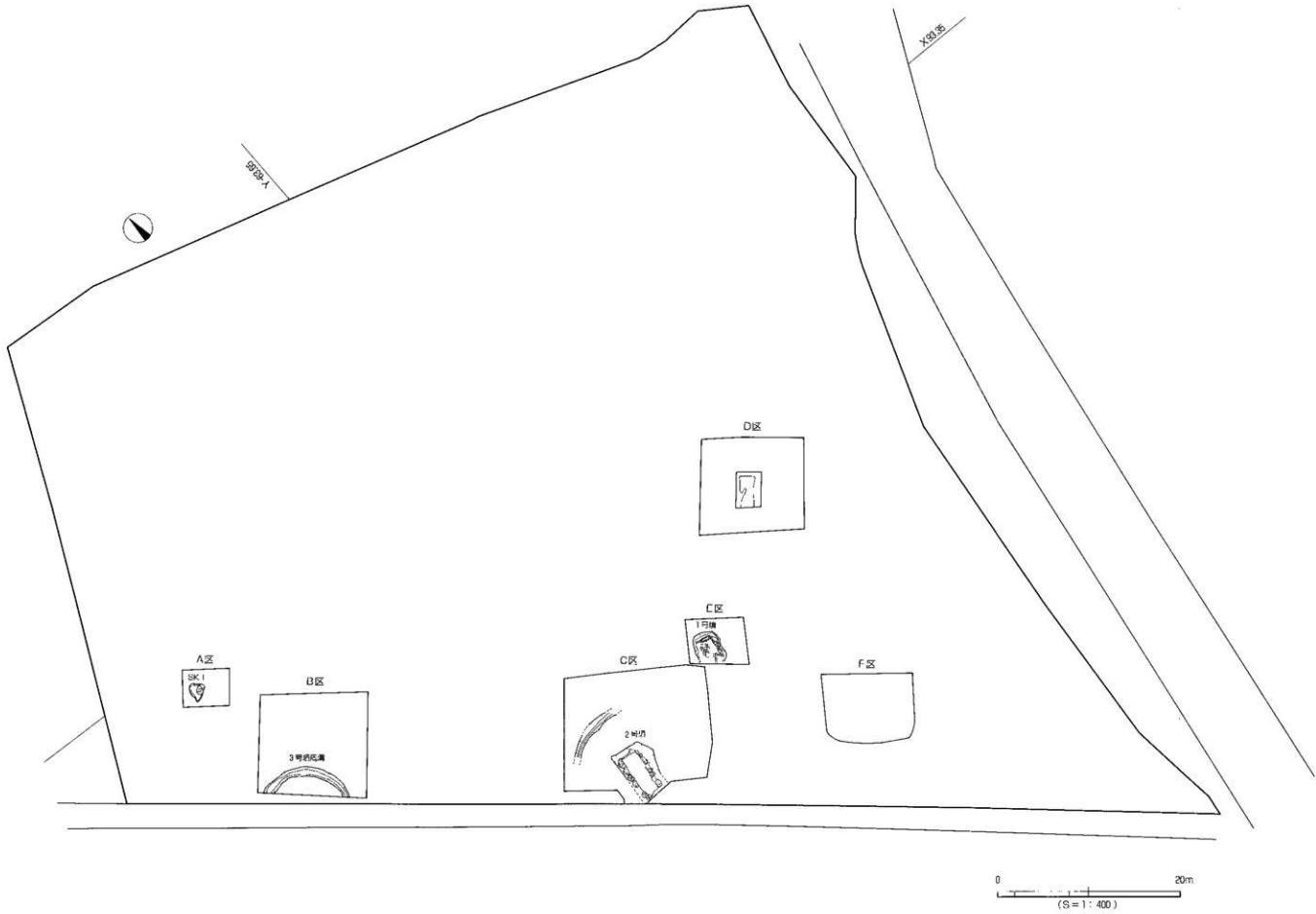
第Ⅳ-2層は、赤褐色土に淡い茶色土が混じり、厚さ15～75cmを測る。T10にあり、調査区南斜面の中央部で検出した。

第Ⅴ層：黄色土で、厚さ2～45cmを測る。調査区ほぼ全域で検出した。

第Ⅵ層：岩盤になる。

表1 調査区一覧

調査区	位 置	期 間	面 積	遺 構	遺 物	備考
A	丘陵南斜面 南 西 部	平成11年5月6日 ↓ 同年5月24日	23.9m ²	土器棺墓	土器	
B	丘陵南斜面 南 西 部	平成11年5月6日 ↓ 同年6月9日	127.8m ²	古墳	土器	
C	丘陵南斜面 中 央 部	平成11年8月10日 ↓ 同年9月21日	190.6m ²	古墳	土器・装身具	
D	丘陵南斜面 南 東 部	平成11年6月18日 ↓ 同年7月2日	121.4m ²	現代坑		
E	丘陵南斜面 南 東 部	平成11年6月18日 ↓ 同年7月26日	33.6m ²	古墳		
F	丘陵南斜面 南 東 部	平成11年8月10日 ↓ 同年8月24日	69.5m ²			



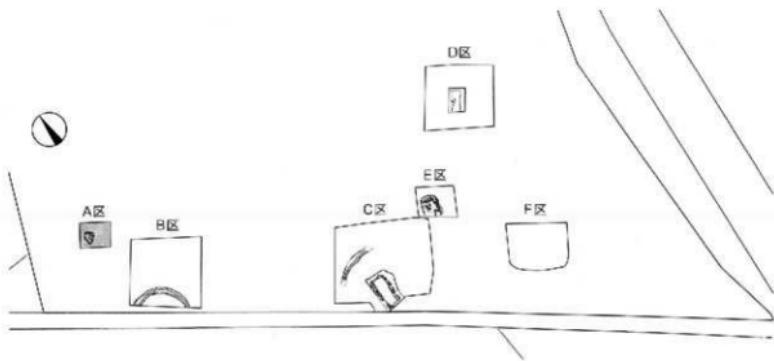
第11图 调查区测量图

第5章 A区の調査

1. 概要 (第10・11図)

A区は、丘陵南斜面の南西部にある。尾根線からは、6.95m下がる地点で、標高は89.7~88.6mを測る。調査区は、試掘調査で出土した変形土器を中心にして、23.9m²を設定した。土層の堆積は、第II層表土、第III層茶色土、第IV層赤褐色土、第V層黄色土、第VI層岩盤である。

A区では、第III層上面から、土器棺墓1基を検出した。



第12図 A区位置図 ($S = 1 : 800$)



写真1 A区掘削状況 (北西より)

2. 遺構

(1) 1号土器棺墓 (第12・13図・図版10)

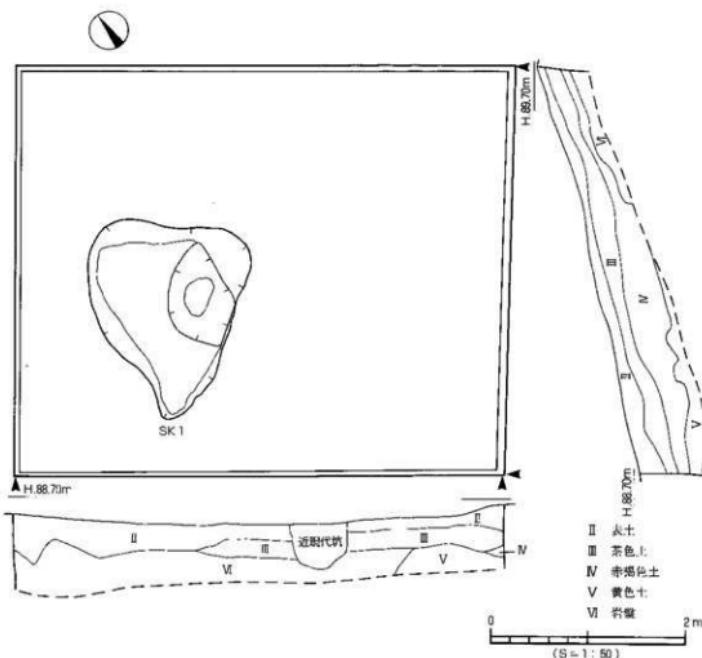
A区の中央にあり、第Ⅲ層上面で検出した。平面形態は梢円形で、規模は南北2.0m、東西1.6m、深さ3~30cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は黄灰褐色土である。北側で検出した黄灰色土は周辺にないことより、本坑に伴う可能性をもつ。遺物は、試掘調査で出土した壺が1点あるが、本格調査では、このほかに遺物の出土はない。壺形土器は、据え置かれた状況で検出され、壺の中からは骨の細片が出土した。骨は焼けしており、鑑定したが、性別・年令等はわからなかった。土器内の骨を取り上げる作業工程は図版20に示した。

なお、平面形態が異形なのは後世の削半によるものと考えられる。

出土遺物 (第14図・図版18)

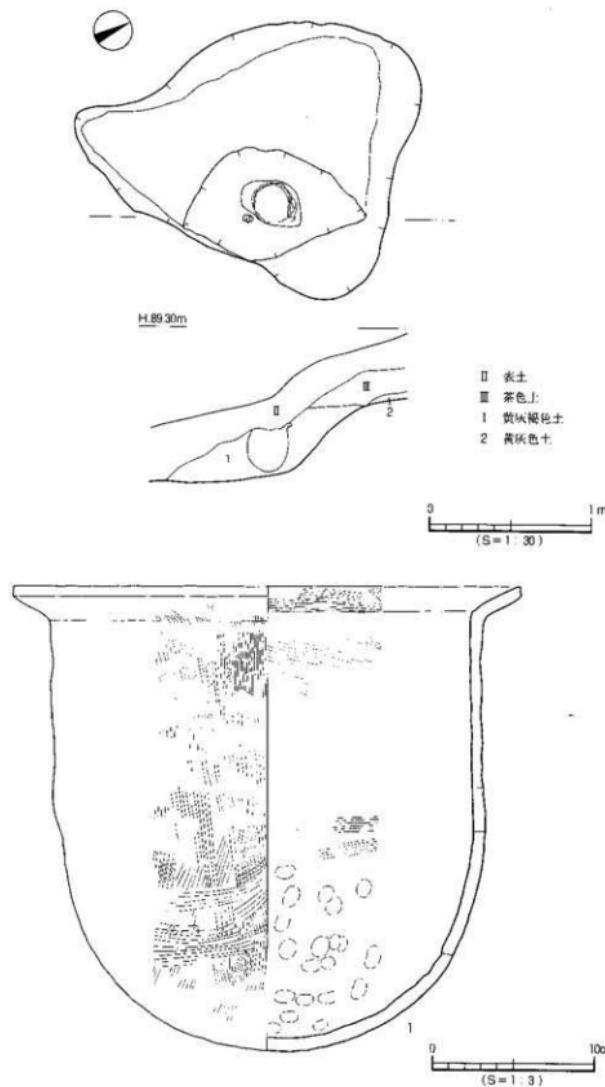
1は土器器の壺形土器の完形品である。口縁部は外反し、底部は丸底になる。推定口径は31.0cm、器高は28.0cm。調整は、外面・内面ともに刷毛目調整であり、内面には指頭痕がのこる。

時期：出土遺物から、古代（7世紀）とする。



第13図 A区調査図

遺構と遺物



第14図 A区SK 1測量図・出土遺物実測図

第6章 B区の調査

1. 概要 (第15図)

B区は、丘陵南斜面の南西部にある。尾根線からは、8.15m下がる地点で、標高は88.5~86.3mを測る。調査区は、試掘調査で検出した溝を中心に、127.8m²を設定した。土層の堆積は第I層造成土、第II層表土、第III-1層明茶色土、第IV層赤褐色土、第V層黄色土になる。

B区では、第IV層上面から周溝1条を検出し、古墳が存在していたことを確認した。B区検出の周溝を伴う古墳は3号墳とした。

2. 遺構

(1) 3号墳 (第16図・図版9・11)

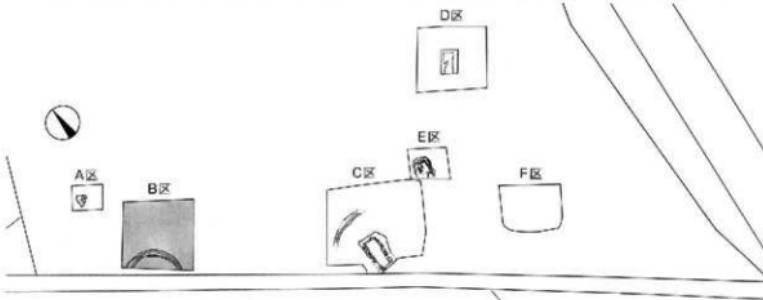
B区の南端にあり、第IV層上面で周溝を検出し、周溝の左端と右端は、南側の調査区外に続く。墳形は円形で、墳丘規模は検出最長部で7.6mを測る。周溝は、半円形状に検出され、規模は東西検出長10.7m、幅0.7~1.2m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は淡い暗褐色土である。遺物は、試掘調査で出土した土器片が1点ある。本格調査では、弥生土器と土師器が出土した。

調査区南壁と西壁の観察では、淡黄色土(d)が第IV層と周溝埋土(a)を覆っている。この土層は、墳丘盛土と推定される。混入土の差により細分したが、本来の盛土と崩落土との土は判断できなかつた。当然、周溝上面とそれより外の土壤は、崩落土と認知されなければならない。唯一、c-2は周溝の外側で検出されており、盛土の崩落土と判断できる。

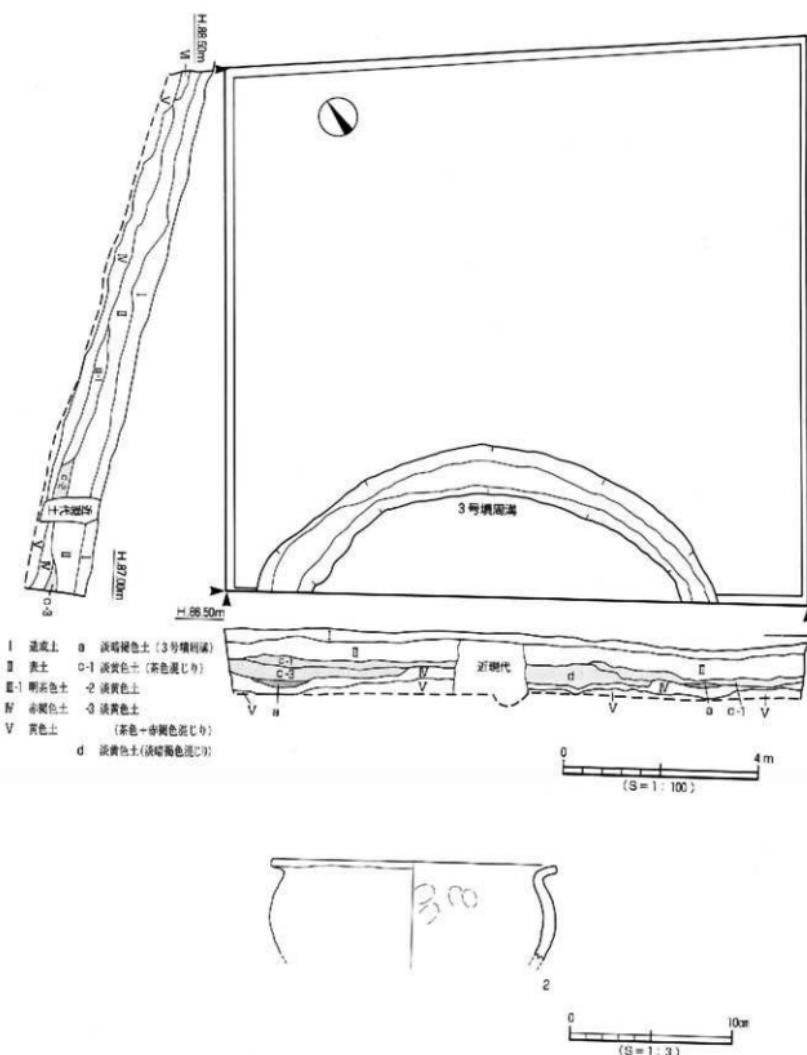
出土遺物 (第16図・図版18)

2は弥生土器で、鉢形土器の口縁部片である。口縁部は外反し、端部は「コ」字状になる。外面の調整は口縁部がマツツし、胴部はヨコナデとなり、内面の調整は、口縁部がヨコナデ、胴部はナデとなる。口径17.3cm。形状から弥生時代後期に時期比定される。

時期：遺物は、弥生後期の土器が1点出土したが、流れ込み品であり、遺物からの時期決定は難しい。B区3号墳とC区2号墳の周溝埋土が同じであるため、古墳時代後期、6世紀に比定する。



第15図 B区位置図 (S=1:800)



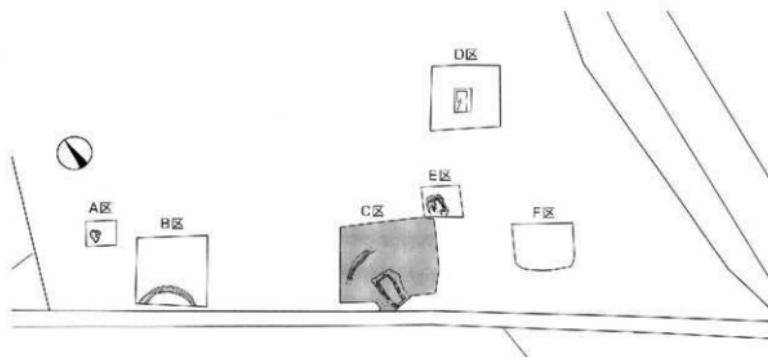
第16図 B区測量図・出土地点不明遺物実測図

第7章 C区の調査

1. 概要 (第17図)

C区は、丘陵南斜面の中央部にある。尾根線からは、6.85m下がる地点で、標高は89.8~87.1mを測る。調査区は、試掘調査で検出した石組みと、溝を中心に190.6m²を設定した。土層の堆積は、第I層造成土、第II層表土、第III-1層明茶色土、第III-3層茶色土、第III-4層茶色土に灰色が混じるもの、第IV-1層赤褐色土、第IV-2層赤褐色土に淡い茶色が混じるもの、第V層黄色土、第VI層岩盤となる。

C区では、第IV層-2層上面から石室1基と周溝1条を検出し、古墳が存在していることを確認した。C区検出の古墳は2号墳とする。



第17図 C区位置図 (S = 1 : 800)



写真2 C区掘削状況 (北より)

2. 遺構

(1) 2号墳 (第18~24図・図版12~15)

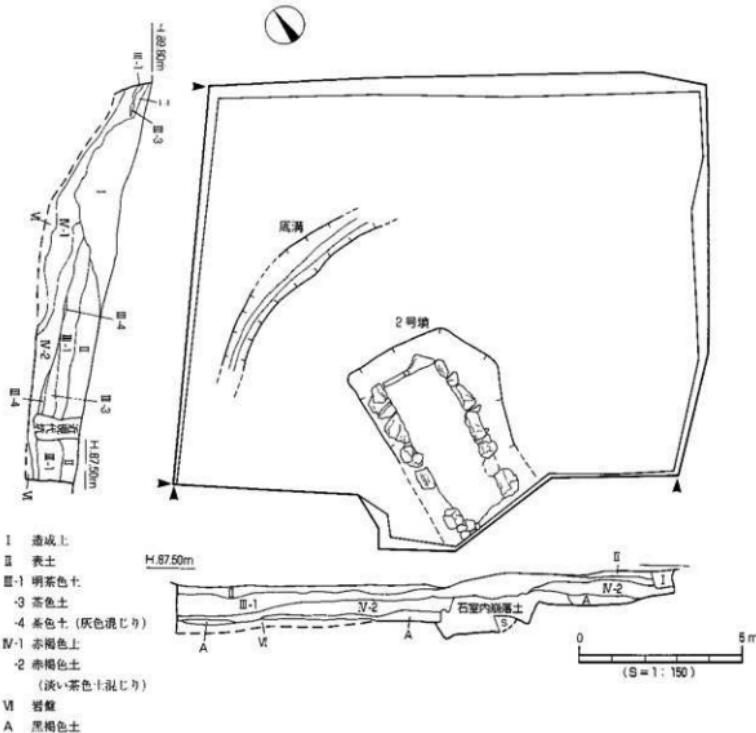
1) 現況

C区の中央から南側には石室があり、西側から北側には周溝がある。石室の南側は調査区外へ続く。また、周溝の西側は調査区外に続き、東側は近・現代の搅乱に切られている。

石室は、第IV-2層を切って掘り込まれている。掘り方の規模は、南北検出長6.2m、東西検出長3.4~4.1m、深さ85cmを測る。

2) 石室 (第19~21図)

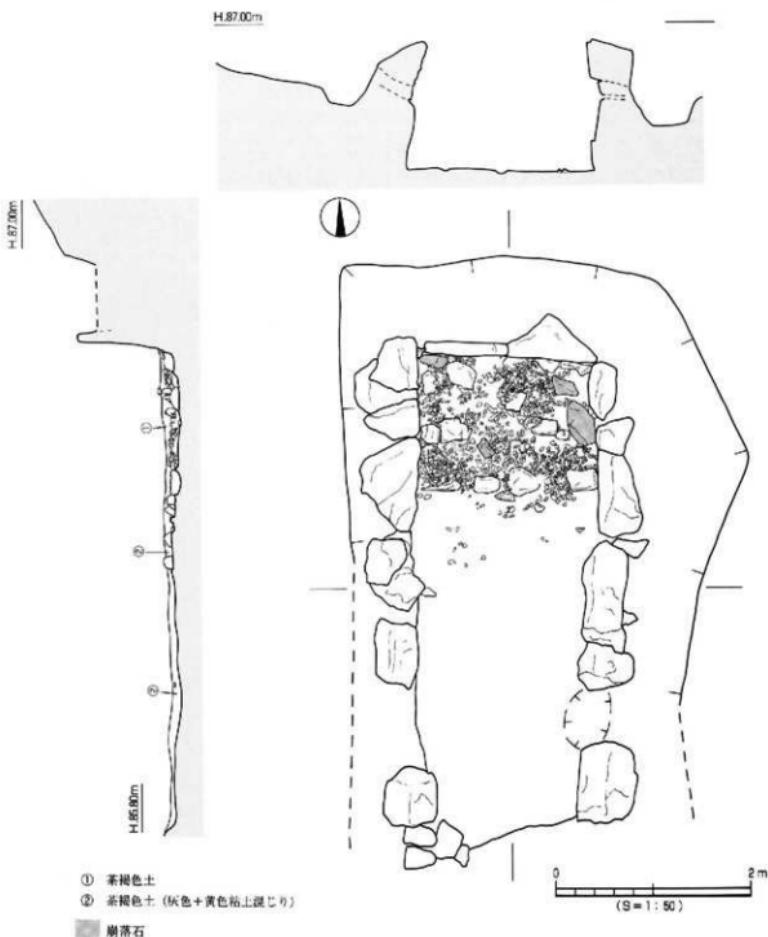
石室は、横穴式石室で南に開口する。規模は、南北検出長5.0m、東西2.0m、深さ1.5mを測る。右側壁は石が2段、左側壁は石が2段、奥壁は石が1段残っていたにすぎない。天井石は検出できていない。右側扉は石が2段並んでおり、下段は石が6個、上段は石が2個遺存する。右側壁下段の石の



第18図 C区測量図

C 区の調査

大きさは、一辺が20~85cm、厚みは55~85cmを測る。右側壁上段の石の大きさは、一辺が10~75cm、厚みは20~45cmを測る。左側壁は石が2段並んでおり、下段は石が5個、上段は石が4個遺存する。左側壁下段の石の大きさは、一辺が65~100cm、厚みは45~105cmを測る。上段の石の大きさは、一辺が35~65cm、厚みは10~55cmを測る。奥壁は石が1段残っており、2個遺存する。石の大きさは、一辺が90~100cm、厚みは60~110cmを測る。



第19図 C区 2号填埋测量图 (1)

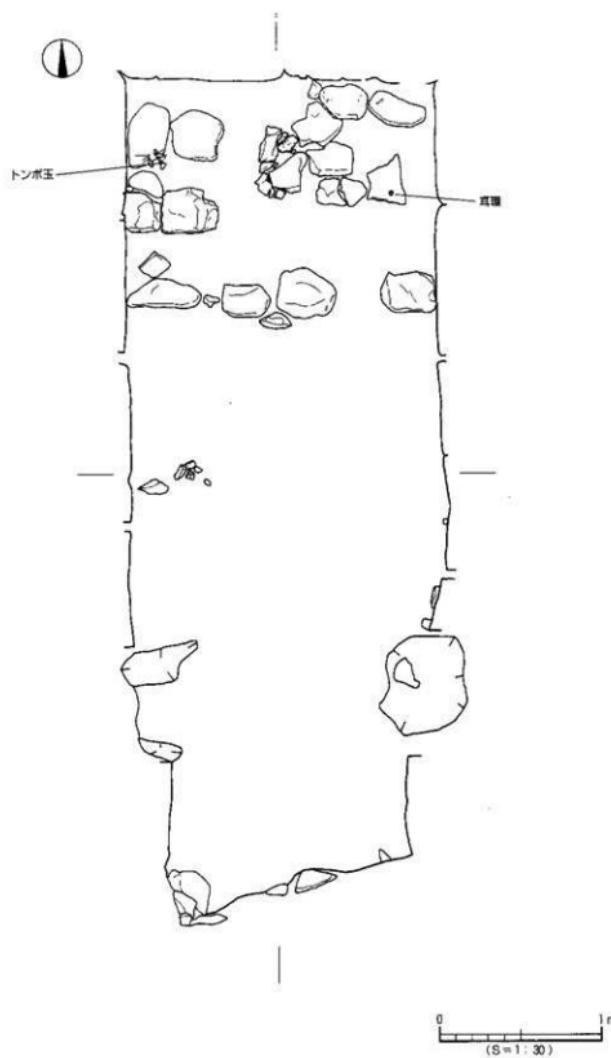
遺構と遺物

石室内では、石室の中ほどから奥壁までの床面で、敷石と玉石とを検出した。玉石と敷石との関係は、敷石の上で玉石が検出されている。敷石の平面形態は、楕円形及び長方形を呈する。石の大きさは15~40cm、厚みは5~13.3cmを測る。玉石の平面形態は、楕円形及び円形を呈する。石の大きさは2~8cm、厚みは0.2~1.0cmである。遺物は少なく、須恵器と土師器は数点、ガラス製の小玉・トンボ玉、耳環、弥生土器は各1点が出土している。耳環は、右側壁の奥側で、敷石の上で出土し、トンボ玉は、左側壁の奥側で、玉石と玉石の間で出土した。小玉は、石室の崩落土から出土している。このうち、図化できる5点を第22図に掲載した。土師器は小片のため図化していない。



第20図 C区2号墳測量図(2)

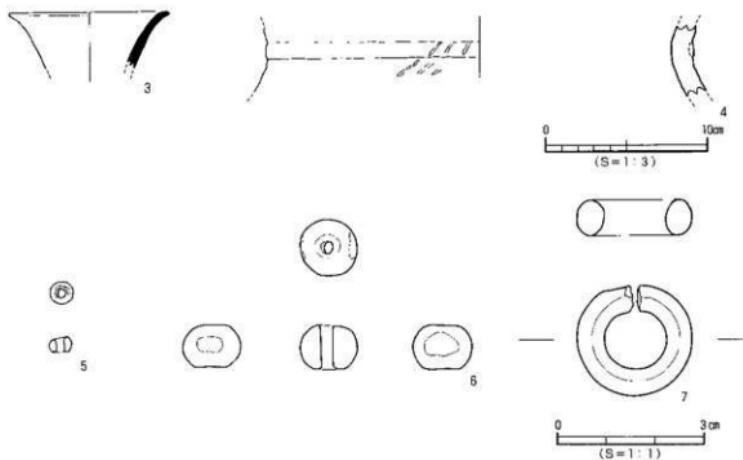
C 区の調査



第21図 C区 2号墳測量図 (3)・遺物出土状況

出土遺物（第22図・図版19）

3は須恵器の台付長頸壺の口縁部片である。口縁部は外反し、端部は丸い。調整は、内外面ともに回転ナデになる。口径9.8cm、残高3.4cm。4は弥生土器の壺形土器の頸部片である。頸部に、断面形状の貼り付け、突帯をもち、突帯上には刻目を施す。調整は内外面ともにマツツしている。残高4.3cm。5・6はガラス玉である。5は小玉の完形品で、色は青色。直徑4mm。6はトンボ玉の完形品で、色は青色。直徑10mm。7は耳環の完形品で、色は金色、中空の耳環になる。直徑2.1cm。（第11章参照）



第22図 C区2号墳出土遺物実測図

C 区の調査

3) 周溝 (第23図・図版15)

周溝は石室の西側から北側にあり、石室から3.5m離れている。規模は、東西検出長6.50m、幅0.65~1.15m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は暗褐色土である。遺物は少なく、土師器と須恵器が出土し、國化可能なものは第24図8の1点にかぎられる。

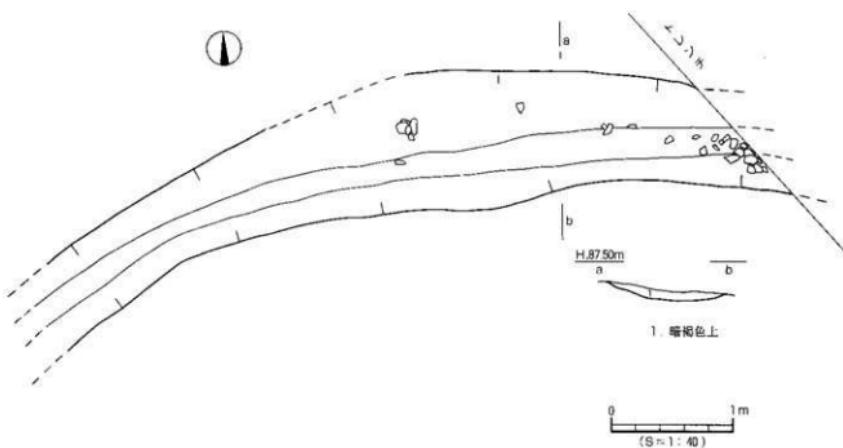
出土遺物 (第24図・図版19)

8は須恵器の壺である。口縁部は外反し、口縁端部は丸い。胸部と底部ともに球形化している。丸い。調整は、外面はカキメ後平行叩きと、タタキ後回転ナデで、内面は円弧叩きである。口径22.2cm、残高40.9cm。

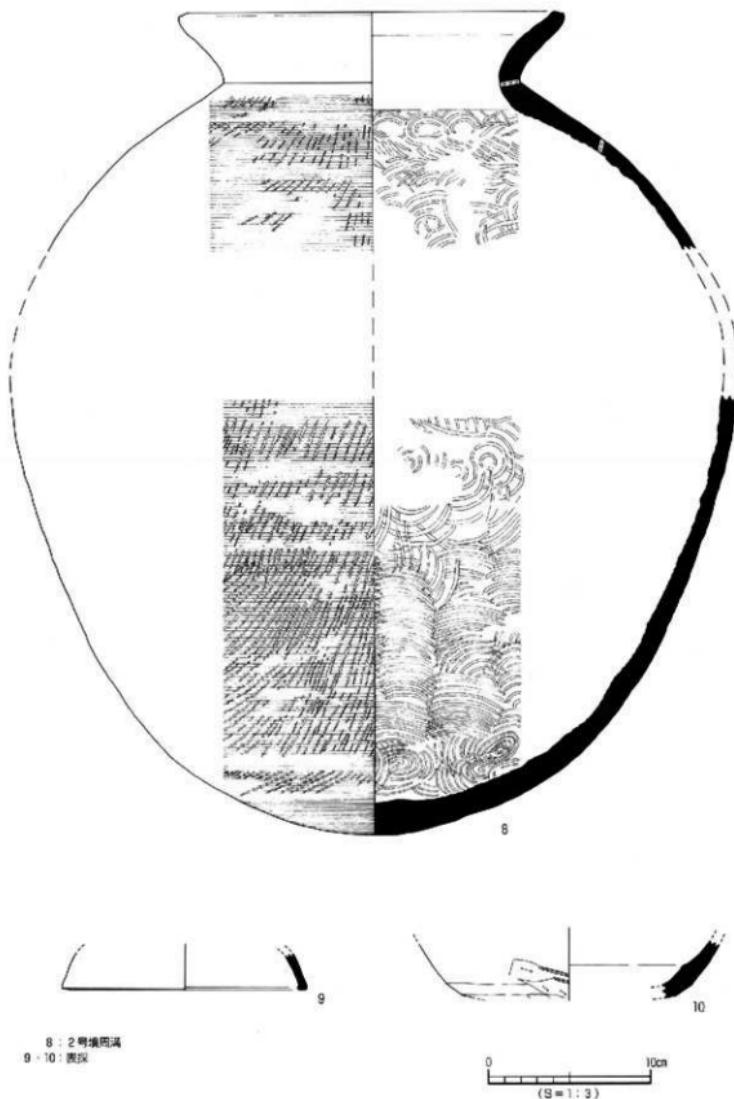
時期：2号墳は、出土遺物から、7世紀に追葬があったことが分かる。

3. C区表採遺物 (第24図)

9・10は須恵器の壺である。9は長頸壺の脚部片で、脚端部は平坦で肥厚する。調整は、内外面ともに回転ナデになる。底径15.0cm、残高2.2cm。10は壺の底部片である。底部外面には、2条のヘラ記号と思われる沈線をもつ。調整は、外面がヘラケズリ、内面は回転ナデになる。残高3.5cm。



第23図 C区 2号墳周溝測量図・遺物出土状況



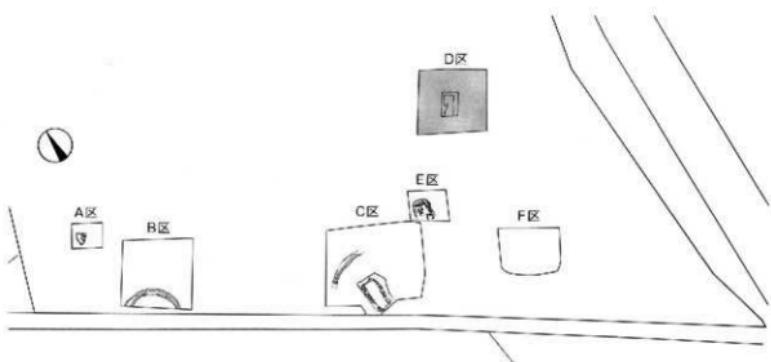
第24図 C区出土遺物実測図

第8章 D区の調査

1. 概要 (第25図)

D区は、丘陵南斜面の南東部にある。尾根線からは、0.25m下がる地点で、標高は96.4~94.6mを測る。調査区は、試掘調査で検出した石組みを中心に121.4m²を設定した。土層の堆積は第Ⅱ層表土、第Ⅲ層茶色土、第V層黄色土になる。

D区では、近現代土を切り込んだ石組み1基検出した。



第25図 D区位置図 (S = 1 : 800)



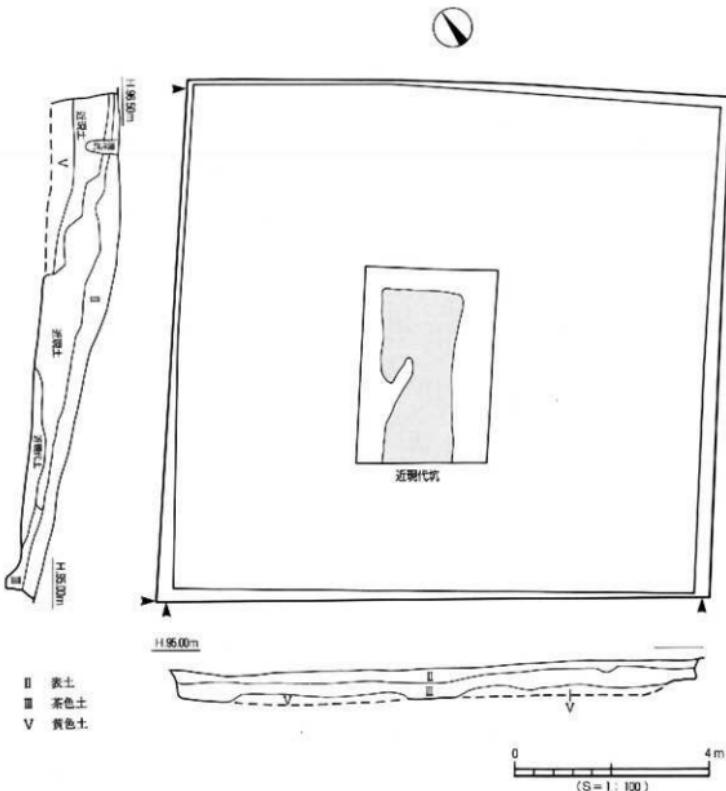
写真3 D区掘削状況 (北西より)

2. 遺構

(1) 1号石列 (第26図・図版17)

D区の中央にあり、平面形態は長方形を呈する。規模は南北4.0m、東西2.7mを測る。遺物は出土しなかった。石列の周りには、コンクリートの開いがある。

時期：遺構の構造から、近現代の貯水池と考えられる。



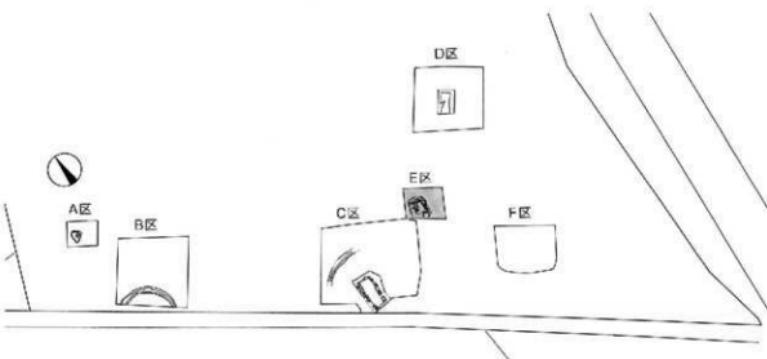
第26図 D区測量図

第9章 E区の調査

1. 概要 (第27図)

E区は、丘陵南斜面の南東部にある。尾根線からは、6.3m下がる地点で、標高は92.1~90.4mを測る。調査区は、試掘調査で検出した石組みを中心に33.6m²を設定した。土層の堆積は、第II層表土、第III-1層明茶色土、第IV-1層赤褐色土、第V層黄色土、第VI層岩盤になる。

E区では、第IV-1層上面から石室1基を検出し、古墳が存在していたことを確認した。E区検出の古墳は1号墳とする。



第27図 E区位置図 (S = 1 : 800)



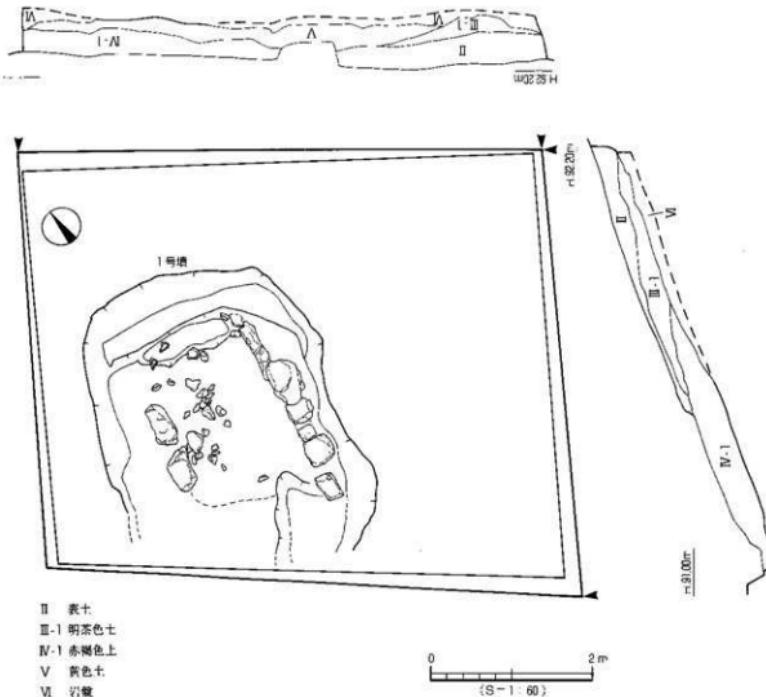
写真4 E区掘削状況 (北西より)

2. 遺構

(1) 1号墳 (第28・29図・図版16)

1) 現況

E区の中央から南側には石室があり、石室の南側は調査区外に続く。石室はすでに破壊され、石室の下部が遺存するに限られる。墳丘、周溝等の関連遺構は未検出（消滅）である。



第28図 E区測量図

E区の調査

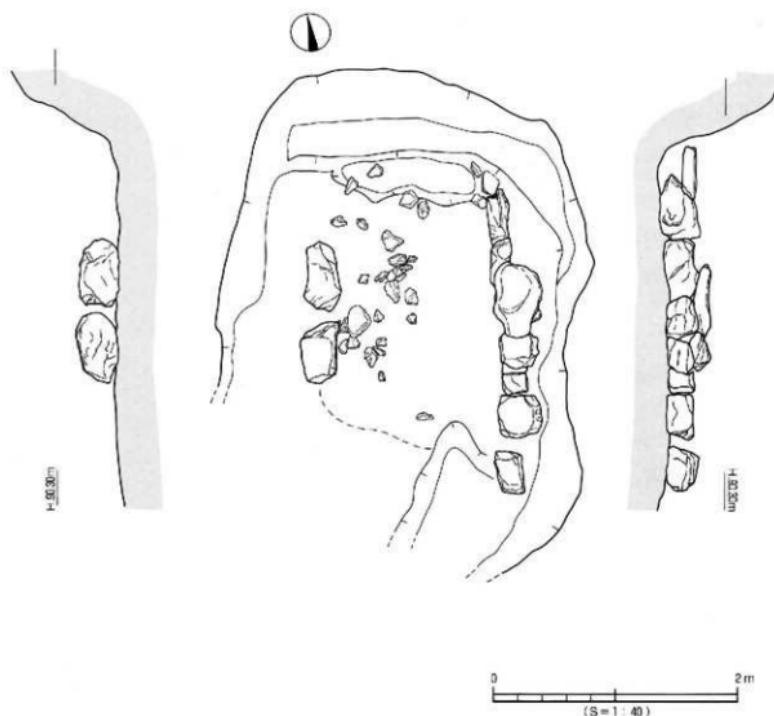
2) 石室(第29図)

石室は、横穴式石室で南に開口する。右側壁は石が2段、左側壁は石が1段残っていたにすぎない。天井石と奥壁は検出できなかった。規模は、南北検出長3.0m、東西1.15m、高さ40cmを測る。右側壁は石が2段並んでおり、下段は石が7個、上段は石が3個遺存する。右側壁下段の石の大きさは、一辺が36~54cm、厚みは20~31cmを測る。右側壁上段の石の大きさは、一辺が40~62cm、厚みは10~14cmを測る。左側壁は、石が1段で2個が遺存する。左側壁の石の大きさは、一辺が51~56cm、厚みは15~35cmを測る。

墓坑は、第IV-1層赤褐色土を75cm掘り込んでおり、規模は、南北検出長3.9m、東西最大幅3.0mを測る。

出土遺物はない。

時期：遺物は出土しなかったが、石室の形状から、古墳時代後期に比定する。



第29図 E区1号墳墳測量図

第10章 F 区 の 調 査

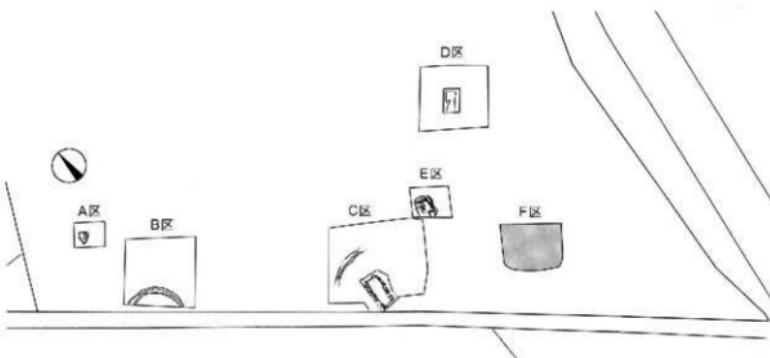
1. 概 要 (第30・31図・図版17)

F区は、丘陵南斜面の南東部にある。尾根線からは、7.7m下がる地点で、標高は90.1~89.0mを測る。調査区は、試掘調査で検出した石組みを中心に69.5m²を設定した。

土層の堆積は、第I-1層造成土、第I-2層造成土に礫が混じるもの、第V層黄色土となる。

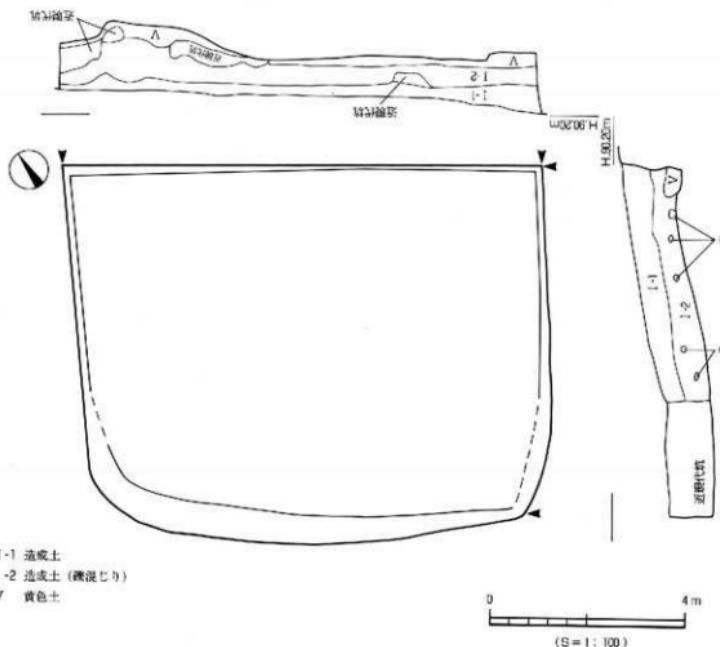
2. 遺 構

試掘調査では、石室に使用されていたと考えていた石を検出していいた。本格調査では、これ等の石の平面的・層位的な位置を検討した。その結果、これ等の石は近・現代の堆積土の第I-2層中にあることを確認した。石のほかには、遺構や遺物は確認できなかった。



第30図 F区位置図 (S = 1 : 800)

F区の調査



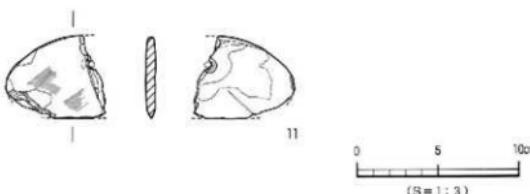
第31図 F区測量図

3. 表採品

東野中畦遺跡の北側で、遺物を1点採取した。弥生時代の石器1点で、石庖丁になる。

出土遺物（第32図）

11は石庖丁で、1/2弱が遺存する。材質は緑色片岩である。形態は、直線刃外湾形を呈し、径0.8cmの細孔がある。長さ6.1cm、幅5.0cm、厚さ0.6cm、重さ29.5g。



第32図 出土地点不明遺物実測図

出土遺物観察表

4. 出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	形 塵・施 文	調 整		色 調(外面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
1 瓢		口径(31.0) 器高 28.0	土器器。甕の完形品。口縁部は外反し、底部は丸底。	ハケ(5本/cm)	ハケ(1~5本/cm) ※指痕有	淡茶褐色 茶褐色	石・長(1~5) ○	A区 SK 1	18
2 茹		口径(17.3) 残高 5.8	甕生土器。神形土器の口縁部有。口縁部は外反し、縁部は丸い。「コ」字状である。	マツツ ※ヨコナデ ナダ	ヨコナデ ナダ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) 金 ○	B区 地点不明	18
3 瓢		口径(9.8) 残高 3.4	環窓器。台付長頸壺の口縁部片。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	青 ○	C区 2号墳	19
4 瓢		残高 4.3	甕中上部。直形土器の断片部。	マツツ	マツツ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~6) ○	C区 2号墳	
5 瓢		口径(22.2) 残高 40.9	甕窓器。甕である。口縁部は外反し縁部は丸い。腹部は丸みをもつ、底部も丸い。	カキメー手行叩き タチキ一回転ナデ	円弧叩き	灰色 淡青灰色	青 ○	C区 2号墳	19
6 瓢		底径(15.0) 残高 2.2	環窓器。長脚窓の脚部片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡灰褐色	青 ○	C区 表探	
7 瓢		残高 3.5	甕窓器。甕の底部片である。 底部外周に2条の波線あり(へ ラケゼリ)。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡青灰色	青 ○	C区 表探	

番号	器種	残 存	材 質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
5 小甕	完形品	ガラス	青化	0.29	0.45	0.19	0.069	C区 2号墳	19
6 トンボ甕	完形品	ガラス	黄色 青銀色	0.89	10.8	0.27	1.637	C区 2号墳石室	19
7 耳甕	完形品	金・銅他	全色	22.3	23.9	6.7	5.2	C区 2号墳石室	19

番号	器種	残 存	材 質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
11 石磨丁	1/2器	緑色片岩		6.1	5.0	0.6	29.54	出土地点 不明	18

第11章 東野中畦遺跡出土耳環の自然科学的調査

財団法人 元興寺文化財研究所

1. はじめに

東野中畦遺跡から出土した耳環1点について、顕微鏡による観察やケイ光X線分析(XRF)等、自然科学的な調査を行う機会を得たので結果を報告する。細部の観察には実体顕微鏡を用いた(オリエンパス社製: SZH-II LD)。素材の成分分析は、エネルギー分散型ケイ光X線分析装置(セイコーアンスツルメンツ社製: SEA5230)を用いた。この機器は、試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有のケイ光X線を検出することにより元素を同定するもので、非破壊で調査を行うことができる。測定条件は以下の通りである。

・モリブデン管球使用、大気条件下、コリメーター1.8mm、管電圧45kV

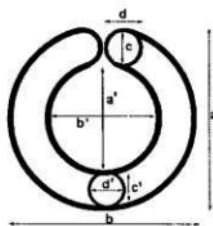
コリメーター0.1mm、管電圧50kV

2. 耳環の観察および分析結果(第33図)

それぞれの耳環の残存状態、外観的特徴、分析結果について以下に記す。また耳環の各部分の呼称についてはアに示した。分析箇所は写真1に、またXRFスペクトルはイ~エに示した。耳環の法量については表2のとおりである。

表2 耳環の法量(単位はmm)

重さ(g)	a	b	a'	b'	c	d	c'	d'
5.2	22.3	23.9	11.9	12.7	5.1	6.7	5.8	7.1

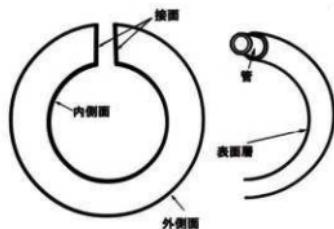


耳環の残存状態は良好で、ほぼ完存するが、接面付近で変形(押圧痕)が認められる。また環に凹凸が認められるが(特に内側面が著しい)、整形時のものか後天的に発生したものかは断定できない。やや大振りで鈍い金色を呈する中空の耳環である。部分的に暗褐色を呈する。

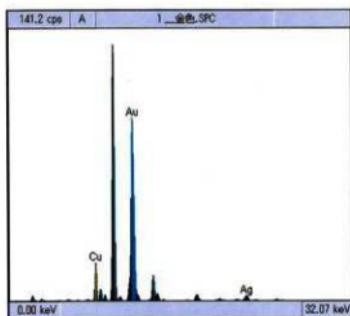
XRFでは、金色を呈する表面層(分析箇所①)および暗褐色部分(分析箇所②)からは、金(Au)、銀(Ag)、銅(Cu)を検出した。接面は側板を垂直に折り曲げ(写真2)、接面の形状(耳環の断面形)に合わせた板を用いて蓋をしたと推定されるが、蓋は現存していない。この部分より環を構成する管が確認できる。管は黒色を呈し、この部分(分析箇所③)からは主として銅を検出した。他に銀、金、ヒ素(As)、鉄(Fe)を検出しているが、これには表面層からの情報も含まれる。

以上の結果より、この耳環は、若干のヒ素を含有する銅管の上に金の薄板を巻いて製作されたと考えられる。また銀については金板、銅管の両方に含まれるとみられるが、含有比率は不明である。

(文責: 背井裕子・渡辺智恵美)



ア 各部分の呼称



イ ①の XRF スペクトル

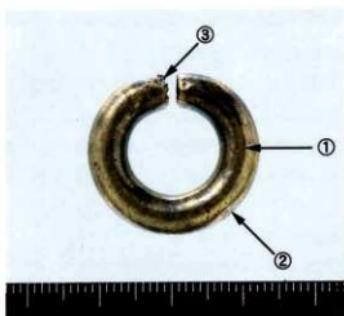
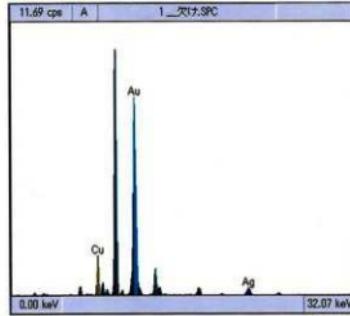


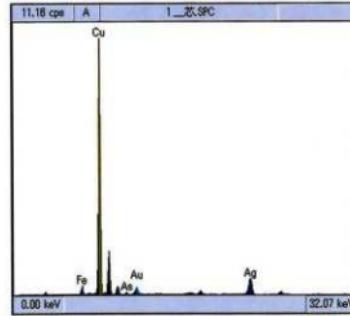
写真1 分析箇所



ウ ②の XRF スペクトル



写真2 接面



エ ③の XRF スペクトル

第33図 顕微鏡写真・ケイ光X線分析

第12章 松山市埋蔵文化財センター保管の耳環

東野中畦遺跡では、C区2号墳から耳環1点が出土した。耳環は鋳化が少なく、遺存状況は外見からは良好に見えた。ただし、内部での鋳化が進んでいるおそれもあり、資料の保全と保管のために科学分析を含めた保存処理を財団法人元興寺文化財研究所に業務委託した。

業務をはじめるにあたり、遺跡と調査の概要、出土状況等の打ち合わせをし、さらには、周辺地での耳環出土事例や、センター保管の耳環の保存処理と保管について意見交換をした。このなかで、松山平野の耳環の出土例は、他の地域と比較して多いことを知るにいたり、耳環研究の基礎作業となる出土品の集成を試みることになった。

今回は、松山市埋蔵文化財センターが保管する耳環を、法量、特徴、保存処理・科学分析の有無について一覧表を作成し、資料の提示をする。

現在、松山市埋蔵文化財センターには、150点余りの耳環が保管されている（注1）。出土地は大多数が古墳出土で、特に横穴式石室からの出土品になるが、少数例として集落遺跡での出土が3例（134・135・136）みられる。古墳の分布は平野全域におよび、分布の偏在はない。

法量は、本頁下に計測方法を示した。計測にはcm以下100分の1が測れるデジタルノギスを使用し、少数点2位は四捨五入した。傾向は分析を進めて、次の機会で提示してみたい。

特徴は、芯の有無に着目して分類した。認定は財団法人元興寺文化財研究所 渡辺智恵美氏の協力により、肉眼観察を行ったものである。観察の結果では、中空11点、芯持115点、無垢15点、不明2点となり、芯を持つものが8割を占める。

今後は、科学分析を進め、素材を含めた検討を進めなければならない。

なお、東野中畦2号墳出土品143は中空品で、所蔵品のなかでは少数例の一類に属する。

— 例 言 —

1. 現在、調査中の資料、整理中の資料、報告書作成中の資料で出土数に増減が生じてくるものは、一覧表には掲載しなかった。
2. 法量欄 「-」は計測できないことを示す。測定値は右図に示した。
3. 保存処理・科学分析欄 空白は作業を実施していないことを示している。
4. 文献欄 文献番号と報告書掲載番号を示した。

例) 2-1は、資料一覧文献2)『かいなご・松ヶ谷古墳』

の報告書内実測番号の「1」となる。

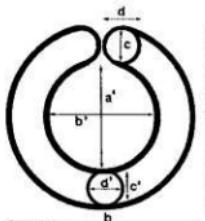


表3 松山市埋蔵文化財センター保管の耳環

2001.1.5現在 (1)

番号	名 称	所 在	法 量 (cm · g)									特 微	保 存	科 学	文 献
			a	b	a'	b'	c	d	c'	d'	重さ				
1	三島神社古墳(石室内)	畠 寺 町	1.3	1.4	0.8	1.0	0.2	0.2	0.2	0.2	1.0	○	○	○	1
2	かいなご1号墳(石室内)	平 井 町	1.8	1.9	1.0	1.0	0.5	0.6	0.5	0.5	6.4	○	○	○	2-1
3	*	*	1.7	1.8	1.0	1.0	0.4	0.6	0.4	0.6	6.8	○	○	○	2-6
4	松ヶ谷1号墳(石室内)	恵 原 町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	2-6
5	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	2-6
6	*	*	2.1	2.3	1.5	1.6	0.3	0.4	0.3	0.3	4.0	○	○	○	2-6
7	御産所11号墳(石室内)	衣 山	3.1	3.3	1.4	1.6	0.9	1.0	0.9	1.0	11.2	○	○	○	3
8	久万ノ台1号墳(石室内)	久万の台	2.8	3.1	1.5	1.7	0.6	0.7	0.7	0.8	(20.3)	○	○	○	3-2
9	*	*	2.5	2.7	1.2	1.4	0.6	0.7	(0.6)	(0.7)	11.4	○	○	○	3-3
10	*	*	(2.3)	2.8	1.4	1.5	(0.4)	(0.7)	(0.6)	(0.8)	11.8	○	○	○	3-6
11	*	*	(2.0)	(2.2)	1.2	1.3	(0.4)	(0.6)	(0.4)	(0.6)	3.5	○	○	○	3-1
12	*	*	2.5	2.7	1.2	1.5	0.6	0.7	0.7	0.7	12.5	○	○	○	3-5
13	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	(0.7)	○	○	未報告	
14	久万ノ台3号墳(石室内)	*	2.7	3.0	1.5	1.6	0.6	0.9	0.5	1.0	7.4	○	○	○	3-23
15	*	*	2.9	3.0	1.6	1.7	0.8	1.0	0.7	1.1	8.5	○	○	○	3-40
16	*	*	2.6	2.9	1.5	1.6	0.6	0.7	0.6	0.7	13.0	○	○	○	3-5
17	*	*	(2.4)	2.9	1.5	1.7	(0.3)	0.5	(0.4)	(0.5)	5.1	○	○	○	3-1
18	(施主不明)	*	(2.6)	(2.6)	(1.7)	(1.8)	(0.5)	(0.5)	-	-	(3.1)	○	○	○	未報告
19	忽那山古墳(石室内)	*	(3.2)	(3.6)	(1.5)	(1.6)	(0.7)	(0.8)	0.9	(1.0)	(31.6)	○	○	○	3-3
20	五郎丸衛谷古墳(1号石室)	萬の子町	2.0	2.1	1.0	1.1	0.5	0.7	0.5	0.7	8.6	○	○	○	4-2
21	*	*	2.0	2.0	1.0	1.0	0.5	0.7	0.5	0.7	9.0	○	○	○	4-3
22	*	*	(2.6)	2.8	1.3	1.6	0.7	0.7	-	-	11.6	○	○	○	4-12
23	(出土地不明)	*	(2.6)	2.7	1.6	1.6	(0.5)	(0.5)	0.6	0.6	7.8	○	○	○	未報告
24	*	*	2.6	3.0	1.7	2.0	0.5	0.5	0.5	0.5	8.4	○	○	○	未報告
25	東山鷲が森古墳(1号墳)	東石井町	2.0	2.2	1.1	1.2	0.5	0.7	0.5	0.7	8.9	○	○	○	6-1
26	(2号石室)	*	(1.4)	(1.5)	(1.1)	(1.2)	(0.2)	(0.2)	-	(0.2)	-	○	○	○	6-2
27	*	*	(1.6)	(1.6)	(1.3)	(1.3)	(0.2)	(0.2)	-	(0.4)	-	○	○	○	6-3
28	東山鷲が森4号墳(A室室内)	*	(2.6)	(3.0)	(1.3)	(1.6)	(0.6)	(0.7)	0.7	0.7	(14.9)	○	○	○	6-1
29	*	*	(2.8)	(3.0)	(1.3)	(1.6)	(0.7)	(0.9)	0.7	0.7	(20.8)	○	○	○	6-2
30	*	*	(3.0)	(3.5)	(1.3)	(1.6)	(0.8)	(0.8)	0.8	0.9	(29.8)	○	○	○	6-3
31	*	*	(3.0)	(3.3)	(1.3)	(1.6)	(0.8)	(0.9)	0.9	0.9	(29.3)	○	○	○	6-4
32	*	*	2.5	2.7	1.3	1.6	0.6	(0.6)	0.6	0.7	(14.3)	○	○	○	6-5
33	*	*	2.3	2.6	1.3	1.6	0.5	0.5	0.5	0.5	5.5	○	○	○	6-6
34	*	*	2.1	2.3	1.3	1.4	0.4	0.5	0.5	0.6	6.4	○	○	○	6-7
35	*	*	(2.3)	(2.3)	1.2	1.3	0.5	0.6	0.5	0.7	7.3	○	○	○	6-8
36	*	*	2.3	2.6	1.4	1.6	0.4	0.5	0.5	0.5	5.7	○	○	○	6-9
37	*	*	1.8	1.8	1.3	1.3	0.3	0.3	0.3	0.2	1.7	○	○	○	6-10
38	*	*	2.0	1.8	1.4	1.3	0.2	0.2	0.2	0.2	1.7	○	○	○	6-11
39	*	*	(1.6)	(1.8)	(1.1)	(1.2)	(0.3)	(0.3)	0.3	(0.3)	(1.1)	○	○	○	6-12
40	*	*	(2.2)	(2.3)	(1.2)	(1.4)	(0.5)	(0.4)	0.4	0.4	(3.6)	○	○	○	6-13
41	*	*	2.2	2.4	1.3	1.4	0.5	0.6	0.4	0.6	7.2	○	○	○	6-14
42	*	*	(2.0)	(2.3)	(1.3)	(1.5)	(0.3)	(0.3)	(0.4)	(0.4)	(2.6)	○	○	○	6-15
43	*	*	(1.6)	(2.0)	(1.3)	(1.3)	(0.2)	(0.2)	0.3	0.3	(3.0)	○	○	○	6-16

松山市埋蔵文化財センター保管の耳環

(2)

番号	名 称	所 在	法 量 (cm · g)								特 性	保 存	科 学	文 献	
			a	b	a'	b'	c	d	c'	d'	重さ	中空	芯	無柄	
44	東山古が森4号墳(B石室内)	東石井町	(2.6)	(2.8)	(1.3)	(1.5)	{(0.6)}	{(0.6)}	{(0.6)}	{(0.6)}	(13.9)	○			6-1
45	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	(0.5)	○			6-2
46	東山古が森6号墳(石室内)	*	2.5	2.9	1.4	1.7	0.5	0.5	0.5	0.5	(8.9)	○			6-1
47	*	*	2.7	3.1	1.2	1.5	0.7	0.8	0.8	0.8	(22.4)	○			6-2
48	*	*	-	-	-	-	{(0.4)}	{(0.4)}	-	-	(2.4)	○			6-3
49	*	*	(2.2)	(2.6)	(1.5)	(1.7)	(0.4)	(0.4)	(0.4)	(0.4)	(5.1)	○			6-4
50	東山古が森8号墳(A+B室内)	*	(2.6)	(2.8)	(1.5)	(1.7)	{(0.4)}	{(0.4)}	{(0.4)}	{(0.4)}	(6.6)	○			6-1
51	*	*	(2.7)	(2.9)	(1.5)	(1.8)	{(0.5)}	{(0.5)}	0.5	0.5	(7.0)	○			6-2
52	*	*	(2.8)	(2.9)	(1.3)	(1.5)	{(0.6)}	{(0.6)}	0.7	0.7	(15.7)	○			6-3
53	*	*	-	-	-	-	-	-	0.7	0.7	(1.6)	○			6-4
54	*	*	(2.7)	(3.0)	(1.3)	(1.5)	{(0.6)}	{(0.7)}	0.6	0.7	(17.3)	○			6-5
55	*	*	(2.8)	(3.1)	(1.3)	(1.5)	{(0.7)}	{(0.8)}	{(0.7)}	{(0.8)}	(16.3)	○			6-6
56	*	*	(2.9)	(3.2)	(1.5)	(1.7)	{(0.6)}	{(0.7)}	0.7	0.7	(17.9)	○			6-7
57	*	*	2.3	2.7	1.3	1.5	0.5	0.5	0.4	0.5	(5.8)	○			6-8
58	*	*	2.5	2.7	1.4	1.6	0.5	0.5	0.5	0.5	7.1	○			6-9
59	*	*	2.6	2.6	1.4	1.6	0.4	0.5	{(0.5)}	{(0.4)}	(6.8)	○			6-10
60	*	*	2.4	2.6	1.2	1.2	0.5	0.6	0.6	0.6	10.0	○			6-11
61	*	*	(2.4)	(2.7)	(1.2)	(1.4)	{(0.6)}	{(0.8)}	0.6	0.8	(14.9)	○			6-12
62	*	*	(2.5)	(2.8)	(1.2)	(1.3)	{(0.6)}	{(0.8)}	{(0.6)}	0.8	(14.9)	○			6-13
63	*	*	(2.4)	2.7	1.3	1.6	0.5	0.6	0.5	0.5	8.4	○			6-14
64	*	*	2.2	2.3	1.1	1.2	0.5	0.7	0.5	0.7	7.8	○			6-15
65	*	*	2.2	2.3	1.0	1.2	0.5	0.7	0.5	0.7	9.5	○			6-16
66	*	*	(2.2)	(2.3)	1.2	1.3	0.4	0.5	0.5	0.6	(6.9)	○			6-17
67	東山古が森5号墳(B主体内)	*	1.9	(1.9)	1.3	1.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.8	○			6-1
68	*	*	2.0	2.0	1.4	1.4	0.3	0.2	0.2	0.3	1.2	○			6-2
69	東山古が森8号墳(C主体内)	*	2.3	2.6	1.4	1.7	0.4	0.3	0.4	0.4	5.7	○			6-1
70	東山19号墳(石室内)	*	2.3	2.5	1.1	1.3	0.5	0.7	0.5	0.7	10.0	○			7-219
71	*	*	2.3	2.4	1.2	1.3	0.5	0.7	0.5	0.7	10.5	○			7-220
72	*	*	2.7	3.1	1.3	1.6	0.6	0.8	0.7	0.7	18.6	○			7-221
73	坂本1号墳(石室内)	福角町	2.1	2.2	1.1	1.2	{(0.4)}	{(0.4)}	0.4	0.4	(2.7)	○	○		8-155
74	*	*	2.5	2.8	1.4	1.7	0.5	0.7	0.6	0.7	15.4	○	○		8-156
75	*	*	2.3	2.7	1.4	1.5	0.5	0.6	0.5	0.6	11.6	○	○		8-157
76	*	*	2.3	2.6	1.3	1.6	0.4	0.6	0.4	-	11.0	○	○		8-158
77	*	*	2.7	3.0	1.3	1.6	0.6	0.8	-	-	21.6	○	○		8-159
78	*	*	2.7	2.9	1.4	1.5	0.6	0.8	-	-	18.3	○	○		8-160
79	坂本2号墳(石室内)	*	2.5	2.7	1.3	1.4	0.5	0.6	-	-	11.1	○	○		8-198
80	平井谷1号墳(石室内)	平井町	2.1	2.2	1.1	1.2	0.4	0.7	-	-	8.8	○	○	○	9-22
81	*	*	2.1	2.3	1.2	1.2	0.5	0.7	-	-	10.0	○	○	○	9-23
82	*	*	(2.3)	2.4	(1.3)	(1.5)	{(0.4)}	0.5	-	-	(5.4)	○	○	○	9-24
83	*	*	2.3	2.4	(1.5)	1.4	{(0.3)}	0.5	-	-	(5.0)	○	○	○	9-25
84	*	*	2.3	2.5	1.3	1.4	0.5	0.4	-	-	6.7	○	○	○	9-26
85	*	*	(2.6)	(3.1)	(1.3)	(1.6)	{(0.7)}	{(0.8)}	-	-	(20.6)	○	○	○	9-27
86	*	*	(2.8)	(3.1)	(1.5)	(1.6)	{(0.6)}	{(0.6)}	-	-	(14.4)	○	○	○	9-28
87	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	9-29

松山市埋蔵文化財センター保管の耳環

(3)

番号	名 称	所 在	法 量 (cm · g)								特 徴	保 有	科 学 分 析	文 献
			a	b	a'	b'	c	d	c'	d'	重さ			
88	影浦谷1号墳(石室内)	山越	2.2	2.3	1.7	1.7	0.2	0.2	-	-	2.6	○		10-62
89	*		2.5	1.8	2.9	1.4	0.2	0.2	-	-	1.2	○		10-63
90	影浦谷3号墳(石室内)	*	(2.2)	(3.0)	1.4	1.6	0.6	0.7	-	-	(13.8)	○		10-260
91	*	*	(2.6)	(3.0)	1.4	1.6	0.6	0.8	-	-	(14.6)	○		10-261
92	*	*	2.1	2.3	1.1	1.3	0.5	0.7	-	-	8.4	○		10-262
93	*	*	2.0	2.3	1.1	1.1	0.5	0.7	-	-	8.5	○		10-263
94	客谷8分墳(石室内)	南江戸	2.6	2.9	1.3	1.5	0.6	0.8	-	-	17.0	○		11-19
95	*	*	2.6	2.9	1.4	1.6	0.5	0.8	-	-	15.3	○		11-20
96	*	*	2.4	2.4	1.5	1.5	0.4	0.4	-	-	3.1	○		11-21
97	客谷9号墳(△石室内)	*	(2.3)	2.8	1.1	1.3	0.6	0.8	-	-	9.1	○		11-105
98	*	*	(2.4)	(2.8)	(1.2)	(1.4)	(0.6)	(0.7)	-	-	(10.9)	○		11-106
99	*	*	(2.8)	(2.9)	(1.5)	(1.6)	(0.5)	(0.5)	-	-	(10.0)	○		11-107
100	客谷古墳B地区(E T 8)	*	2.8	-	1.7	-	0.5	0.7	0.6	0.6	(9.9)	○		木報告
101	客谷古墳A地区(4号A石室)	*	2.9	3.2	1.4	1.6	0.7	0.8	0.8	0.8	26.7	○	*	*
102	*	*	3.2	3.5	1.6	1.8	0.8	0.9	0.9	0.9	33.2	○	*	*
103	*	*	2.7	(3.1)	1.5	1.8	(0.6)	0.6	(0.7)	(0.7)	(16.2)	○	*	*
104	*	*	(2.9)	3.3	1.4	1.7	0.7	(0.7)	(0.7)	(0.8)	(25.6)	○	*	*
105	*	*	2.5	2.8	1.5	1.8	0.5	0.5	0.5	0.5	8.9	○	*	ア
106	*	*	2.5	(2.5)	1.5	1.7	0.4	0.4	0.5	0.4	(5.0)	○	*	イ
107	大池東1号墳(1号石室内)	*	-	(3.1)	1.2	1.7	(0.5)	(0.9)	-	-	(16.7)	○	○	12-27
108	*	*	(2.6)	(2.7)	(1.5)	(1.7)	(0.4)	(0.4)	-	-	(6.0)	○	○	12-28
109	*	*	2.7	2.8	1.4	1.6	0.6	0.7	-	-	(11.3)	○	○	12-29
110	*	*	-	(2.4)	-	(1.6)	(0.4)	(0.6)	-	-	(3.8)	○	○	12-30
111	*	*	(2.3)	2.6	1.2	1.3	0.5	(0.7)	-	-	(4.0)	○	○	12-31
112	*	*	2.3	(2.4)	1.3	1.4	0.4	0.6	-	-	(6.6)	○	○	12-32
113	*	*	2.1	2.1	1.1	1.2	0.4	(0.5)	-	-	(4.9)	○	○	12-33
114	*	*	2.1	2.1	1.1	1.2	0.4	0.6	-	-	5.0	○	○	12-34
115	*	*	2.1	2.1	1.1	1.2	0.4	0.7	-	-	5.6	○	○	12-35
116	*	*	2.3	2.7	1.3	1.5	0.5	0.6	-	-	8.2	○	○	12-36
117	大池東1号墳(前庭部)	*	3.0	3.2	1.4	1.7	0.7	0.9	-	-	24.7	○	○	12-79
118	大池東2号墳(石室内)	*	2.9	3.0	1.6	1.6	0.6	0.7	-	-	(4.8)	○	○	12-95
119	*	*	(2.6)	2.9	1.3	1.6	0.6	0.8	-	-	(15.6)	○	○	12-96
120	*	*	(2.6)	3.0	1.3	1.6	(0.7)	(0.7)	-	-	(12.8)	○	○	12-97
121	*	*	-	-	-	-	(0.7)	(0.7)	-	-	(3.0)	○		12-98
122	石井東小学校構内(SD1)	越智町	(2.6)	(2.8)	(1.5)	(1.8)	(0.4)	(0.4)	-	-	(7.4)	○		13-319
123	瀬戸風崎1号墳(石室内)	下伊豆町	(2.7)	(2.7)	(2.1)	(2.0)	(0.3)	(0.3)	-	-	(2.3)	○		14-83
124	*	山田町	(1.8)	(1.7)	(1.3)	(1.2)	(0.2)	(0.2)	-	-	(1.1)	○		14-84
125	*	*	(1.8)	(1.8)	(1.2)	(1.2)	(0.3)	(0.2)	-	-	(1.8)	○		14-85
126	瀬戸風崎3号石巻土坑墓内	*	(1.9)	(1.7)	(1.4)	(1.5)	(0.1)	(0.1)	-	-	(0.4)	○		14-138
127	瀬戸風崎4号墳(石室内)	山田町	2.0	2.1	1.0	1.1	0.5	0.8	-	-	11.3	○	○	14-182
128	瀬戸風崎5号墳(石室内)	祝谷東町	2.6	2.6	1.4	1.4	0.6	0.9	-	-	8.4	○		14-261
129	*	*	2.4	2.6	1.3	1.4	0.6	0.9	-	-	9.3	○		12-262
130	早ノ岡跡(旗立地区)	早岡町	(2.6)	2.8	1.8	1.9	0.4	0.4	(0.4)	(0.4)	(3.7)	○		木報告
131	*	*	2.1	(2.1)	1.4	(1.4)	0.4	0.4	(0.6)	0.5	(2.6)	○		*

松山市埋蔵文化財センター保管の耳環

(4)

番号	名 称	所 在	法 量 (cm + g)							特 徴	保 有	科 学 分 析	文 献	
			a	b	a'	b'	c	d	c'	d'	重さ			
132	東野お茶屋 5次	東 勝	(2.5)	(2.8)	1.5	1.7	(0.6)	(0.5)	(0.5)	(0.6)	(5.2)	○	○	○ 未報告
133	*	*	(2.6)	(2.8)	1.6	1.7	(0.4)	(0.5)	0.5	(0.5)	(7.7)	○	○	*
134	古照:ウラ 3次 2区	南 江 戸	1.9	2.1	1.0	1.2	0.4	(0.6)	0.5	(0.6)		○		*
135	乃万の森2次 G7区 A③号	北 久 末	(1.8)	(2.0)	(1.1)	1.3	(0.2)	(0.3)	(0.5)	(0.6)	(2.9)	○		*
136	福音小学校構内	福 音 寺	(1.7)	(2.0)	1.0	1.1	(0.3)	(0.4)	(0.4)	(0.5)	(3.3)	○	○	*
137	東山16次20号主体部	東 石 井	(1.9)	(2.0)	(1.2)	(1.2)	(0.5)	(0.4)	0.5	(0.5)	(4.5)	○		*
138	タ 25号埴	*	2.6	2.8	1.4	1.6	0.6	0.6	0.7	0.7	16.1	○	○	*
139	タンチ山古墳1号墳	北 久 末	2.4	2.7	1.3	1.5	0.5	0.8	0.6	0.8	15.3	○		未報告
140	*	*	2.3	2.5	1.3	1.4	0.5	0.8	0.6	0.8	12.6	○		*
141	*	*	2.4	2.7	1.3	1.5	0.5	0.8	0.6	0.8	16.3	○		*
142	鶴が峰7号墳	石 川 岳	-	-	1.4	1.5	0.7	1.0	-	-	(1.8)	○	○	15
143	東野中塚	東 勝	2.2	2.4	1.2	1.3	0.5	0.7	0.6	0.7	5.2	○	○	○

〔資料一覧文献〕

- 1) 岸 郁男・森 光晴・長井数秋 1972 「二島神社古墳」 松山市教育委員会
- 2) 森 光晴 1975 「かいなご・松ヶ谷古墳」 松山市教育委員会
- 3) 森 光晴 1976 「御所11号古墳・忽那山古墳・久万ノ台古墳」 松山市教育委員会
- 4) 森 光晴 1978 「五郎兵衛谷古墳」 松山市教育委員会・松山市文化財協会
- 5) 松山市史料叢編委員会 1980 「松山市史料叢 第一巻 考古編」
- 6) 西尾幸則 他 1981 「東山鹿が森古墳群調査報告書」 松山市教育委員会
- 7) 田城武志・高尾和長 1994 「東山古墳群-4・5次調査-」 松山市教育委員会・
　　松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 8) 斎田茂敏 1991 「北谷干神ノ木古墳・塚本古墳」 松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター
- 9) 田城武志・高尾和長 1993 「かいなご 3号墳・半井谷1号墳」 松山市教育委員会・
　　松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 10) 斎田茂敏 1993 「影浦谷古墳」 松山市教育委員会・
　　(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 11) 梅木謙一 1994 「大峰ヶ台丘陵の遺跡」 松山市教育委員会・
　　(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 12) 高尾和長 1998 「大峰ヶ台遺跡 - 9次調査-」 松山市教育委員会・
　　(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 13) 梅木謙一 1998 「石井・浮穴の遺跡」 松山市教育委員会・
　　(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 14) 相原浩二 1998 「潮川・風林道路」 松山市教育委員会・
　　(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 15) 愛媛県史編さん委員会 1986 「愛媛県史 資料編 考古」

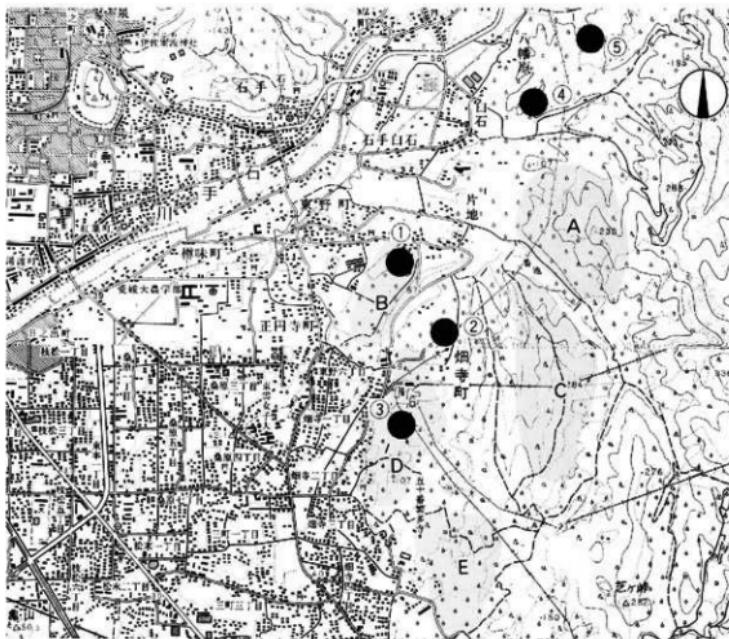
第13章 桑原地区の古墳出土資料

1. はじめに

桑原地区は松山平野北東部、石手川左岸の丘陵部と扇状地とからなる。地区東側丘陵部には、東野古墳群をはじめ、東野お茶屋台古墳群、東野池古墳群、畠寺古墳群、桑原古墳群など、数多くの古墳が所在する。これらの古墳群のうち、調査を実施したものは東野お茶屋台古墳（1～5次調査）、畠寺竹ヶ谷古墳、畠寺6号墳、溝辺1号墳である（第34図）。

今回報告する須恵器資料は、松山市が所蔵し、整理作業が進行している東野お茶屋台4号墳、畠寺竹ヶ谷古墳、畠寺6号墳、溝辺1号墳から出土したものと、愛媛県が所蔵する東野お茶屋台9号墳、10号墳から出土したもの一部である。

以下、上記の4古墳から出土した資料について実測図を掲載し、その特徴を記述する。



A 東野古墳群 B 東野お茶屋台古墳群 C 東野池古墳群 D 畠寺古墳群 E 桑原古墳群
① 東野お茶屋台古墳 ② 畠寺竹ヶ谷古墳 ③ 畠寺6号墳 ④ 溝辺1号墳 ⑤ 東野中畦跡

第34図 桑原地区の主要古墳分布図 (S=1:25,000)

2. 資 料

(1) 東野お茶屋台古墳 (第35~37図)

所 在 松山市東野町4丁目219、5丁目甲898

立 地 石手川左岸の低位段丘陵斜面 標高68~73m

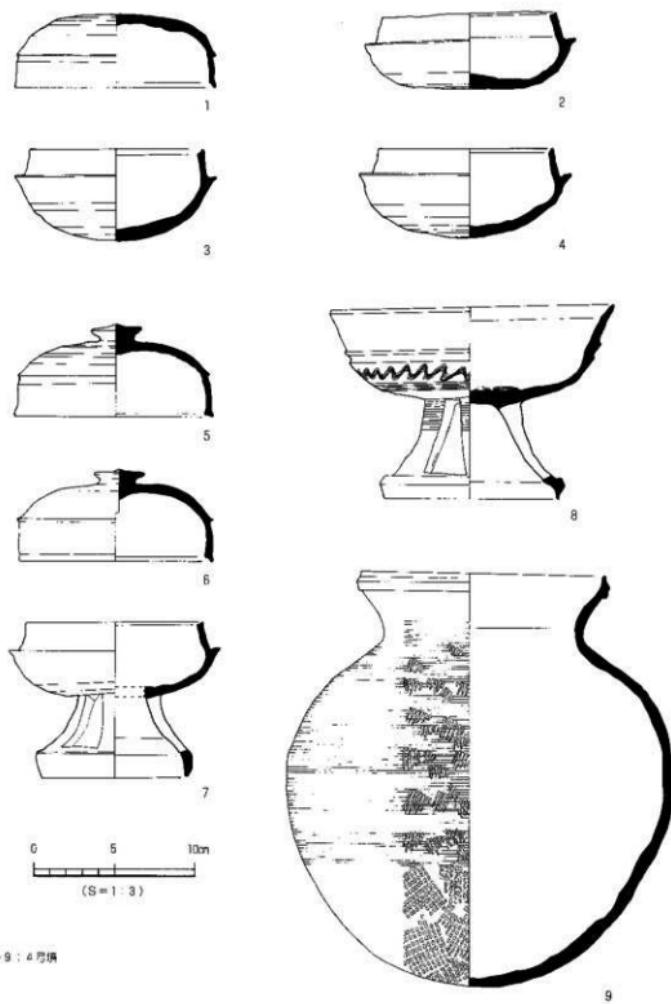
遺 構 東野お茶屋台古墳は、これまでに5次の調査が実施され11基の古墳が確認されている。報告する資料は3次調査検出の4号墳、4次調査検出の9号墳、10号墳から出土したものである。4号墳は直径15mの円墳と推定されている。主体部は未検出で、円形の周溝（幅1.5m、深さ0.5m）のみを検出している。周溝内からは須恵器、埴輪片がまとまって出土している。9号墳は、4号墳の東100mの地点に位置する。L字状に折れ曲がる溝（幅3.0~6.0m）を検出しており、方墳と考えられている。周溝内からは須恵器、土師器、埴輪（円筒・形象）、鐵鎌、鐵劍、石鎌が出土している。10号墳は4号墳の南西50mの地点に位置する。主体部は未検出であり、円形の周溝（幅3.0~5.0m）を検出しており、円墳と推定されている。周溝内からは須恵器、円筒埴輪、磁石が出土している。

遺 物 第35図1~9、第36図10・11は4号墳出土品である。器種には蓋坏、高坏、壺がある。第36図12・13、第37図14は9号墳、第37図15は10号墳出土品である。器種には高坏、壺、器台がある。このうち、13・14は非陶邑系須恵器である。

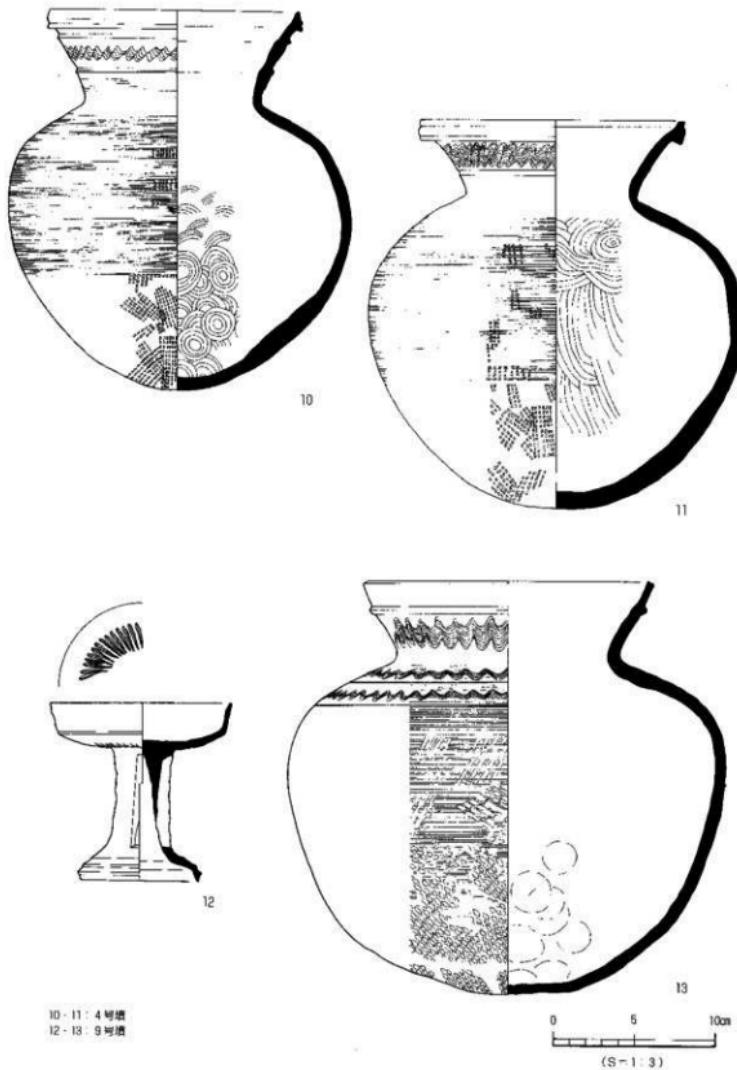
1は坏蓋で、断面三角形状の鋭い稜をもち、口縁端部は内傾する凹面をなす。2~4は坏身で、たちあがり端部は内傾し、3は端面に沈線状の凹みをもつ。5・6は有蓋高坏の蓋で、つまみ中央部が突出する。7は有蓋高坏で、台形状の透かしを三方向に穿つ。8は無蓋高坏で、坏部中位に2条の凸線が巡り、凸線下に波状文（6条1組）と回転カキメ調整を施す。脚部には台形状の透かしを三方向に穿つ。9~11は広口壺で、9・10は口縁端部を上方に拡張し、10は頸部に3条の凸線と波状文（5条1組）を施す。11は口縁端部を上下方に拡張し、頸部に沈線1条と波状文（8条1組）を施す。9・10は頸部外面に回転カキメ調整を施し、胴部外面には回転カキメ調整後、格子目叩きを施す。12は無蓋高坏で、坏部下位に稜をもち坏部下面には刺突点文が放射状に巡る。脚部には長方形状の透かしが三方向に施されているが、透かし上部は貫通していない。13は非陶邑系の完形の壺で、口径17.7cm、器高25.0cm、胴部最大径26.7cmを測る。口縁部は上外方に開き、肩部の張りが強い。口縁部下1.5~1.7cmの外面に1条の凸帶が巡る。頸部は波状文（10条1組）、肩部には沈線2条と波状文（6条1組）2段を施す。口縁部外面はナデ、胴部は斜格子目叩き（一辺4~5mm）を施した後、回転カキメ調整を施す。内面は口縁部と胴上半部はナデ調整、胴下半部には無文の當て具痕が看取される。底部には、當て具ないし指頭や指ナデによる凹凸がみられる。14・15は器台である。14は非陶邑系須恵器で、推定LJ径37.3cm、推定底径30.6cm、器高35.6cmを測る。坏部下面に凹線状の凹み、台部上面には凸線状の高まりが数箇所にみられることから、坏部と台部とを別々に作成し、接合したものといえる。口縁部は短く外反し、口縁部下に2条、坏部中位と下位にそれぞれ2条ずつの凸線が巡る。これらの凸線により、坏部は三区分（上・中・下段）され、上段と中段には波状文（8条1組）を施し、下段は無文となる。坏部下段の外面には平行叩きを施した後、ナデ調整を施す。台部は上位、中位、下位にそれぞれ2条ずつの凸線が巡る。凸線により四区分（上・中・下・最下段）され、上・中・下段には波状文（7条以上1組）を施し、最下段は無文となる。さらに、最下段を除き、長方形

東野お茶屋台古墳

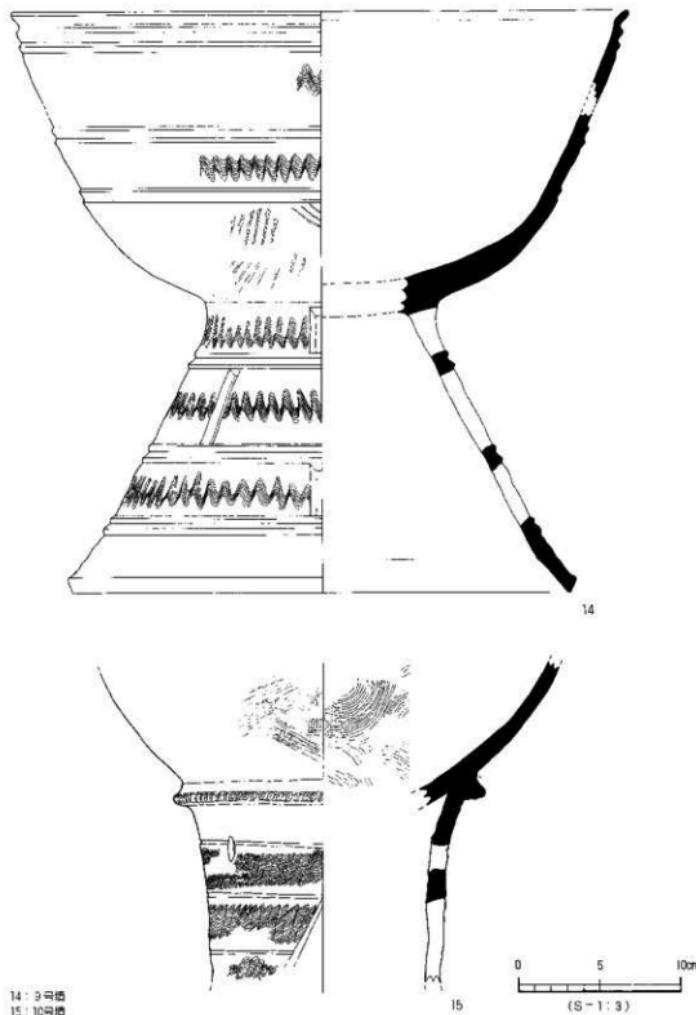
状の透かしが、千鳥状に配置される。15は台部上端部に刻目凸帯が1条、柱部には3条の沈線が巡る。沈線間にには波状文と径1.7cm大の円孔が二箇所、三角形状の透かしが四箇所に看取される。



第35図 東野お茶屋台古墳出土遺物実測図(1)



第36図 東野お茶屋台古墳出土遺物実測図 (2)



第37図 東野お茶屋台古墳出土遺物実測図 (3)

(2) 番寺竹ヶ谷古墳(第38・39図)

所 在 松山市畠寺町丙238-28

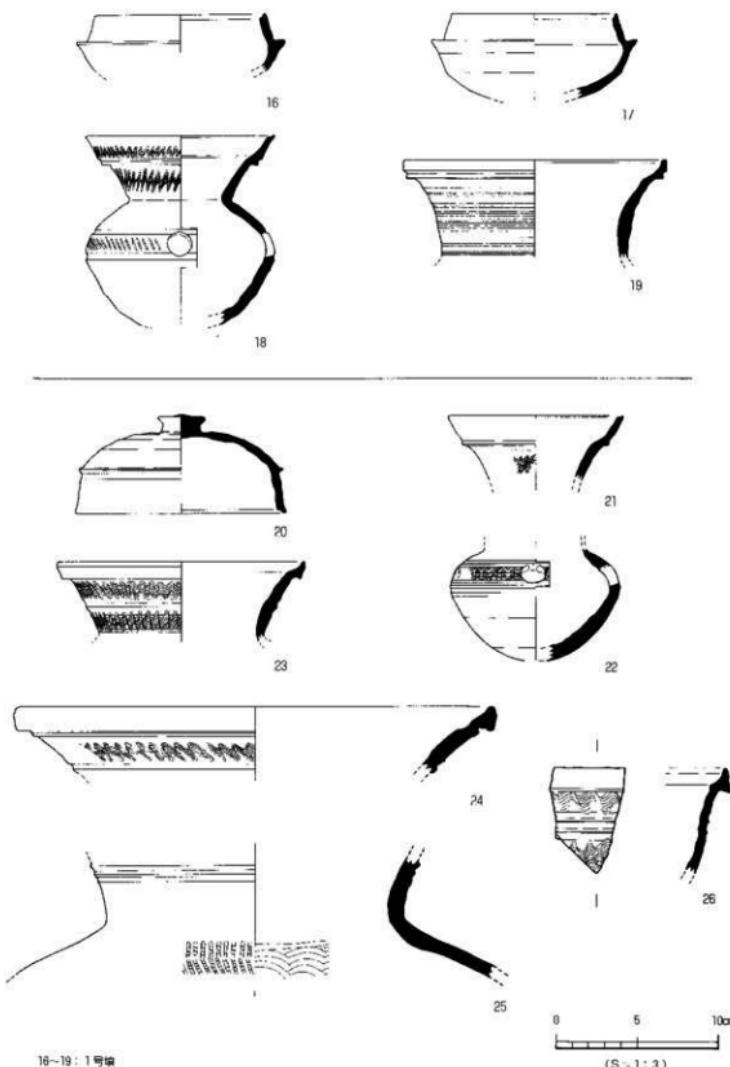
立 地 右手川左岸の低位丘陵の尾根部 標高68~72m

遺 構 番寺竹ヶ谷古墳は、昭和58年、桑原中学校建設に伴い松山市教育委員会が発掘調査を実施し確認したものである。古墳は封土と主体部を失い、周溝のみの検出である。丘陵尾根部に沿って、2~10mの間隔で円墳(直径7.0~11.0m)9基が1列状に確認された。周溝は幅2.0~3.0m、深さ0.5~1.0mを測る。このうち、1・2・5・7・9号墳からは須恵器が出土し、さらに9号墳からは直刀1点が出土した。なお、5号墳からは非陶邑系須恵器が1点出土している。

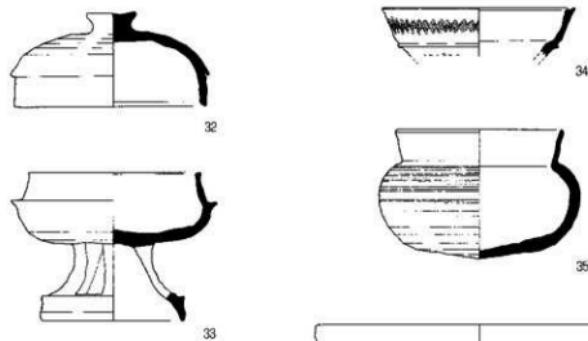
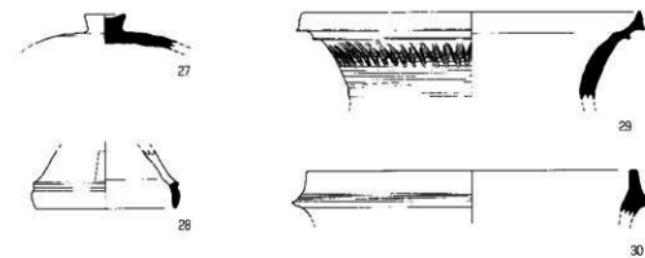
遺 物 第38図16~19は1号墳出土品で、器種には壺身、甌、壺がある。第38図20~26は2号墳出土品で、器種には高坏、甌、壺、甕、器台がある。第39図27~30は5号墳出土品で、器種には高坏と壺がある。第39図31は7号墳出土の甌である。第39図32~36は9号墳出土品で、器種には高坏、甌、壺がある。

16・17は壺身片で、たちあがり端部は内傾し、端面に沈線状の凹みをもつ。18は甌で、口頭部に波状文、胴部中位には沈線2条が巡る。沈線間に刺突点文を施し、径1cm大的孔を穿つ。19は壺で、口縁端部は上方に拡張し、口縁部下に1条の凸線が巡る。頸部には回転カキメ調整を施す。20は有蓋高坏の蓋で、つまみ中央部が突出する。断面三角形状の鋭い稜をもち、口縁端部は内傾する。21・22は甌で、頸部に波状文、胴部中位には回転カキメ調整を施した後、波状文と円孔を施す。23は広口壺で、口縁端部は上下方に拡張し、頸部に2条の凸線が巡り、凸線の上下には波状文(8条1組)を施す。24・25は壺で、24は口縁端部を上下方に拡張し、頸部に沈線2条と沈線間に波状文(12条1組)を施す。25は頸部に2条の凸線が巡り、肩部外面は平行叩き、内面には円弧叩きを施す。26は器台で、口縁端部を上下方に拡張し、頸部には2条の凸線が巡り、凸線の上下にそれぞれ一段と三段の波状文を施す。27は有蓋高坏の蓋で、つまみ中央部がやや凹む。28は高坏の脚部片で、脚裾部には1条の凸線が巡り、柱部に透かしを看取る。29~31は甌で、29は口縁端部を上方に拡張し、口縁部直下に1条の凸線が巡る。頸部には回転カキメ調整を施した後、波状文(12条1組)を施す。30は非陶邑系須恵器の甌の口頭部片である。口縁部は内傾し、口縁端部は面をもつ。頸部に断面三角形状の凸帶を1条もつ。内外面共に回転ナデ調整を施し、色調は外面が灰色、内面は灰白色を呈する。31は口縁部が外反し、口縁部下に1条の凸線が巡る。頸部上位と肩部に回転カキメ調整を施す。32は有蓋高坏の蓋で、つまみ中央部がやや突出する。稜は下方に短くのび、口縁端部は内傾する。33は有蓋高坏で、たちあがり端部は内傾し、底部は扁平である。脚裾部に1条の凸線が巡り、脚端面はやや凹む。柱部に断面三角形状の透かしを三方向に穿つ。34は甌で、頸部に1条の凸線をもち、口頭部に波状文(6条1組)を施す。35は短甌で、口縁部はやや長く外傾し、口縁端部は丸く仕上げる。底部は扁平となる。胴上半部に回転カキメ調整、胴下半部には回転ヘラケズリ調整を施す。36は広口壺で、口縁端部を上下方に拡張し、頸部に凸線1条と波状文を施す。

畠寺竹ヶ谷古墳



第38図 畠寺竹ヶ谷古墳出土遺物実測図(1)



27~30: 5号墳
31: 7号墳
32~36: 9号墳

0 5 10cm
(S = 1: 3)

第39図 煙寺竹ヶ谷古墳出土遺物実測図 (2)

畠寺6号墳

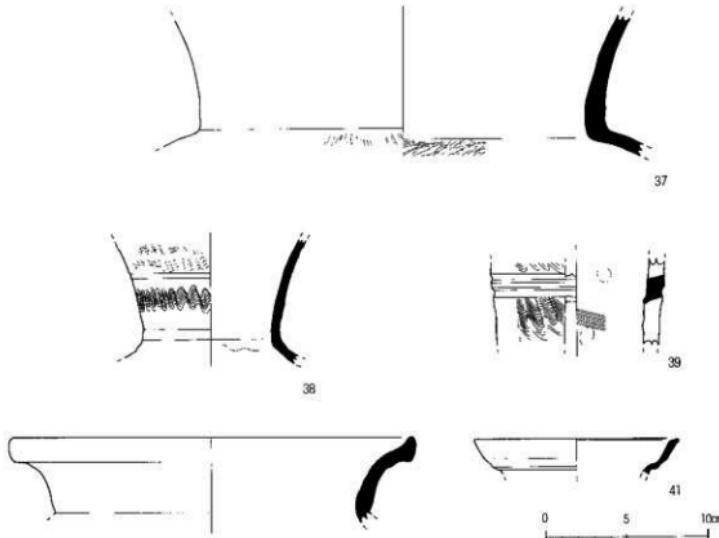
(3) 畠寺6号墳(第40図)

所 在 松山市畠寺町内1-1他

立 地 畠寺古墳群内の西側丘陵斜面 標高68m

遺 構 畠寺6号墳は、平成8年に松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、確認した古墳である。直径26mの円墳と推定される。主体部は未検出であり、墳丘と周溝(幅2.5~4.5m、深さ0.5m)を検出した。周溝内からは須恵器片と埴輪片(須恵質・土師質)、墳丘内からは須恵器片、土師器片が出土したほか、円筒埴輪列(土師質)を検出した。

遺 物 第40図37~41は本古墳出土品である。37~39は墳丘内、40は周溝内、41は墳丘内に設定したトレンチから出土したものである。37は壺で、頸部は外反し、肩部外面に平行叩き、内面に円弧叩きを施す。38は壺で、頸部に1条の沈線と沈線の上下に波状文を施す。39は器台で、2条の凸線が巡り、凸線の上下に波状文と長方形透かしを施す。40は壺で、口縁部は外反し、口縁端部を上方に拡張する。41は壺で、口縁端部は凹む。



第40図 畠寺6号墳出土遺物実測図

(4) 溝辺1号墳(第41・42図)

所 在 松山市溝辺町28番地

立 地 石手川左岸の丘陵斜面

遺 構 溝辺1号墳は、昭和51年、松山市教育委員会が発掘調査を実施し、確認した古墳である。直径12mの円墳で、1墳丘に2基の石室をもつ。両者共に、長方形状の竪穴式石室構造となる。1号石室は南北方向に長辺をとるもので、東側壁長2.64m、西側壁長2.53m、北側壁長1.20m、南側壁長1.05mを測る。2号石室は長辺1.20m、短辺0.50mを測る。遺物は、1号石室内から須恵器、鉄鎌、鉄鋸、直刀、刀子、銅先、轡、人骨が出土した。2号石室からは須恵器、刀子、ガラス玉、管玉、人骨が出土した。このほか、調査地内にて3条の溝を検出した。1号墳に伴うものかは判断しえないが、溝内から少量の須恵器片が出土しており、参考資料として紹介する。

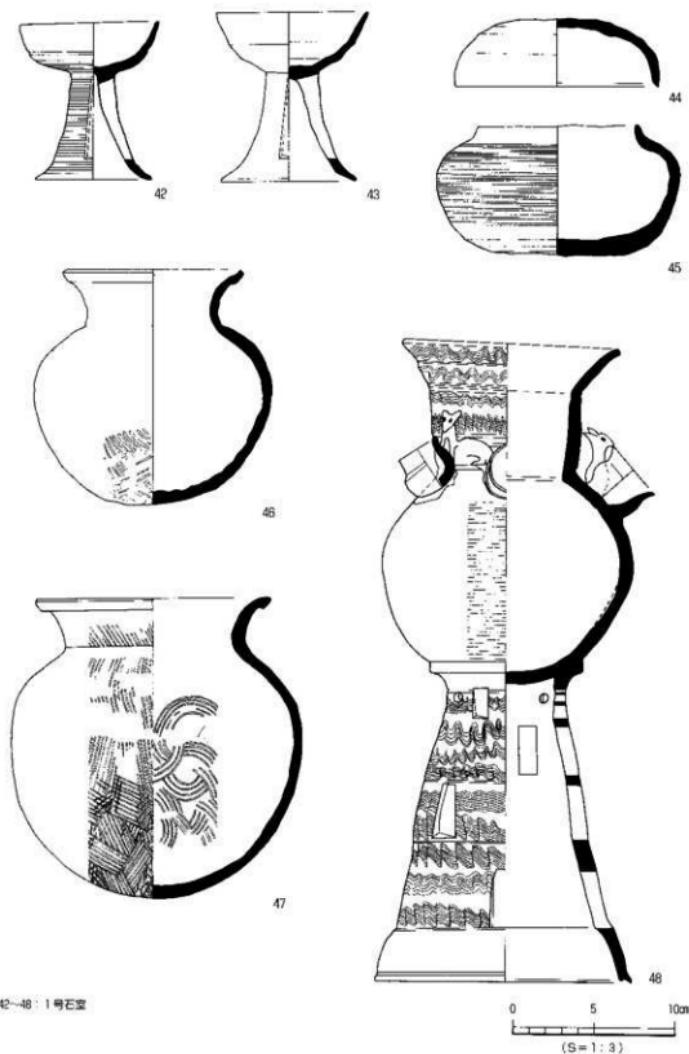
遺 物 第41図42~48は1号石室出土品である。器種には蓋、高坏、壺がある。第42図49~51は2号石室出土の壺である。第42図52~58は溝出土品である。器種には、坏蓋、高坏、壺、壺がある。

42・43は無蓋高坏で、三方向に三角形状の透かしを1段もつ。42は坏部に1段、43は2段の稜をもつ。口縁端部及び脚端部は丸く仕上げる。44・45はセットで出土した有蓋壺である。44は蓋で、天井部と口縁部境にわずかに稜をもつ。45は短頸壺で、底部は平底となる。胴下半部から底部外面は回転ヘラケリ調整、胴上半部には回転カキメ調整を施す。46・47は広口壺で、胴部は球形を呈し、底部は丸底となる。46は口縁部を上方に拡張し、口縁部内面に弱い稜をもつ。外面は平行叩きを重複して施し、内面には円弧叩きを施す。48は装飾台付子持壺である。壺の肩部には2頭の小獸と6個の小壺が対称位置に付けられている。小獸は立姿勢と座姿勢のものとがある。壺は口縁部に2条、口縁部境に2条、頸部に2条、頸部境に1条の沈線が巡る。さらに、口縁部には波状文が1段ずつ(5条1組・4条1組)、頸部には波状文2段(5条1組・7条1組)を施す。台部は円錐状を呈し、上端部付近に径0.3cm大の孔を三孔穿つ。台部は、4条の沈線が巡ることで四区分(上・中・下・最下段)され、最下段は無文となる。上・中・下段にはそれぞれ波状文(5条1組・7条1組)が4段、2段、3段施されている。さらに、長方形状の透かしが1辺の二等分線上に配置されている。調整は、壺の胴部外面には格子目風の叩き、台部外面及び内面には丁寧なナデを施す。

49は有蓋壺の蓋で、口縁端部は内傾する。50は短頸壺で、肩部に張りをもち、底部は丸底となる。調整は内面がナデ、外面は口縁部から胴部上半部がナデ、胴部下半部には叩き痕を残す。51は広口壺で、底部は平底となる。頸部は外反し、口縁部内面はナデにより凹む。頸部及び胴部外面には回転カキメ調整を施す。

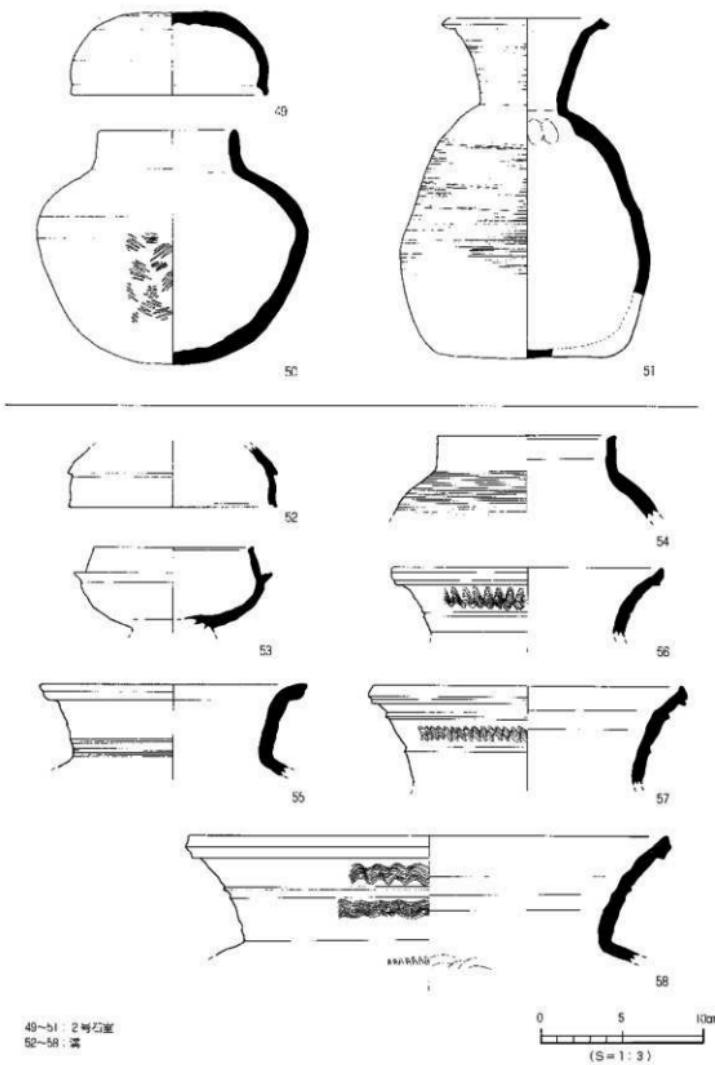
52は坏蓋で、丸みのある断面三角形状の鋭い稜をもつ。53は有蓋高坏で、たちあがり端部は内傾する。54は短頸壺で、口縁端部は内傾する。肩部外面に回転カキメ調整を施す。55~57は広口壺で、56は頸部に1条の沈線と波状文、57は口縁部下に1条、頸部に2条の凸線が巡り凸線間に波状文を施す。58は壺で、口縁端部を下方に拡張し、頸部には2条の凸線が巡り、凸線の上下に波状文を施す。調整は肩部外面は平行叩き、内面には円弧叩きを施す。

溝辺1号墳



42~48：1号石室

第41図 溝辺1号墳出土遺物実測図(1)



第42図 満辺1号墳出土遺物実測図(2)

3. まとめ

現在までに、桑原地区では5世紀後半から6世紀までに時期比定される古墳の存在が確認されている。これらの古墳に対応する集落は、古墳が所在する丘陵部西方の扇状地上に展開するものと考えられる。近年の調査では、5~6世紀代に比定される竪穴式住居址が樽味立派遺跡や樽味高木遺跡などで確認されており、これらの遺跡が、いずれかの古墳と対応するものと考えている。

今回報告する資料のうち、注目されるものに非陶邑系須恵器がある。桑原地区での非陶邑系須恵器の出土は、東野お茶屋台9号墳の壺と器台1点と、畠寺竹ヶ谷9号墳出土の壺の口縁部片1点である。特に東野お茶屋台9号墳出土の壺は、桑原地区南西部の東山古墳と出作遺跡とで類似品が出土している。非陶邑系須恵器は、松山平野において6世紀初頭まで集落内に存在していた可能性が、近年の調査で想定されるところである。ただし、その出土量はごくわずかであり、大半は陶邑系のものである。

以上、4古墳の資料提示を行った。桑原地区東部の丘陵上には、未確認・未調査の古墳が数多くある。今後とも、分布・確認調査及び発掘調査を実施し、桑原地区的古墳様相と集落との関係を追及していく必要がある。

最後になったが、資料を提供してくださった愛媛県埋蔵文化財調査センターには、末尾になったが、記して感謝申し上げます。

【参考文献】

- 森 光晴 1980 「東野お茶屋台古墳」「愛媛県史 資料編 考古」 愛媛県史編さん委員会
- 岡本 安光 1979 「東野遺跡埋蔵文化財調査報告書」 愛媛県教育委員会
- 西尾 幸則 1980 「畠寺竹ヶ谷古墳」「愛媛県史 資料編 考古」 愛媛県史編さん委員会
- 木本 完児 1997 「畠寺6号墳」「桑原地区的道路Ⅲ」 松山市教育委員会・御松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 森 光晴 1979 「溝辺遺跡埋蔵文化財調査報告書」 愛媛県教育委員会
- 梅木 謙一 1992 「樽味立派遺跡」「樽味高木遺跡」「桑原地区的遺跡」 松山市教育委員会・御松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 1994 「松山平野における非陶邑系須恵器に関する一考察」「東山古墳群－4・5次調査－」 松山市教育委員会・御松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 谷哲 健郎 1993 「出作遺跡」 松前町教育委員会
- 松 山 市 1980 「松山市史料集第1巻 考古編」 松山市史料集編集委員会
- 松 山 市 1986 「松山市史料集 第2巻括刷 考古編II」 松山市史料集編集委員会
- 松 山 市 1992 「松山市史 第1巻 自然・原始・古代・中世」 松山市史編さん委員会
- 愛 媛 県 1983 「愛媛県史 原始・古代I」「愛媛県史編さん委員会
- 愛 媛 県 1991 「愛媛県内古墳一分布調査報告書I」 愛媛県教育委員会共術・文化財室

— 凡 例 —

遺物観察表

(1) 以下の表は、本稿掲載の遺物観察一覧である。

(2) 各記載について

法量欄()：復元推定値

調整欄 土器の各部位名称を略記。

例) 口→口縁部、頭→頭部、肩→肩部、胴→胴部、底→底部、坏→坏部、

脚→脚部、天→天井部、た→たちあがり、つ→つまみ

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記。

例) 石→石英、長→長石、密→精製土。

() 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長(1~3) → 「1~3 mmの大の石英、長石を含む」

焼成欄の略記について。

◎→良好、○→良

表4 東野お茶屋台古墳出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 内面	胎土 焼成	備考	国版
				外 面	内 面				
1	坏蓋	口 径 12.3 器 高 4.4	扁平な天井部。断面三角形の鋭い棱あり。口縁部は内傾する凹面をなす。完形品。	①回転ヘラケズリ/2 ②回転ナデ ③回転ナデ	④ナデ ⑤回転ナデ ⑥青灰色 ⑦青灰色	青灰色 青灰色	密 ◎	4号墳	
2	坏身	口 径 10.7 受部径 13.0 器 高 4.7	たちあがり端部は内傾する凹面をなす。 受部は上外方にのび底部は平底。	①回転ナデ ②回転ナデ ③回転ヘラケズリ/2	回転ナデ 回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	4号墳	
3	坏身	口 径 10.7 受部径 12.4 器 高 5.6	たちあがり端部は内傾し、沈線状の凹みあり。底部は丸底。	①回転ナデ ②回転ナデ ③回転ヘラケズリ/2	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥青灰色 ⑦青灰色	青灰色 青灰色	密 ◎	4号墳	
4	坏身	口 径 10.6 受部径 13.0 器 高 5.4	たちあがり端部は内傾。底部は丸底。 受部端に沈線状の凹みあり。	①回転ナデ ②回転ナデ ③回転ヘラケズリ/2	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥青灰色 ⑦青灰色	青灰色 青灰色	密 ◎	4号墳	
5	蓋	口 径 3.1 器 高 5.6	有蓋高环の蓋。つまみ中央部は突出。 口縁部は内傾する凹面をなす。 完形品。	①回転ナデ ②回転ヘラケズリ/2 ③回転ナデ	④ナデ ⑤回転ナデ ⑥青灰色 ⑦青灰色	青灰色 青灰色	密 ◎	4号墳	
6	蓋	口 径 3.1 器 高 5.6	有蓋高环の蓋。つまみ中央部は突出。 口縁部は内傾する凹面をなす。 完形品。	①回転ナデ ②回転ヘラケズリ/2 ③回転ナデ	④ナデ ⑤回転ナデ ⑥青灰色 ⑦青灰色	青灰色 青灰色	密 ◎	4号墳	
7	高坏	口 径 10.8 受部径 8.9 器 高 9.5	有蓋高环。たちあがり端部は内傾する凹面をなす。台形状の透かしを3方向に穿つ。	①回転ナデ ②回転ヘラケズリ/2 ③回転ナデ	回転ナデ 回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	4号墳	
8	高坏	口 径 17.3 底 径 10.6 器 高 11.8	無蓋高环。以降中位に2条の凸縫があり、凸縫下に波状文(6条1組)あり。 台形状の透かしを3方向に穿つ。 完形品。	①回転ナデ ②回転ヘラケズリ/2 ③回転カキメナデ ④回転カキメナデ	回転ナデ 回転ナデ 回転カキメナデ 回転カキメナデ	青灰色 赤褐色	密 ◎	4号墳	
9	壺	口 径 14.7 器 高 25.7	広口壺。口縁部は上方に拡張。 球形の胴部。底部は丸底。 ほぼ完形品。	①回転ナデ ②回転カキメ ③回転カキメ ④格子印	回転ナデ 回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	4号墳	

出土遺物観察表

東野お茶屋台古墳出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
10	壺	口 径 15.4 器 高 23.5	広口壺。口縁端部は上方に拡張。頸部に3条の凸線と波状文(8条1組)あり。	①回転ナデ ②回転カキメ ③輪郭が丸い凹印 ④桔子叩き	⑤回転ナデ ⑥輪郭内叩き ⑦窓心内叩き	褐色 褐色	密 ◎	4号墳	
11	壺	口 径 15.7 器 高 24.1	広口壺。口縁端部は下方に拡張。頸部に沈線1条と波状文(8条1組)あり。波状文。	②回転ナデ ③回転カキメ・窓子叩き ④桔子叩き	⑧回転ナデ ⑨窓心内叩き ⑩窓心内叩き	灰色 灰色	密 ◎	4号墳	
12	高壺	口 径 (11.0) 底 径 7.2 器 高 25.0	無蓋高壺。环帶下部に剥离焼付文が放射状に現れる。脚部に長方形状の透かしを3方向に穿つ(透かし上部は木質部)。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色 青灰色	密 ◎	9号墳	
13	壺	口 径 17.1 器 高 25.0	無蓋高壺。环帶下部に剥離焼付文(8条1組)。脚部に3方向に穿つ(透かし上部は木質部)。	②回転ナデ ③窓心内叩き ④斜格子叩き	⑤回転ナデ ⑥輪ナデ ⑦叩き(無文)	黄灰色 青灰色	密 ◎	9号墳	
14	器台	口 径 (37.6) 底 径 (30.6) 器 高 35.6	非陶色系須恵器。口部に1条の山帯があり。波状文3段(10条1組・6条1組×2)。肩部に沈線2条。完形成。	⑧回転ナデ ⑨平行叩き ⑩回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	9号墳	
15	器台 残 高	19.4	台部上端に割目窓1条あり。沈線3条と波状文3段あり。径1.7cm人の両孔2ヶと三角形透かし3ヶを有す。	⑪桔子叩き・カキメ ⑫回転ナデ	⑬窓心内叩き ⑭回転ナデ	灰色 灰黄色	密 ◎	10号墳	

表5 煙寺竹ヶ谷古墳出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
16	坏身	身 (10.3) 残 高 3.5	たちあがりは内傾し、端部に沈線状の凹みあり。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	1号墳	
17	坏身	身 (10.1) 残 高 5.1	たちあがりは内傾し、端部に沈線状の凹みあり。	②回転ナデ ③回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	1号墳	
18	壺	口 径 (11.6) 残 高 11.5	口部に波状文(4条1組・8条1組)、肩部に2条の沈線と径1.5cm大の孔あり。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎	1号墳	
19	壺	口 径 (16.0) 残 高 6.0	口部は外反し、口縁部は上方に拡張。口縁端直下に1条の凸線あり。	②回転ナデ ③回転カキメ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	1号墳	
20	壺	身 (2.9) 口 径 (13.0) 器 高 6.0	有蓋高壺。蓋。つまみ中央部は突出。斜面3角形の窓がある。口縁端部は内傾。	④回転ヘラケズリ ⑤回転ナデ ⑥回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	2号墳	
21	壺	口 径 (10.7) 残 高 3.9	口縁部横に1条の凸線あり。頭部に波状文(6条1組)。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰褐色	密 ◎	2号墳	
22	壺	残 高 6.8	扁錐形の肩部。肩上部に回転カキメ調整後、波状文(4条1組)を施す。径1.2cm大の孔あり。	⑦回転カキメ ⑧回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 褐色	密 ◎	2号墳	
23	壺	口 径 (15.2) 残 高 4.9	外傾する口腹部。口縁端部は上下方に拡張。頭部に2条の凸線と波状文2段(8条1組)あり。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 青灰色	密 ◎	2号墳	

桑原地区の古墳出土資料

表6 煙寺竹ヶ谷古墳出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	回版
				外 面	内 面				
24	壺	口 径(19.2) 残 高 4.0	口縁端部は上方に弧張。 腹部に沈線2条と波状文(12条1組)。	回転ナデ	回転ナデ 窓打叩き	青灰色 暗灰色	青 ○	2号墳	
25	甕	残 高 7.1	頭部に沈線2条。	⑤回転ナデ 窓打叩き	⑤回転ナデ 窓打叩き	青灰色 青灰色	青 ○	2号墳	
26	器台	残 高 6.4	口縁端部は上下方に弧張。 2条の凸線と凸線の上にそれぞれ 1段と3段以上の波状文あり。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰褐色	青 ○	2号墳	
27	蓋	つぶ群 2.5 残 高 2.2	有蓋凸坏の蓋。つまり中央部は凹む。	⑤回転ナデ ⑤回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	青 ○	5号墳	
28	高坏	底 径 (8.5) 残 高 3.5	脚割部に1条の凸線が通る。 三角形状の透かしを看取。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	青 (長1) 青 ○	5号墳	
29	壺	口 径(20.8) 残 高 5.3	広口壺。口縁端部は上方に弧張し、 口縁部下に1条の凸線あり。腹部に カタツメ溝捺兼波状文(12条1組) を施す。	⑤回転ナデ ⑤回転カキメ	回転ナデ	暗灰色 灰白色	青 ○	5号墳	
30	壺	口 径(19.4) 残 高 2.8	素陶色系復原器。口縁部は内傾し、 口縁端部は曲をもつ。腹部に断面三 角形の凸筋あり。小片。	回転ナデ ⑤部・回転カキメ	回転ナデ	灰色 灰白色	青 ○	5号墳	
31	壺	口 径(19.4) 残 高 8.0	広口壺。口縁部は外反し、口縁部下 に1条の凸線あり。	⑤回転ナデ ⑤回転カキメ	回転ナデ	灰色 青灰色	青 ○	7号墳	
32	蓋	つぶ群 3.0 口 径 11.7 器 高 5.7	有蓋高坏の蓋。つまり中央部はやや 突出。口縁端部は内傾する。1/2の残 高。	⑤回転ナデ ⑤窓打ヘラケズリ/2 ⑤回転ナデ	⑤ナデ ⑤回転ナデ	青灰色 青灰色	青 ○	9号墳	
33	高坏	底 径 (9.7) 高 度 10.5 器 高 9.0	たちあがり端部は内傾し、沈線状の 凹みあり。脚部に合形状の透かしを 3方向に穿つ。	⑤回転ナデ ⑤窓打ヘラケズリ/2 ⑤回転ナデ	⑤回転ナデ ⑤窓打ヘラケズリ/2 ⑤回転ナデ	青灰色 青灰色	青 ○	9号墳	
34	甕	口 径(12.0) 残 高 2.9	口縁端部は内傾する凹面をなす。1 条の凸線と凸線の上下に波状文(6 条1組)を施す。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰白色	青 ○	9号墳	
35	壺	口 径(10.2) 器 高 7.0	短頭壺。口縁部は直立し、腹部は丸 い。瘤突形の脚部。	⑤回転ナデ ⑤回転カキメ ⑤回転ヘラケズリ	⑤回転ナデ ⑤回転ナデ ⑤ナデ	青灰色 青灰色	青 ○	9号墳	
36	壺	口 径(19.9) 残 高 4.7	口縁部は下方に弧張。 腹部に1条の凸線と波状文あり。	回転ナデ	回転ナデ	褐色 暗黄色	青 ○	9号墳	

表6 煙寺6号墳出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	回版
				外 面	内 面				
37	甕	残 高 8.7	腹部は外反し、颈部と肩部の境に窓 をもつ。	⑤回転ナデ ⑤平行叩き	⑤回転ナデ ⑤窓心円叩き	灰 灰色	青 ○	墳丘	

出土遺物観察表

畠寺6号墳出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
38	壺	器 高 7.5	颈部に1条の沈線あり。沈線の上下に波状文(8条1組)を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	埴丘	
39	器台	器 高 5.2	2条の沈線があり、沈線の上下に波状文を施す。長方形状の透かしを2個有する。	回転ナデ	回転ナデ・ハケメ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	埴丘	
40	壺	口 径(24.5) 残 高 5.2	口縁端部は上下方に笠張。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	周溝	
41	壺	口 径(12.3) 残 高 2.2	口縁端部は内側する凹面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ◎	レンチ	

表7 溝辺1号墳出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
42	高壺	口 径 8.6 底 径 7.2 器 高 9.7	無蓋高壺。坏部中央に段をもつ。三角形状の透かしを1段3方向に孕む。	⑩回転ナデ ⑪回転カキメ	回転ナデ	灰褐色 灰褐色	密 ◎	1号石室	
43	高壺	口 径 9.4 底 径 8.0 器 高 10.4	無蓋高壺。坏部に2箇所段をもつ。三角形状の透かしを1段、3方向に孕む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	1号石室	
44	壺	口 径 12.6 器 高 4.2	短腹壺の蓋。天井部と口縁部横に棱あり。口縁端部は内傾。	⑫回転ヘラケズリ2 ⑬回転ナデ	回転ナデ	黄灰色 黄灰色	密 ◎	1号石室	
45	壺	口 径 9.7 器 高 8.0	短腹壺。口縁部は強く内傾し、端部は丸い。底部は平底。	⑭回転ナデ ⑮回転カキメ ⑯回転ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰色 黄灰色	心・長(1~5) ◎	1号石室	
46	壺	口 径 11.2 器 高 14.5	広口壺。口縁部は外反し、口縁端部は上方に笠張。底部は丸底。	⑰回転ナデ ⑱回転ナデ ⑲平行叩き	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~4) ◎	1号石室	
47	壺	口 径 14.6 器 高 18.4	広口壺。口縁部は外反し、口縁端部は外張する凹面をもつ。底部は丸底。	⑳回転ナデ ㉑平行叩き→ナデ ㉒平行叩き	⑳回転ナデ ㉑内張叩き ㉒内弧叩き→ナデ	青灰色 青灰色	心・長(1~4) ◎	1号石室	
48	壺	口 径 13.7 器 高 39.2	装飾台付蓋持壺。2頭の小獸と6個の小竜あり。	㉓回転ナデ ㉔格子叩き ㉕回転ナデ	回転ナデ・ナデ	灰色 灰色	密 ◎	1号石室	
49	壺	口 径 11.8 器 高 5.0	短腹壺の蓋。口縁端部は内傾する凹面をもつ。	㉖回転ヘラケズリ2 ㉗回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	2号石室	
50	壺	口 径 8.0 器 高 14.0	短腹壺。口縁部は直立し、口縁端部は丸い。底部は丸底。	㉘回転ナデ ㉙平行叩き ㉚ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	2号石室	
51	壺	口 径 10.2 器 高 20.7	広口壺。口縁部は外反し、口縁部内面に棱をもつ。底部は平底。	㉛回転ナデ ㉜回転カキメ ㉝回転ナデ	回転ナデ (指揮者)	青灰色 青灰色	密 ◎	2号石室	

溝辺1号墳出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
52	坏蓋	口 径(12.3) 器 高 4.1	丸みのある鋸面三角形状の後あり。 口縁端部は内傾。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密○	済	
53	高坏	口径 9.4 残 高 4.8	有蓋高坏の环部。たちあがり端部は内傾。	②回転ナデ (回転ヘラケリ)11	回転ナデ	灰色 茶色	密○	済	
54	臺	口 径(11.4) 残 高 4.7	堤頭部。口縁部は直立する。 口縁端部は内傾。	④回転ナデ (巻回転カキメ)	回転ナデ	灰色 灰色	密○	済	
55	臺	口 径(16.3) 残 高 5.5	広口臺。新認は外傾し、口縁部は短く外反する。	⑤回転ナデ (巻回転カキメ)	回転ナデ	灰色 灰色	密○	済	
56	臺	口 径(16.5) 残 高 4.2	広口臺。口縁部は外反し、口縁端部は上方に拵張。頭部に1条の沈線と流状文(12条1組)。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密○	済	
57	臺	口 径(19.2) 残 高 6.0	広口臺。口縁部は外反し、口縁端部は上方に拵張。頭部に3条の凸線と波状文(6条1組)。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密○	済	
58	臺	口 径(29.4) 残 高 7.8	口縁部は外反し、口縁端部は下方に拵張。頭部に2条の凸線と波状文2段(12条1組)。	回転ナデ	ナデ	灰色 茶色	密○	済	

第14章 調査の成果と課題

本調査では、古墳時代から近・現代の遺構と、弥生時代から近・現代の遺物を確認した。遺構は、古墳3基、土坑墓1基、貯水池1基を検出した。今回の調査は、東野中村遺跡では初の調査である。

(1) 土層

調査地南側は、昭和後半期に調査地の東に道路が建設され、その際の掘削土が造成土として堆積していた(第Ⅰ層)。この工事によって、南側調査区は大規模な地形の変化が生じている。

調査の結果、調査地内の土層形成時期は、第Ⅰ層が昭和期の造成土、第Ⅱ層は工事前の表土、第Ⅲ層は近現代坑を覆っているので、近現代の堆積土となる。第Ⅳ層は古墳盛土の下で検出されていることから、6世紀までに堆積したものになる。第Ⅴ層は無遺物層で、岩盤の風化土である。なお、全体には検出されていないが、C区第Ⅳ層の下で間層A(第18図)を確認している。遺物が出土していないため、時期は特定できないが、調査区内で弥生時代遺物が出土していることから、弥生時代中～後期の堆積土の可能性をもっている。

(2) 弥生時代

弥生時代の遺構は検出されなかったが、古墳時代の遺構や土層から遺物が出土している。また、C区の南壁では、古墳築造前に黒褐色土(第18図A)が堆積し、弥生時代集落の存在を示す資料を確認した。

土器は、B区3号墳から鉢形土器1点、C区2号墳から壺形土器1点が図化できるものであった。鉢形土器2は形状より後期、壺形土器4は頸部に突窓をもつことより中期に時期比定できる。周辺の東野お茶屋台遺跡や畠守竹ヶ谷古墳では、弥生時代の遺構・遺物が検出されており、丘陵上に集落が形成されていたことが推察できる。

(3) 古墳時代

遺構：古墳3基(1～3号墳)は、墳丘は削平されていたが、周溝と石室の一部を検出するにいたった。古墳はいずれも円墳の横穴式石室と推定され、丘陵の南斜面に数基が配置していることから、群集墳をなしているものとみられる。一方、丘陵の北斜面には、古墳の形跡が全くなかった。

石室は墓坑を掘り、構築されるもので、玄室の石は下部の三～四段部が墓坑内にあることになる。石は塊石を使用していた。最も残りのよい2号墳では、床面の構造がわずかに知られた。床面は、基盤面を平坦にした後、扁平な石を敷き、その上に玉石が置かれることになる。

遺物：2号墳の石室からは、装身具が3点出土している。

耳環は分析を行い、銅管の中空構造で、薄金が使用されていることが判明した。詳細は、第11章を参照していただきたい。耳環は、松山平野では230例余り出土しており、本書では松山市埋蔵文化財センター保管品について一覧を作成し、資料の収集を試みた。調査は継続して行うが、中空構造をもつ耳環は、平野出土例としては11例目で、希少な資料であることが判明した。

トンボ玉も松山平野では出土例は少なく、科学分析を含め、今後継続して類例調査を行いたい。共歓土器は石室と周溝から出土した。石室出土品は全てが小片で、器種や時期が判明するものは3点にとどまった。2号墳の周溝からは中型の甕が出土し、墳丘上もしくは周溝内での祭祀の一端がうかがえた。

ところで、東野・畠寺の丘陵地には古墳群が多数形成されており、それ等の古墳との関係を求めるために、第13章「桑原地区の古墳出土資料」を掲載した。資料化に時間がかかり、今回は充分に比較検討できなかったが、東野中畦古墳群は、桑原地区の古墳群のなかでは、新しい時期に形成された一群と位置付けされる。

(4) 古代

A区土坑墓1の甕形土器は、掘え置かれた状況で検出され、甕の中からは焼けた骨の細片が出土した。性別・年令等はわからなかった。土坑墓1は、甕形土器の時期が定まらないが、古墳の時期より新しくなるものと思われ、松山平野では数少ない古代墓例となる。

以上、桑原地区における東野中畦古墳群の位置付けを目的に類例調査を進め、調査の結果を報告してきた。桑原地区の古墳は、その存在や調査事例があるにもかかわらず、評価が定まらない状況にある。今後は、これ等の資料化を進め、古墳群やそれ等を造営した集落の評価をしていきたい。

写 真 写 版

写真図版例言

1. 遺構の撮影は、調査担当者及び大西朋子がおこなった。

なお、バルーン使用撮影は、(株)アイシン調査設計による。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパー・アンギュロン 90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67 55mm他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール 28~85mm
フィルム	プラスXパン・ネオパンSS・エクタクロームEPP・フジカラーネガフィルム		

2. 土器棺内調査の撮影は、山本健一がおこない、他の遺物の撮影は、大西がおこなった。

使用機材：

カメラ	ニコンニューFF2	レンズ	マイクロニッコール105mm
	トヨ/ビュ-45G		ジンマーS240mm
ストロボ	コメット/C A-32・C B2400 (パンク使用)		
スタンド他	トヨ/無影撮影台・ウエイトスタンド101		
フィルム	フジカラーネガフィルム・プラスXパン・フジRAP・コダックダイナ100		

3. 白黒写真的現像と焼き付けは、一部を除いて大西がおこなった。

使用機材：

引伸機	ラッキー450MD	レンズ	エル・ニッコール135mm
	ラッキー90MD		エル・ニッコール50mm
印画紙	インフォールドマルチグレードIVRC		
フィルム現像剤	コダックD-76・HC110		

[参考] 『埋文写真研究』 Vol. 1 ~11

(大西 朋子)



1 調査地全景（東より）

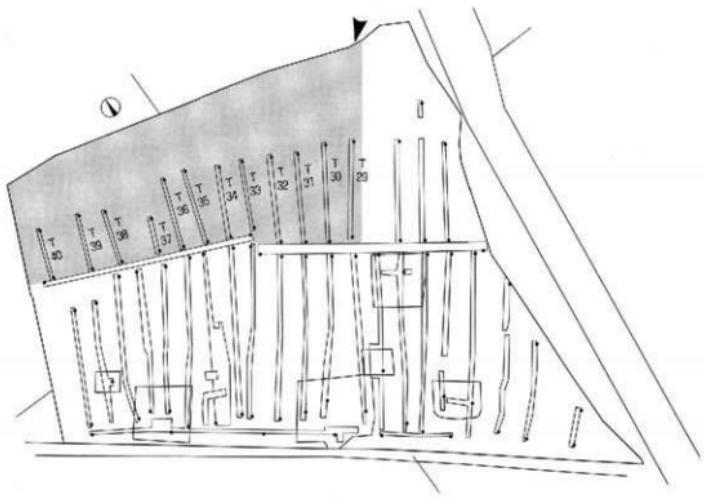
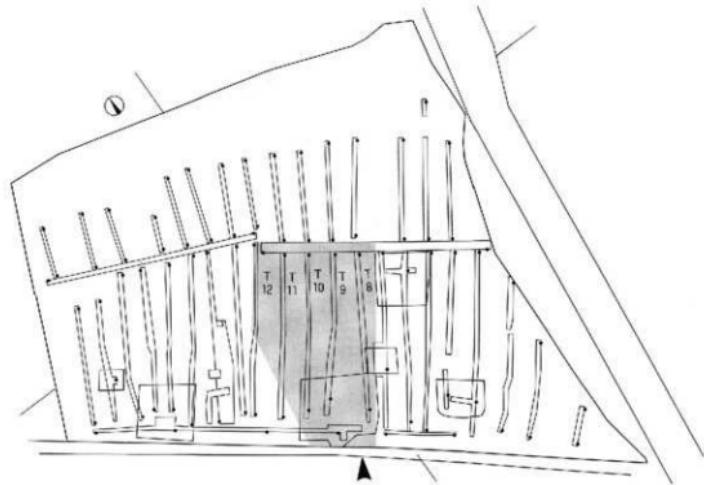




1 調査前全景(1) (東南より)



2 調査前全景(2) (北西より)

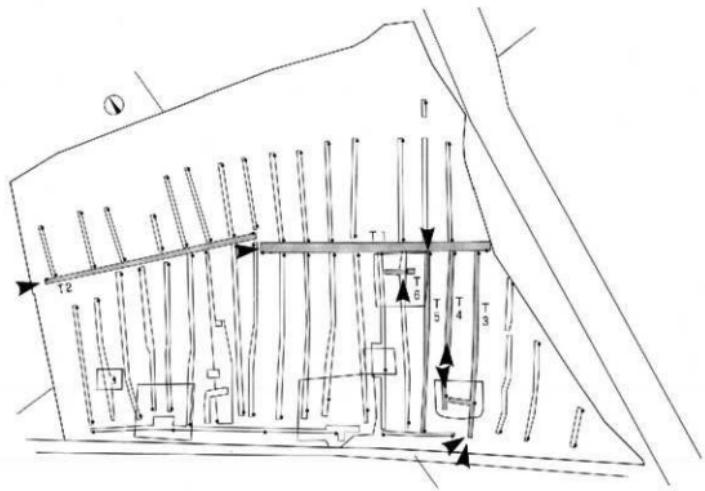




1 試掘調査 (1) (東南より)



2 試掘調査 (2) (北東より)





1 T 1 完掘状況（西より）



2 T 2 完掘状況（西より）



3 T 3 完掘状況（南西より）



4 T 3 石列検出状況（南より）



5 T 4 完掘状況(1)（南より）



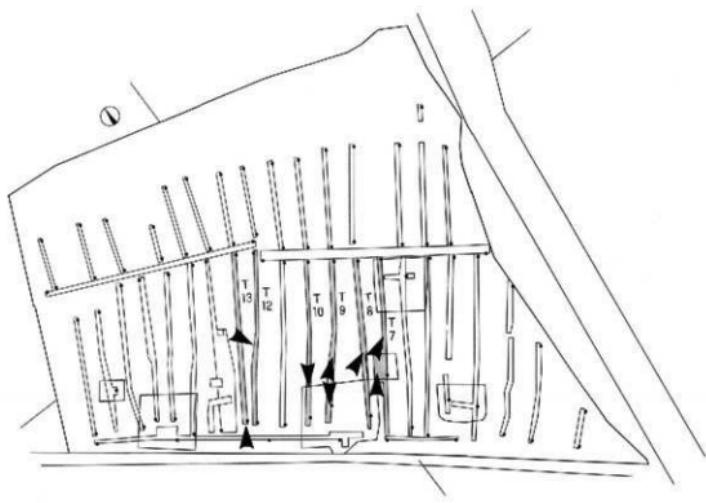
6 T 4 完掘状況(2)（北より）



7 T 5 完掘状況（北より）



8 T 6 石列検出状況（南より）





1 T 7 完掘状況（南西より）



2 T 7 石列検出状況（南より）



3 T 8 完掘状況（南西より）



4 T 9 完掘状況（南西より）



5 T 9 完掘状況（北西より）



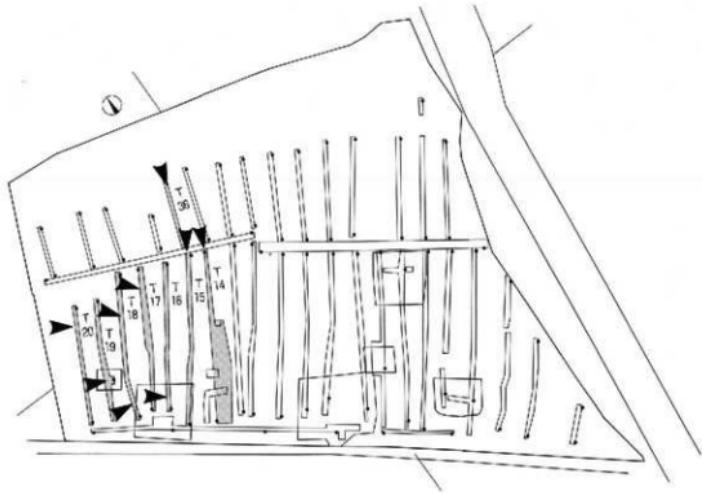
6 T 10 完掘状況（北より）



7 T 12 完掘状況（西より）



8 T 13 完掘状況（北より）





1 T 14 完掘状況（北西より）



2 T 15 完掘状況（北より）



3 T 16 完掘状況（西より）



4 T 17 完掘状況（西より）



5 T 18 完掘状況(1)（西より）



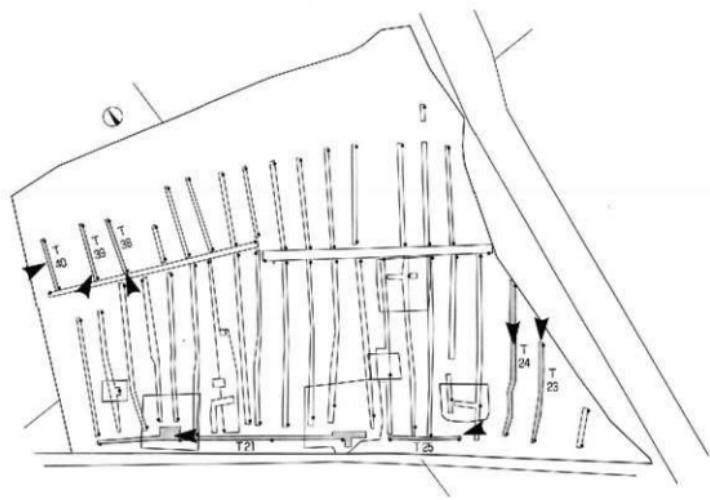
6 T 18 完掘状況(2)（北西より）



7 T 19 遺物出土状況（西より）



8 T 20 完掘状況（西より）





1 T 21 完掘状況（東より）



2 T 21 石列検出状況（西より）



3 T 23 完掘状況（北より）



4 T 24 完掘状況（北より）



5 T 25 完掘状況（東より）



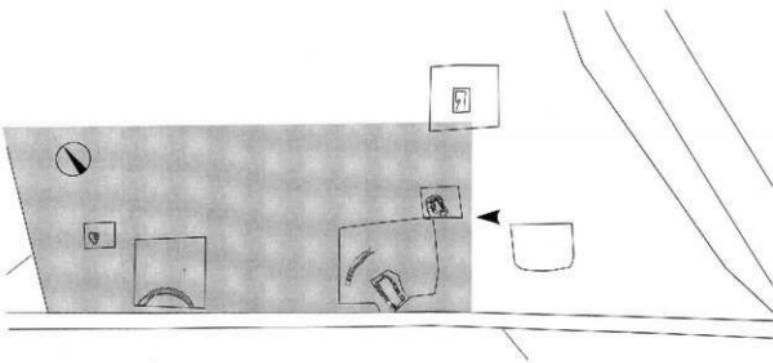
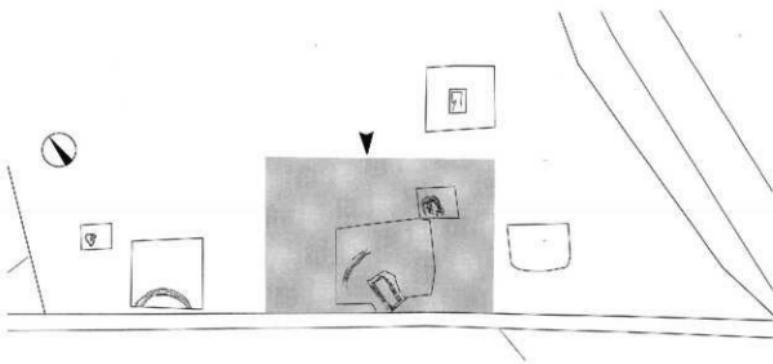
6 T 38 完掘状況（南より）



7 T 39 完掘状況（南西より）



8 T 40 完掘状況（西より）

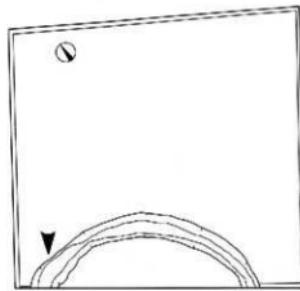
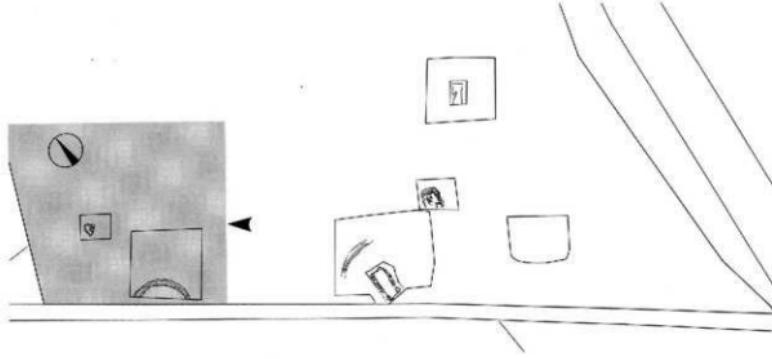




1 本格調査（北より）



2 完掘状況（東より）

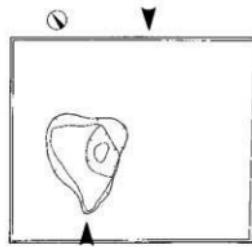




1 挖削状況（東より）



2 B区土層（北より）

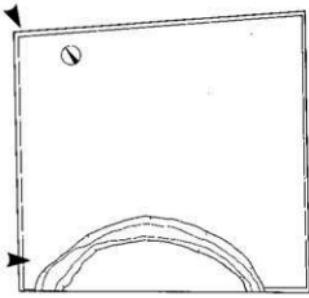




1 A区発掘状況（北より）



2 A区SK1発掘状況（南より）

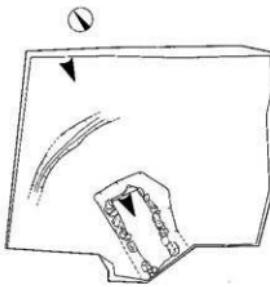


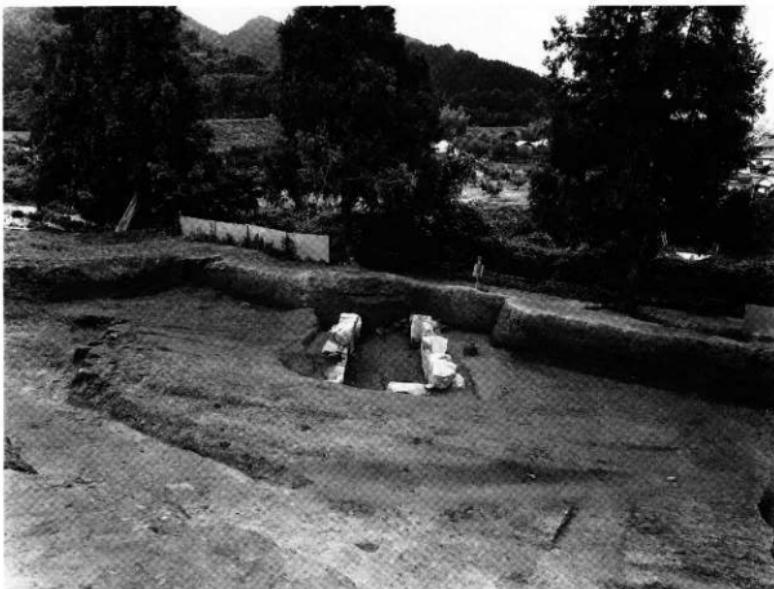


1 B区完掘状況（北より）



2 B区3号墳周清完掘状況（西より）

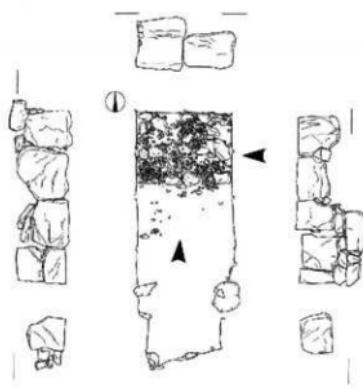




1 C区2号墳完掘状況（北より）



2 C区南壁土層（北より）

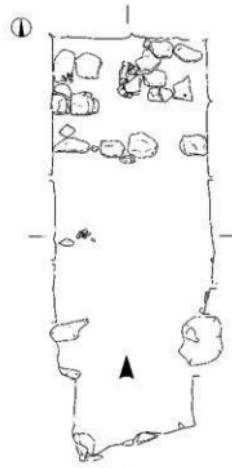




1 C区2号墳石室内玉石・敷石検出状況（南より）



2 C区2号墳石室内遺物出土状況（東より）

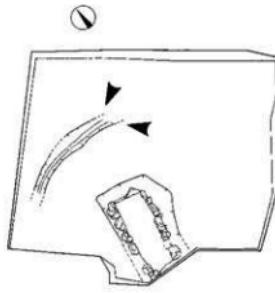




1 C区2号墳石室内敷石検出状況（南より）



2 C区2号墳石室内完掘状況（南より）

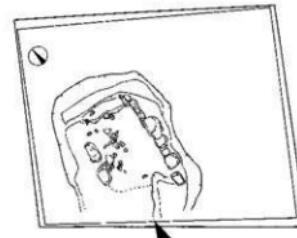
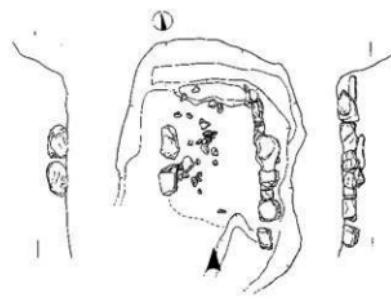




1 C区2号墳周溝内遺物出土状況（北東より）



2 C区2号墳周溝完掘状況（東より）



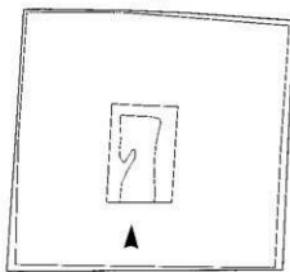


1 E区1号墳石室内崩落石検出状況（南より）



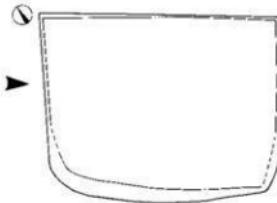
2 E区1号墳完掘状況（南より）

◎



▲

◎





1 D区遺構検出状況（南より）



2 F区発掘状況（北より）



1 A区SK1出土遗物

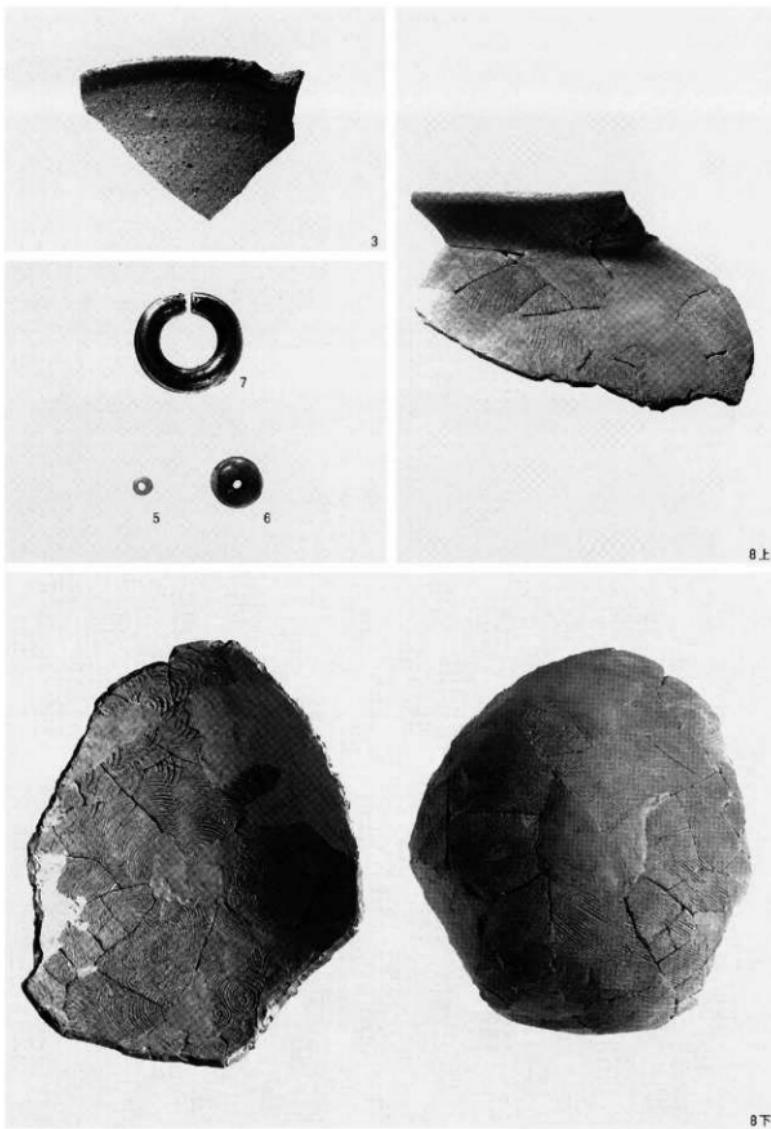


2 B区出土遗物

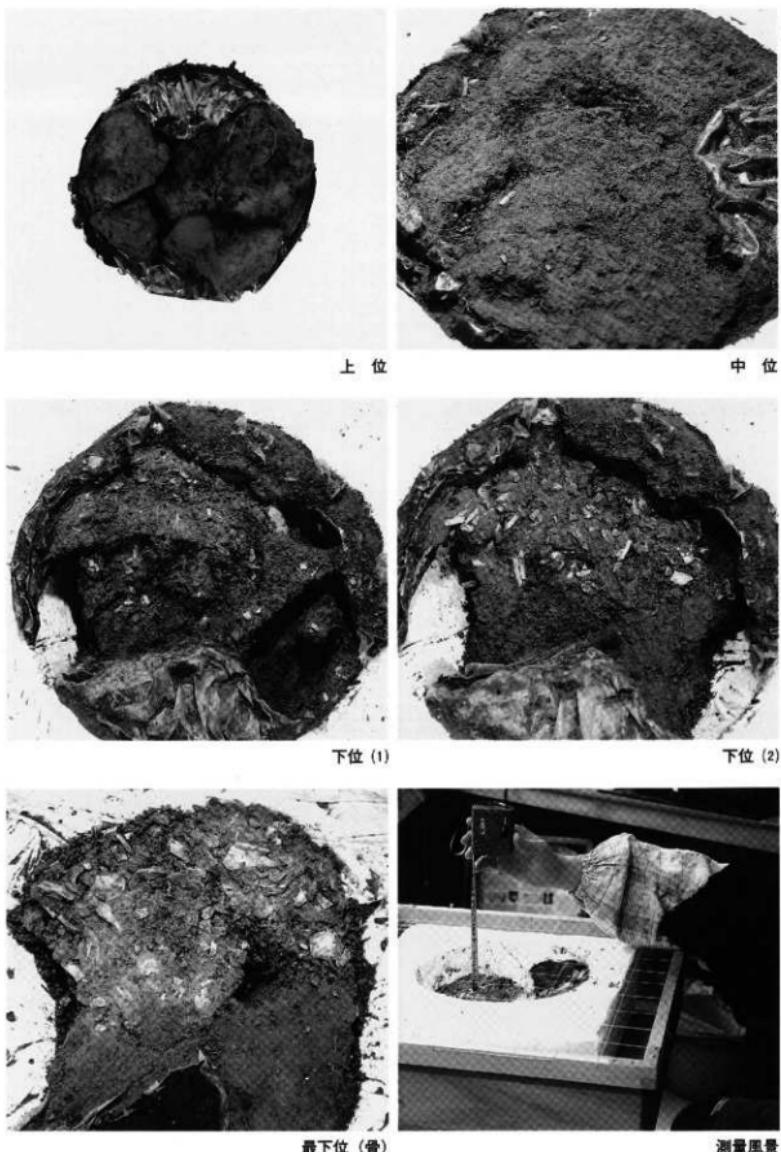


11

3 出土地点不明遗物



1 C区2号墳出土遺物（石室内：3・5～7、周溝：8）



1 1号土器棺内出土遺物(骨)

報告書抄録

ふりがな	ひがしのなかあぜいせき
書名	東野中畦遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第82集
編著者名	水本完児・梅木謙一・宮内慎一・大西朋子
編集機関	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	市教委:〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL 089-948-6605 埋文:〒791-8032 松山市南斎院町乙67-6 TEL 089-923-6363
発行年月日	西暦2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市町村 遺跡番号	北 緯 。 。	東 經 。 。	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
ひがしのなかあぜいせき 東野中畦遺跡	まつやましきの 松山市東野三丁目	38201	33°50'23"	132°48'44"	19990401～ 19990930	7,347.8	上水道 配水池

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
東野中畦遺跡	弥生 墳墓	古墳	古墳	弥生土器・石器 須恵器・土師器 耳環・トンボ玉 ガラス玉	
	古代	土器棺墓		壺形土器	

松山市文化財調査報告書 第82集

東野中畦遺跡

平成13年3月31日 発行

編集 松山市教育委員会

発行 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1
TEL (089) 948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

〒791-8032 松山市南斎院町乙67番6
TEL (089) 923-6363

印刷 岡田印刷株式会社

〒790-0012 松山市湊町7丁目1-8
TEL (089) 941-9111
